

# 学校教育専修

開設科目	学校教育総合研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村正登他				

●**授業の概要** わが国の学校教育の諸問題を教育学、障害児教育、幼児教育の各分野から総合的に考察し、今後の課題について検討する。／**検索キーワード** 学校、教育

●**授業の一般目標** (1) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育についての概要と課題を理解する。(2) 障害児教育や障害児心理についての概要と課題を理解する。(3) 幼児教育についての概要と課題を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育についての概要と課題が理解できる。**思考・判断の観点**：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する思考力や判断力を高めることができる。**関心・意欲の観点**：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する関心や意欲を高めることができる。**態度の観点**：1. 日常生活の中で学校教育の諸問題について主体的に考えることができる。

●**授業の計画(全体)** 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育の各分野を専門の教員が分担して授業する。

●**授業計画(授業単位)**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと教育哲学
- 第 2 回 項目 教育哲学
- 第 3 回 項目 教育史
- 第 4 回 項目 教育史
- 第 5 回 項目 教育方法学
- 第 6 回 項目 教育方法学
- 第 7 回 項目 教育社会学
- 第 8 回 項目 教育社会学
- 第 9 回 項目 教育制度
- 第 10 回 項目 教育制度
- 第 11 回 項目 障害児教育
- 第 12 回 項目 障害児教育
- 第 13 回 項目 幼児教育
- 第 14 回 項目 幼児教育
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法(総合)** 各授業担当の教員が評価したものを総合して平均値を出す。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。各教員がプリント等を準備する。／参考書：使用しない。

●**メッセージ** 授業には欠席しないようにして下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 各授業担当の教員

開設科目	学校教育総合研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊・他				

●**授業の概要** 我が国の学校教育の諸問題について、各担当教官の専門領域の観点から、現代の研究動向を踏まえて、総合的に検討する。／**検索キーワード** 学校教育、心理学、教育相談

●**授業の一般目標** 各担当教官がそれぞれの立場で論じる今日の学校教育の諸問題に関して、理解を深め、自己の観点に立って検討・消化する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 発達心理学の観点から 内容 堂野 佐俊 授業外指示 レポート
- 第 2 回 項目 社会心理学の観点から (I) 内容 熊谷 信順
- 第 3 回 項目 社会心理学の観点から (II) 内容 熊谷 信順 授業外指示 レポート
- 第 4 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 大石 英史
- 第 5 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 大石 英史 授業外指示 レポート
- 第 6 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 木谷 秀勝
- 第 7 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 木谷 秀勝 授業外指示 レポート
- 第 8 回 項目 教育心理学の観点から (I) 内容 田邊 敏明
- 第 9 回 項目 教育心理学の観点から (II) 内容 田邊 敏明 授業外指示 レポート
- 第 10 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 恒吉 徹三
- 第 11 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 恒吉 徹三 授業外指示 レポート
- 第 12 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 名島 潤慈
- 第 13 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 名島 潤慈 授業外指示 レポート
- 第 14 回 項目 学習心理学の観点から (I) 内容 福田 廣
- 第 15 回 項目 学習心理学の観点から (II) 内容 福田 廣 授業外指示 レポート

●**成績評価方法（総合）** 各担当教官により、提出されたレポートの評価を中心に、全体としての評価を算出する。

●**教科書・参考書** 教科書：特に指定されたものはなし。／参考書：その都度指示されます。

●**メッセージ** 「学校教育総合研究：II」は、心理学関係の教官が担当します。

●**連絡先・オフィスアワー** 各担当教官の研究室

開設科目	教育哲学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

●**授業の概要** シュプラランガーの生涯と教育哲学について学習し、理解を深める。特にシュプラランガーの教育哲学を構成する要素を分析した上で、それらが体系的にどのように構築されているのかについて考察する、また、教育学の固有性がどのような点にあるのかについても理解を深め、教育の本質的な意味について探究する。／**検索キーワード** シュプラランガー、教育哲学、教育学の固有性

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 シュプラランガーの生涯（1）
- 第2回 項目 シュプラランガーの生涯（2）
- 第3回 項目 シュプラランガーの生涯（3）
- 第4回 項目 シュプラランガーの生涯（4）
- 第5回 項目 シュプラランガーの生涯（6）
- 第6回 項目 シュプラランガーの生涯（7）
- 第7回 項目 シュプラランガー教育学の哲学的構造（1）
- 第8回 項目 シュプラランガー教育学の哲学的構造（2）
- 第9回 項目 シュプラランガー教育学の哲学的構造（3）
- 第10回 項目 シュプラランガー教育学の哲学的構造（4）
- 第11回 項目 教育学の自律と固有性（1）
- 第12回 項目 教育学の自律と固有性（2）
- 第13回 項目 教育学の自律と固有性（3）
- 第14回 項目 教育学の自律と固有性（4）
- 第15回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 教科書：シュプラランガーの教育学・倫理学・宗教学に関する研究、山崎英則・西村正登、日本教育研究センター、1998年

●**メッセージ** 授業ではレポーターを決めて毎時間発表してもらいます。レポーターはテキスト以外の関連文献もよく調べてプリントにまとめて下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	教育哲学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

●**授業の概要** シュプランガーの教育の3つの概念について学び、教育の本質について考察する。また、学校教育の方法原理について学習し、理解する。さらに、シュプランガーの教員養成論の形成過程とその内容をプロイセン文部省や教員連盟との政治的な関係の中で把握し、近代ドイツ教員養成史の中に位置づけながら、その意義と限界について考察する。／**検索キーワード** シュプランガー、教育の3つの概念、学校教育の方法原理、教員養成論

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念（1）
- 第2回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念（2）
- 第3回 項目 シュプランガーの教育の3つの概念（3）
- 第4回 項目 学校教育の方法原理（1）
- 第5回 項目 学校教育の方法原理（2）
- 第6回 項目 学校教育の方法原理（3）
- 第7回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程（1）
- 第8回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程（2）
- 第9回 項目 シュプランガーにおける教員養成論の形成過程（3）
- 第10回 項目 シュプランガーの教員養成論（1）
- 第11回 項目 シュプランガーの教員養成論（2）
- 第12回 項目 シュプランガーの教員養成論（3）
- 第13回 項目 シュプランガーの教員養成論（4）
- 第14回 項目 シュプランガーの教員養成論（5）
- 第15回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 教科書：シュプランガーの教育学・倫理学・宗教学に関する研究、山崎英則・西村正登、日本教育研究センター、1998年

●**メッセージ** 毎時間レポーターにまとめて発表してもらいますので、発表する内容に関連した文献もよく調べておいて下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	教育史特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

●**授業の概要** 古代から現代までを視野におき、日本の現代教育の諸問題との関連を踏まえ、特に近代の教育の歴史的展開を考える。文献講読。／**検索キーワード** 日本教育、近代、歴史的展開

●**授業の一般目標** 日本の教育の歴史的構造・展開を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本の教育の歴史的構造・展開が説明できる。**思考・判断の観点**：授業で取り上げた問題について、自分の考えをわかりやすく論理的に説明できる。**関心・意欲の観点**：教育問題を歴史的に考察しようとする。**態度の観点**：教育について継続的に考え議論を積み上げることができる。

●**授業の計画（全体）** 文献を講読する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業の目標、進め方、テキストの指定、評価方法

第2回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第3回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第4回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第5回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第6回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第7回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第8回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第9回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第10回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第11回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第12回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第13回 **授業外指示** テキストの予習 **授業記録** レジюме

第14回 **項目** まとめ **授業記録** レジюме

第15回 **項目** 予備

●**成績評価方法（総合）** 毎回の発表内容を評価する。欠席回数が授業実施回数の3分の1以上に及んだ場合は単位は認められない。

●**教科書・参考書** 教科書：第1回目の授業で指定する。

開設科目	教育史特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

- 授業の概要** 日本の近代公教育の特質を明らかにし、現代との連続・非連続の問題を考える。／**検索キーワード** 日本近代公教育
- 授業の一般目標** 日本の近代公教育の特質についての深い理解を得る。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本の近代公教育の特質について説明できる。
- 教科書・参考書** 教科書：第1回目の授業で指示する。

開設科目	教育メディア特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

- 授業の概要** 教授・学習過程（授業）において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について学修する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を学習する。
- 授業の一般目標** 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」授業づくりにおける教育メディアの意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より探究する。具体的な項目は以下の通りである。1. 教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2. 授業の分析（数量的、質的）ができる 3. プレゼンテーション技術（表現伝達）について改善できる
- 授業の計画（全体）** 授業（コミュニケーション）における教育メディアの意義や役割を習得した上で、主にプレゼンテーション技術の習得をめざした自己表現伝達技術の設計・実施・評価を行う。このプロセスを通してメディア利用の教材開発手法、プレゼンテーション訓練方法（マイクロプレゼンテーション）、評価方法・内容について習得する。
- 成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート，宿題／授業外レポート，発表（プレゼン）や授業内での製作作業，出席等を総合して評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術，林徳治，ぎょうせい，2000年；情報教育の理論と実践，林徳治・宮田仁，実教出版，2002年
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階



開設科目	教育メディア特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

●**授業の概要** プリント教材、OHP、ビデオ、パソコンなどさまざまな教材教具としての教育メディアを活用した教材開発やプレゼンテーション技術（表現伝達能力）の演習を通して実践力を習得する。プレゼンテーションの訓練法としてマイクロプレゼンテーションを実施する。さらにパソコンを利用したマルチメディア教材の開発やホームページによる遠隔学習用Web教材の作成を行う。

●**授業の一般目標** 1. パソコンなど各種教育メディアを活用した教材作成ができる 2. 自己表現術としての効果的なプレゼンテーションができる 3. インターネットを利用したWeb学習を体験し、遠隔学習の特徴を理解できる 4. 遠隔講義を体験し、その特性を理解できる

●**授業の計画（全体）** 1. プレゼンテーション技術について 2. マイクロプレゼンテーションの設計-実施-評価演習 3. 遠隔講義の計画-実施-評価 4. パソコンなど各種教育メディアを活用した教材作成演習

●**成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート，宿題／授業外レポート，発表（プレゼン）や授業内での製作作業，出席等を総合して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術，林徳治，ぎょうせい，2000年；情報教育の理論と実践，林徳治・宮田仁，実教出版，2002年

●**メッセージ** 本科目は、教育メディア特論を履修した者が望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@deu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	教育方法学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

●**授業の概要** 近年の教育方法学研究に関する文献を購読し、受講者全員でディスカッションする。話題提供のため受講者は輪番でレポートする。

●**授業の一般目標** 現代教育方法学の研究動向と課題について理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 学習した内容を的確に表現できる。 **思考・判断の観点**： 1. 学習した内容を論理的に整理できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 教育方法学の諸課題について関心を広げる。 **態度の観点**： 1. 討論において積極的に発言できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 目標・ねらい、授業方法、評価方法等について説明する。

第2回 **項目** 文献読解1

第3回 **項目** 文献読解2

第4回 **項目** 文献読解3

第5回 **項目** 文献読解4

第6回 **項目** 文献読解5

第7回 **項目** 文献読解6

第8回 **項目** 文献読解7

第9回 **項目** 文献読解8

第10回 **項目** 文献読解9

第11回 **項目** 文献読解10

第12回 **項目** 文献読解11

第13回 **項目** 文献読解12

第14回 **項目** 文献読解13 **授業外指示** 報告集作成のための資料作り。

第15回 **項目** まとめ **内容** 報告集作成。

●**成績評価方法（総合）** レポート内容、発表意欲・態度等を総合的に判断する。

●**教科書・参考書** 教科書：未定、

●**メッセージ** 事前の学習と講義中の発言がなにより大切です。積極的な取組を期待します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部3F 電話:083-933-5452 メール:ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:火曜日10:00~12:00

開設科目	教育方法学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

●**授業の概要** 現代教育方法学の諸対象の中から受講者自身が設定したテーマについて資料収集・調査等を行い、レポート及びディスカッションする。

●**授業の一般目標** 設定したテーマを追求することを通して教育方法学的研究力量を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 学習内容について説明できる。**思考・判断の観点**：1. 学習内容を自己の視点で論理的に整理できる。**関心・意欲の観点**：1. 教育方法学研究の動向と今日的課題について関心を広げる。**態度の観点**：1. 提示された課題に対して意欲的に発言できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 受講者によるレポート・討論1
- 第3回 項目 受講者によるレポート・討論2
- 第4回 項目 受講者によるレポート・討論3
- 第5回 項目 受講者によるレポート・討論4
- 第6回 項目 受講者によるレポート・討論5
- 第7回 項目 受講者によるレポート・討論6
- 第8回 項目 中間まとめ
- 第9回 項目 受講者によるレポート・討論7
- 第10回 項目 受講者によるレポート・討論8
- 第11回 項目 受講者によるレポート・討論9
- 第12回 項目 受講者によるレポート・討論10
- 第13回 項目 受講者によるレポート・討論11
- 第14回 項目 受講者によるレポート・討論12
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。欠席が3分の1を超えた場合には単位認定を行わない。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部3F 電話:083-933-5452 メール:ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	教育制度特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

●**授業の概要** 教育制度について、毎回指定文献（和文・英文）をすべての参加者が読んできて議論する。主にアメリカと日本の学校を取り扱う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 日本の学校の特徴1
- 第3回 項目 日本の学校の特徴2
- 第4回 項目 日本の組織の特徴1
- 第5回 項目 日本の組織の特徴2
- 第6回 項目 義務教育制度1
- 第7回 項目 義務教育制度2
- 第8回 項目 学校選択制度1
- 第9回 項目 学校選択制度2
- 第10回 項目 学校選択制度3
- 第11回 項目 学校評価制度1
- 第12回 項目 学校評価制度2
- 第13回 項目 まとめ1
- 第14回 項目 まとめ2
- 第15回 項目 まとめ3

●**メッセージ** 授業の詳細については、第1回目の授業（オリエンテーション）で詳しく伝える。相当量の予習を前提としている。

開設科目	教育制度特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

●**授業の概要** 教育制度について、各自調査研究を行い発表する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション、テーマの検討
- 第2回 項目 テーマの決定、調査研究の方法検討
- 第3回 項目 調査方法の決定・スケジュールリング
- 第4回 項目 報告と討議
- 第5回 項目 報告と討議
- 第6回 項目 報告と討議
- 第7回 項目 中間まとめ
- 第8回 項目 報告と討議
- 第9回 項目 報告と討議
- 第10回 項目 報告と討議
- 第11回 項目 プレゼンテーション準備
- 第12回 項目 プレゼンテーション準備
- 第13回 項目 プレゼンテーション準備
- 第14回 項目 発表
- 第15回 項目 反省

●**メッセージ** 授業の詳細については、第1回目の授業（オリエンテーション）で詳しく伝える。調査研究・発表というひとつのプロジェクトを遂行する意志がある者を受講者として想定している。

開設科目	教育社会学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中理絵				

●**授業の概要** 現実の教育現象および教育問題に関して、受講者の興味関心に従ってテーマを設定し、文献講読を行う。／**検索キーワード** 教育問題

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション 内容 担当教員紹介、講義内容の説明、分担決めなど
- 第2回 項目 演習（1）
- 第3回 項目 演習（2）
- 第4回 項目 演習（3）
- 第5回 項目 演習（4）
- 第6回 項目 演習（5）
- 第7回 項目 演習（6）
- 第8回 項目 演習（7）
- 第9回 項目 演習（8）
- 第10回 項目 演習（9）
- 第11回 項目 演習（10）
- 第12回 項目 演習（11）
- 第13回 項目 演習（12）
- 第14回 項目 演習（13）
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** (1) 演習中の発表、質疑応答の様子と (2) 課題を総合的に評価する。

●**メッセージ** 大学院の授業ですので、テーマに関わる文献を自主的に講読し、独自に調査して発表する意欲が欲しい。

●**連絡先・オフィスアワー** ta-na@yamaguchi-u.ac.jp, phone & fax : 933-5442, 研究室：教育学部3階教育社会学研究室, オフィスアワー：水曜の10:30-12:30

開設科目	教育社会学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

●**授業の概要** 現実の教育現象および教育問題に関して、受講者の興味関心に従ってテーマを設定し、文献講読を行う。／**検索キーワード** 教育問題

●**メッセージ** 大学院の授業ですので、テーマに関わる文献を自主的に講読し、独自に調査して発表する意欲が欲しい。

開設科目	社会教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田代直人				

●**授業の概要** 生涯学習の観点から、社会教育の各分野等の課題を中心に説明し、問題提起をする。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 生涯学習の提唱と 発展をめぐる課題
- 第3回 項目 生涯学習推進の背景をめぐる課題
- 第4回 項目 生涯学習の概念をめぐり課題
- 第5回 項目 社会教育の概念をめぐり課題
- 第6回 項目 少年教育の課題
- 第7回 項目 青年教育の課題
- 第8回 項目 成人教育の課題
- 第9回 項目 高齢者教育の課題
- 第10回 項目 職業能力開発の課題
- 第11回 項目 社会体育の課題
- 第12回 項目 社会教育施設の課題
- 第13回 項目 社会教育計画の課題
- 第14回 項目 社会教育行政の課題
- 第15回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 教科書：社会教育の理論と実践、田代直人編著、樹村房、1994年



開設科目	社会教育特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田代直人				

●**授業の概要** 生涯学習の観点から、社会教育の今日的な重要課題に関してテーマを設定し、検討する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 テーマの設定 (1)
- 第2回 項目 テーマの設定 (2)
- 第3回 項目 レポートと検討 (1)
- 第4回 項目 レポートと検討 (2)
- 第5回 項目 レポートと検討 (3)
- 第6回 項目 レポートと検討 (4)
- 第7回 項目 レポートと検討 (5)
- 第8回 項目 レポートと検討 (6)
- 第9回 項目 レポートと検討 (6)
- 第10回 項目 レポートと検討 (7)
- 第11回 項目 レポートと検討 (8)
- 第12回 項目 レポートと検討 (9)
- 第13回 項目 レポートと検討 (10)
- 第14回 項目 まとめ (1)
- 第15回 項目 まとめ (2)

開設科目	国際理解教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

●**授業の概要** 国際理解教育の用語、歴史、理念、含まれる事項、実践事例等について講義する。文献やビデオ、エクササイズを用いて受講者が批判的思考ができるように支援する。／**検索キーワード** 国際理解教育、ユネスコ、異文化理解

●**授業の一般目標** 国際理解教育の理念や誕生の背景、現状について知る。メディアが伝える他文化に関する情報に対して、批判的な視点をもって判断をできる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国際理解教育についての知識を広げる。国際理解教育の複雑さについて理解する。地球システムの中にいる自分を認識する。**思考・判断の観点**：国際理解教育について自分の意見をもつことができる。批判的思考ができる。**関心・意欲の観点**：国際理解教育の視点をもって自分の生活スタイルに関心をもってみつめなおす。授業で紹介された事例以外にも自分で関心のある分野を発展的に研究する。**態度の観点**：ユネスコの提唱する「平和の文化」に参加しようとする態度をもつ。**技能・表現の観点**：討議に参加し、自分の意見を論理的に述べるができる。自分の関心のあるテーマを見つけ、調査し、レポートにまとめることができる。

●**授業の計画（全体）** 国際理解教育とは、定まった定義があるのではなく、時代や場所によって様々な変遷をとげるものだというところを、文献や映像を通して学ぶ。また、自分もその変遷の中にいる参加者だという自己認識を、討議やエクササイズを通して高める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 国際理解教育とは何か **内容** 授業説明 国際理解教育に関連のある概念
- 第2回 **項目** 国際理解教育という概念の形成 **内容** 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第3回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第4回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第5回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1960年代の社会背景
- 第6回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1970年代の時代背景と1974年国際教育勧告
- 第7回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1974年勧告後の各国の実践努力
- 第8回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1980年代ブルントラント委員会
- 第9回 **項目** 1990年代から現在 **内容** 1990年代の社会背景
- 第10回 **項目** 1990年代から現在 **内容** コソボの学校
- 第11回 **項目** 1990年代の教育政策 **内容** ノルウェー、イギリス、日本の例
- 第12回 **項目** マスメディアと国際理解教育 **内容** ルワンダでの虐殺
- 第13回 **項目** マスメディアと国際理解教育 **内容** 日本の事例 映画の例
- 第14回 **項目** マスメディアと国際理解教育 **内容** 映画の例
- 第15回 **項目** まとめ

●**成績評価方法（総合）** 中間および期末のレポートによる

●**教科書・参考書** 教科書：プリント等を使用／参考書：異文化コミュニケーション教育、青木順子、溪水社、1999年；国際理解教育、永井滋郎、第一学習社、1989年；イギリスのグローバル教育、木村一子、勁草書房、2001年；南北問題と開発教育、田中治彦、亜紀書房、1994年

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部2階200-（1）室 オフィスアワーは初回授業時に伝達

開設科目	国際理解教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

- 授業の概要** 前期で学んだ国際理解教育の基本的な知識をさらに深めるべく受講者の学習を支援する。／**検索キーワード** 国際理解教育
- 授業の一般目標** 国際理解教育の理念や実践についての知識を深め、自分自身の意見を持つことができる。国際理解教育に含まれるテーマのうち、自分の関心のあるものについて、理解を深める。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国際理解教育とは何かを理解できる 国際理解教育のうち特定の分野についての知識を広げる。**思考・判断の観点**：国際理解教育とよばれる分野の複雑さの背景を自分の意見として述べられる。批判的な思考ができる。**関心・意欲の観点**：自分の関心のあるテーマを調べ、意見を述べるができる。**態度の観点**：自分を他者との相対関係の中で見ようとする態度を持つ。**技能・表現の観点**：自分の意見を論理的に記述することができる。
- 授業の計画（全体）** 文献を批判的に読むことによって、ユネスコの国際理解教育に関する理解を深める。
- 成績評価方法（総合）** 学期末のレポートによる
- 教科書・参考書** 教科書：初回授業に指示
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部2回200－(1) オフィスアワーは初回授業に伝達

開設科目	障害児教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

●**授業の概要** 特殊教育諸学校（養護学校）並びに小学校・中学校の特殊学級に在籍する障害児への教育の意義、教育史、制度、教育課程等について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の高度な融合をはかる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 障害児教育の歴史的経緯（古代～中世）
- 第2回 項目 障害児教育の歴史的経緯（近代～現代）
- 第3回 項目 J.Piajet の発達理論に基づく障害児の成長・発達
- 第4回 項目 成長・発達と環境との交互作用
- 第5回 項目 児童思想の歴史と人間観
- 第6回 項目 教育の原理としての「個に応じた指導」
- 第7回 項目 教師と社会～アンケート結果の分析～
- 第8回 項目 教師の資質
- 第9回 項目 児童の一生を見通した指導観の確立
- 第10回 項目 「生活単元学習」の理念と教育実践
- 第11回 項目 「総合的な学習の時間」の理念と教育実践
- 第12回 項目 「交流学习」の理念と教育実践
- 第13回 項目 学校教育終了後の人生を見通した指導
- 第14回 項目 障害児教育界の先人の実践～近藤益雄～
- 第15回 項目 （予備）

開設科目	障害児教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田信夫				

●**授業の概要** 受講者がこれまで主体的に関心をもち、あるいは学校教育現場等で取り組み続けてきた内容に関する専門的文献（例「特殊教育学研究」「発達障害研究」「教育心理学研究」等）をもとに、その内容を詳細に発表し、全員で討論する。この学習活動を通し、障害児への教育的指導の具体について演習する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 自閉性障害を伴う子どもの相互作用成立要因に関する分析的研究（発表例）
- 第2回 項目 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒への教育的対応（発表例）
- 第3回 項目 自閉症児におけるまなざしからの心の読みとり（発表例）
- 第4回 項目 注意欠陥・多動性障害及びその疑いのある児童生徒に関する調査
- 第5回 項目 自閉症児における共感獲得表現助詞「ね」の使用の欠如：事例研究（発表例）
- 第6回 項目 多動性障害と診断された小学校1年生男児の入院治療（発表例）
- 第7回 項目 言語・コミュニケーションの発達と心の理解（発表例）
- 第8回 項目 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ（発表例）
- 第9回 項目 発達障害児のコミュニケーション指導における情動的交流遊びの役割（発表例）
- 第10回 項目 注意欠陥・多動性障害への教育的アプローチ（発表例）
- 第11回 項目 自閉症幼児における鏡像認知（発表例）
- 第12回 項目 重症児施設訪問教育における集団指導の効果（発表例）
- 第13回 項目 ある重度精神遅滞を伴う自閉症者の就労後の発達的変容（発表例）
- 第14回 項目 重症心身障害者の期待に「ゆらし」刺激が及ぼす影響（発表例）
- 第15回 項目 （予備）

開設科目	障害児指導法特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田信夫				

●**授業の概要** 養護学校、特殊学級、通常学校（学級）における指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の望ましいあり方について、その今日的課題と今後の展望を含めつつ講義する。なお、指導事例や取り組みの内容については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との高度な融合をはかる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（1）～言語指導法の変遷～
- 第2回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（2）～言語の特質～
- 第3回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（3）～文脈と理解～
- 第4回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（4）～文脈の習得と言語の習得～
- 第5回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（5）～一般幼児の言語発達のプロセス～
- 第6回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（6）～障害児学級における指導（1）～
- 第7回 項目 障害児へのコミュニケーション指導（7）～障害児学級における指導（2）～
- 第8回 項目 個別の指導計画（1）～歴史的経緯～
- 第9回 項目 個別の指導計画（2）～事例の分析～
- 第10回 項目 総合的な学習の時間（1）～歴史的経緯～
- 第11回 項目 総合的な学習の時間（2）～事例の分析（一般学級）～
- 第12回 項目 総合的な学習の時間（3）～事例の分析（障害児学級）～
- 第13回 項目 学習障害児等への指導（1）～学習障害児等への指導の必要性～
- 第14回 項目 学習障害児等への指導（2）～事例の分析～
- 第15回 項目 （予備）

開設科目	障害児職業指導特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	川間健之介				

●**授業の概要** 障害児の進路選択や職業指導についての基本的考え方について概説し、具体的な課題を取り上げ考察する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 障害児の進路をめぐる課題
- 第2回 項目 特別支援教育1
- 第3回 項目 特別支援教育2
- 第4回 項目 地域での障害者支援1
- 第5回 項目 地域での障害者支援2
- 第6回 項目 学校教育における職業指導1
- 第7回 項目 学校教育における職業指導(2)
- 第8回 項目 職業リハビリテーション1
- 第9回 項目 職業リハビリテーション2
- 第10回 項目 障害者雇用に関わる諸施策
- 第11回 項目 事業所等における課題
- 第12回 項目 地域福祉に関わる諸施策
- 第13回 項目 障害者の自立1
- 第14回 項目 障害者の自立2
- 第15回 項目 障害児者の職業指導の課題

開設科目	障害児心理学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	川間健之介				

●**授業の概要** 障害児の心理について、発達心理学的観点から概論し、発達を促す様々な指導方法について考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 障害児の発達
- 第 2 回 項目 発達における障 害の影響
- 第 3 回 項目 認知発達指導法 (1)
- 第 4 回 項目 認知発達指導法 (2)
- 第 5 回 項目 認知発達指導法 (3)
- 第 6 回 項目 応用行動分析 (1)
- 第 7 回 項目 応用行動分析 (2)
- 第 8 回 項目 応用行動分析 (3)
- 第 9 回 項目 TEACCH プログラ ム (1)
- 第 10 回 項目 TEACCH プログラ ム (2)
- 第 11 回 項目 動作法 (1)
- 第 12 回 項目 動作法 (2)
- 第 13 回 項目 動作法 (3)
- 第 14 回 項目 インリアルアプ ローチ、受容交 流法等
- 第 15 回 項目 障害児の発達指 導をめぐる課題



開設科目	障害児心理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	川間健之介				

●**授業の概要** 障害児心理学特論 I を踏まえて、障害児の発達指導に関わる文献を講読する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (1)
- 第 2 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (2)
- 第 3 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (3)
- 第 4 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (4)
- 第 5 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (5)
- 第 6 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (6)
- 第 7 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (7)
- 第 8 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (8)
- 第 9 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (9)
- 第 10 回 項目 障害児の発達指導に関する文献 講読 (10)
- 第 11 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (1)
- 第 12 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (2)
- 第 13 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (3)
- 第 14 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (4)
- 第 15 回 項目 障害児の発達指導に関する事例 検討 (5)

開設科目	障害児心理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	障害児臨床心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	幼児教育方法特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	桑原昭徳				

- 授業の概要** 近代以降現代に至るまでの我が国の幼児教育の歴史と方法を概観し、倉橋惣三の業績を中心に子どもの接し方や環境構成、保育の形態等の幼児の教育方法を論じる

開設科目	幼児教育方法特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	桑原昭徳				

- 授業の概要** 幼児との接し方、幼児の自主性と指導のあるべき姿、指導の原理と原則、幼児教育と小学校の連携、幼児教育と生活科の関連等の具体的な問題について演習する。

開設科目	幼児教育思想特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	荘司泰弘				

●**授業の概要** 幼児教育学の思想家（ルソー、ペスタロッチー、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー）を紹介する／**検索キーワード** 幼児教育 思想史

●**授業の一般目標** 児童を指導することを基準にした教育学と、幼児を発見学習者としてとらえ、援助するという方法を採用した幼児教育学の違いを理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 幼児教育の各思想家の主旨を説明できる。**思考・判断の観点**：1. 援助を基準に思想を分析できる。**関心・意欲の観点**：1. 児童と幼児の質的差異をふまえ、問題意識を高めることができる。**態度の観点**：1. わからないことは積極的に質問できる。**技能・表現の観点**：1. 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業は、基本的に各幼児教育思想家の思想と時代背景の解説という形式で進行する。教育学から幼児教育が分かれた理由を考察し、分析するために、毎回授業中に質問し、口答で自分の理解度を示してもらおう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** ルソーの思想と時代背景 **内容** ルソーが『エミール』で表明した自然による教育シュトルム・ウント・ドランク主義を解説し、彼の性善説の提唱が教育学との岐路となったことを説明する。
- 第2回 **項目** ルソーの幼児教育思想の影響 **内容** ルソーが思想の基礎とした性善説と自然哲学観が子どもの人権に光を投げかけ、人間教育の原点として、ペスタロッチー、フレーベルへと受け継がれたことを解説する。
- 第3回 **項目** ペスタロッチーの思想と時代背景 **内容** ペスタロッチーが『隠者の夕暮れ』で表明した人間性を踏みにじられている子ども達への同情と彼の教育実践とクラシーク主義を解説し、彼の提唱した居間の教育を分析する。
- 第4回 **項目** ペスタロッチーの幼児教育思想の影響 **内容** ペスタロッチーの小学校教育に限界を感じたフレーベルが児童とは質的に異なる幼児の教育に向かうために彼と袂を分かった経緯を解説し、人間教育への展開を分析する。
- 第5回 **項目** フレーベルの思想と時代背景 **内容** フレーベルの創始したキンダーガルテン(子どもの園)の思想とロマン主義を解説し、幼児教育のルーツとなった『人間教育』と『幼稚園教育学』に記された発想を分析する。
- 第6回 **項目** 子どもの園と教育遊具 **内容** フレーベルの「子どもの園」の内容と彼の教育遊具を解説し、フレーベルの情操保育と創造性の関係を分析する。
- 第7回 **項目** 幼稚園教育学の伝搬と誤謬 **内容** ペスタロッチーより受け継がれた人間教育の発想が、宗教改革によるプロテスタント思想と結びつき、キリスト教保育という分野に展開したことを解説する。
- 第8回 **項目** フレーベルの幼児教育思想の影響 **内容** 幼児教育施設としての「子どもの園」が世界中に展開する経緯を解説し、ルソーから受け継がれてきた自然哲学観がモンテッソーリによって自然科学観に置き代わっていく経緯を分析する。
- 第9回 **項目** モンテッソーリの思想と時代背景 **内容** 「準備された環境における自由の保障」といわれる彼女のメソッドを解説し、フレーベルの援助思想を科学的に展開した経緯を解説し、フレーベルの人間による援助と彼女の環境による援助の差異を分析する。
- 第10回 **項目** 子どもの家と教具 **内容** フレーベルの教育遊具とモンテッソーリ教具、フレーベルの「子どもの園」とモンテッソーリの「子どもの家」を比較し、モンテッソーリの思想を解説する。

- 第11回 **項目** モンテッソーリの幼児教育思想の影響 **内容** ヘッドスタート やセサミストリートなどの早期教育の基準としてモンテッソーリメソッドが用いられたことを解説し、知的保育と自由の関係进行分析する。
- 第12回 **項目** シュタイナーの思想と時代背景 **内容** フレーベルの後継者としてヴァルドルフ学校を創設した経緯と思想を解説し、フレーベルのロマン主義が人智学を基に組み替えられた感覚教育进行分析する。
- 第13回 **項目** シュタイナーの幼児教育施設 **内容** モンテッソーリの知的早期教育の対角線上に、シュタイナーの情操的早期教育が位置している現状を解説し、早教育の問題进行分析する。
- 第14回 **項目** まとめ **内容** 幼児教育思想家の思想を連続して確認し、現在の幼児教育への軌跡进行分析する。
- 第15回 **項目** まとめ **内容** 現在の幼児教育施設と制度を解説し、幼児教育思想家の発想の再確認と展開の可能性进行分析する。

●**成績評価方法(総合)** 1. 授業の開始時に毎回、出席状況表を提示し、記入して提出する。 2. 授業時に毎回質問し、理解度を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：学生からの質問に応じ、適宜参考文献を指示する。／参考書：幼児教育思想家の代表的著書を紹介し、読み方の視点を指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	幼児臨床心理特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

●**授業の概要** 幼児期におけるカウンセリングマインドの必要性およびその意義について講義する。／**検索キーワード** 幼児, 臨床心理学, カウンセリング, カウンセリングマインド

●**授業の一般目標** 幼児教育（学校教育）におけるカウンセリングマインドの必要性について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 幼児期の保育臨床に関する諸課題を説明することができる。 **関心・意欲の観点**： 他者との討議に積極的に参加することができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 **授業記録** レジюме
- 第2回 **項目** 保育における心理臨床の今日的課題（1） **授業記録** レジюме
- 第3回 **項目** 保育における心理臨床の今日的課題（2） **授業記録** レジюме
- 第4回 **項目** カウンセリングの理論と方法（1） **授業記録** レジюме
- 第5回 **項目** カウンセリングの理論と方法（2） **授業記録** レジюме
- 第6回 **項目** カウンセリングの理論と方法（3） **授業記録** レジюме
- 第7回 **項目** 保育におけるカウンセリングの実際（1） **授業記録** レジюме
- 第8回 **項目** 保育におけるカウンセリングの実際（2） **授業記録** レジюме
- 第9回 **項目** 保育におけるカウンセリングの実際（3） **授業記録** レジюме
- 第10回 **項目** 保護者に対するカウンセリング的アプローチ（1） **授業記録** レジюме
- 第11回 **項目** 保護者に対するカウンセリング的アプローチ（2） **授業記録** レジюме
- 第12回 **項目** 保育とカウンセリングマインド（1） **授業記録** レジюме
- 第13回 **項目** 保育とカウンセリングマインド（2） **授業記録** レジюме
- 第14回 **項目** 保育とカウンセリングマインド（3） **授業記録** レジюме
- 第15回 **項目** まとめ **授業記録** レジюме

●**成績評価方法（総合）** 出席、授業への参加、および学期末のレポートをもとに総合的に評価する。

●**メッセージ** 幼児期の子どもに関心のある方の受講を望みます。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時



開設科目	幼児臨床心理特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

●**授業の概要** 乳幼児期の発達等に関する論文を購読し、討議することを通して、乳幼児の実態や研究方法等について検討する。／**検索キーワード** 幼児，臨床心理学，演習

●**授業の一般目標** 乳幼児期の実態および研究方法について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：乳幼児期に実態について説明することができる。**関心・意欲の観点**：他者との討議に積極的に参加することができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバスの説明、成績評価の方法 **授業記録** レジユメ

第2回 **項目** 文献購読（1）

第3回 **項目** 文献購読（2）

第4回 **項目** 文献購読（3）

第5回 **項目** 文献購読（4）

第6回 **項目** 文献購読（5）

第7回 **項目** 実験・調査の方法（1）

第8回 **項目** 実験・調査の方法（2）

第9回 **項目** 実験・調査の計画

第10回 **項目** 実験・調査の実施（1）

第11回 **項目** 実験・調査の実施（2）

第12回 **項目** 実験・調査の分析（1）

第13回 **項目** 実験・調査の分析（2）

第14回 **項目** 実験・調査の分析（3）

第15回 **項目** まとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席、授業でも質疑応答、論文のプレゼンテーション等をもとに総合的に評価する。

●**メッセージ** 幼児期の子どもを理解したい方の受講を望みます。前期に「幼児臨床心理特論」を履修し、単位を取得していること。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	保育内容特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	荘司泰弘				

●**授業の概要** 環境による教育という幼児教育の発想を講義し、実際に保育参加することで確認する。／**検索キーワード** 保育内容 保育参加

●**授業の一般目標** 1. 援助の実際を体験し、幼児教育を理解する。 2. 発見学習環境の調整に興味・関心を持つ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 環境や援助活動を分析する視点を深める。 **思考・判断の観点**：1. 子どもを中心に考察し、自分の見解を論理的に述べる力を身につける。 **関心・意欲の観点**：1. 発見学習環境への関心を深め、援助の発想を身につける。 **態度の観点**：1. 積極的に講義や保育参加に取り組むことができる。 **技能・表現の観点**：1. 考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業は講義の後、3回保育参加をする形式で進行する。各論として、環境による教育を確認し、発見学習活動の援助を確認し、保育者の資質を確認する。まとめとして、保育環境の調整の視点を確認する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 環境による教育 **内容** 各論として、幼児教育を概説し、幼児教育は、指導（命令・干渉・制限）しない教育であるから、保育者は裏方として後方に引き、環境が前面に出て、幼児に働きかけるように配慮されていることを解説する。また、保育参加の方法を支持する。
- 第2回 **項目** 保育参加(1) **内容** 朝から昼まで保育参加し、子どもと一緒に遊びながら、環境構成をチェックする。
- 第3回 **項目** 保育参加(2) **内容** 20歳児として保育参加し、子どもとの関わりの中で発見学習環境をチェックする。
- 第4回 **項目** 保育参加(3) **内容** 保育の流れを理解して、異年齢児との交流を図り、異年齢児の交流環境のチェックをする。
- 第5回 **項目** 発見学習活動の援助 **内容** 各論として、発見学習を概説し、学習環境は幼児の内面の創造的活動衝動を引き出すことを主にしなくてはならないというキンダーガルテン（子どもの園）の創始者、フレーベルの発想を解説する。
- 第6回 **項目** 保育参加(4) **内容** 子どもの内面に内在する創造活動衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの創造活動をチェックする。
- 第7回 **項目** 保育参加(5) **内容** 子どもの造形衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの造形活動をチェックする。
- 第8回 **項目** 保育参加(6) **内容** 子どもの表現衝動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの表現活動をチェックする。
- 第9回 **項目** 保育者の資質 **内容** 各論として、教師と保育者の違いを概説し、「遊ぶ大人」として子どもと一緒に試行錯誤しながら活動する体験の積み重ねの意義を解説する。
- 第10回 **項目** 保育参加(7) **内容** 子どもが、必要とする時に必ず傍にいる保育者の活動に焦点を当て、保育参加しながら、保育者が保育の流れをどのようにはあくしているかをチェックする。
- 第11回 **項目** 保育参加(8) **内容** 子どもが、良い、悪い、と判断する活動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもの価値基準のゆらぎをチェックする。
- 第12回 **項目** 保育参加(9) **内容** 子どもが、試行錯誤しながら体験を積み重ねている活動に焦点を当て、保育参加しながら、子どもが示す創造的退行現象をチェックする。
- 第13回 **項目** 保育環境の調整 **内容** まとめとして、子どもが自由に自発的に自己の内面の創造性を表現する活動として遊びを理解し、楽しさにこだわって遊ぶことが保育環境の調整の基準になることを解説する。

第14回 **項目** まとめ **内容** 総まとめとして、フリーベルの教育遊具とモンテッソーリ教具を比較し、保育教材の視点を分析する。

第15回 **項目** まとめ **内容** 総まとめとして、現代の保育材の状況を概説し、保育材選定の基準を確認する。

●**成績評価方法(総合)** 1. 授業の開始時に毎回、出席状況表を提示し、記録して提出する。2. 講義や保育参加の中で、適宜質問し、理解度について評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：学生からの質問に応じ、適宜指示する。／参考書：学生からの質問に応じ、適宜読み方の視点を指示する。

●**メッセージ** 保育参加をお願いする園にあわせて時間帯を変更することがあります。

●**連絡先・オフィスアワー** メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	保育内容特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	荘司泰弘・桑原昭徳・白石敏行				
<p>●<b>授業の概要</b> 3人の教官によるオムニバス形式で保育内容について検討し、保育を論じる／<b>検索キーワード</b> 保育内容 特論演習</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 幼児教育、幼児心理の観点で保育内容を検討できる</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／<b>知識・理解の観点</b>：1. 幼児教育・幼児心理・保育内容の基礎知識を応用することができる <b>思考・判断の観点</b>：1. 幼児教育・幼児心理・保育内容の3観点で総合的に考察することができる</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第1回 <b>項目</b> 言葉を中心とした保育内容 その1</p> <p>第2回 <b>項目</b> 言葉を中心とした保育内容 その2</p> <p>第3回 <b>項目</b> 言葉を中心とした保育内容 その3</p> <p>第4回 <b>項目</b> 言葉を中心とした保育内容 その4</p> <p>第5回 <b>項目</b> フレーベル、子どもの園の紹介 <b>内容</b> 幼稚園の創始者フレーベルの思想と生涯を解説し、幼稚園の保育目的を確認する。</p> <p>第6回 <b>項目</b> フレーベル教育遊具の紹介と比較 <b>内容</b> 第1から第10までのフレーベル遊具を紹介し、作業具の概説をし、遊具と作業具でフレーベル教育遊具になることを確認する。</p> <p>第7回 <b>項目</b> モンテッソーリ、子どもの家の紹介 <b>内容</b> 子どもの家の創始者モンテッソーリの思想と生涯を解説し、子どもの家の保育目的を確認する。</p> <p>第8回 <b>項目</b> モンテッソーリ教具の紹介と比較 <b>内容</b> モンテッソーリ教具を紹介し、早期教育や障害児教育への応用を確認する。</p> <p>第9回 <b>項目</b> 幼児期の人間関係の発達と意義（1） <b>内容</b> 幼児期の友だち関係の発達過程</p> <p>第10回 <b>項目</b> 幼児期の人間関係の発達と意義（2） <b>内容</b> 幼児期の友だち関係とそれ以降の対人関係の影響</p> <p>第11回 <b>項目</b> 幼児期の人間関係の発達と意義（3） <b>内容</b> 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（1）</p> <p>第12回 <b>項目</b> 幼児期の人間関係の発達と意義（4） <b>内容</b> 友だち関係に問題をかかえた幼児に対する支援（2）</p> <p>第13回 <b>項目</b> まとめ（1）</p> <p>第14回 <b>項目</b> まとめ（2）</p> <p>第15回 <b>項目</b> まとめ（3）</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> 毎回授業の最初に出席調査票を配布し、出席状況を確認する。幼児教育・保育内容・幼児心理の各分野終了時にレポートを課す。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書：各分野において適宜指示する。／参考書：各分野において適宜指示する。</p> <p>●<b>連絡先・オフィスアワー</b> 荘司泰弘：083-9933-5443 E-mail：froebel@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：各担当者に問い合わせること</p>					

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登他				

●**授業の概要** 学校教育に関する諸問題を教育学、心理学、障害児教育、幼児教育、情報教育、国際理解教育等の観点から実践的に考察する。／**検索キーワード** 学校、教育、実践

●**授業の一般目標** (1) 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解する。(2) 学校教育の諸問題について関心を持ち、主体的に考えることができる。(3) 学校教育の諸問題を実践的な観点から研究する方法を学び、理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解できる。  
**思考・判断の観点**： 1. 学校教育の諸問題を実践的な観点から思考し、判断することができる。**関心・意欲の観点**： 1. 教育についての実践的な関心を広げ、問題意識を高めることができる。**態度の観点**： 1. 教育についての実践的な態度を養い、高めることができる。

●**成績評価方法(総合)** 各担当教員が評価したものを総合して平均値を出す。

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。各授業担当教員が準備する。／ 参考書： 使用しない。

●**メッセージ** 授業には欠席しないようにして下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 各授業担当の教員

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

- 授業の概要** 国際理解教育とは何かを、ユネスコ、日本のユネスコ協同学校の実践、学校教育政策との関連から学びます。また、関連する分野（グローバル教育、開発教育、ワールドスタディーズ、平和教育、人権教育）などとの関係も学びます。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐々木司				

●**授業の概要** 修士論文を指導する大学院生に対して、研究テーマの設定、研究方法の選択、関係先行研究のフォロー方法、論文執筆方法などを教える。

●**メッセージ** 第1回目の授業で概要を説明する。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	荘司泰弘				

●**授業の概要** 実際には、5月にテーマを決定する。以後、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／**検索キーワード** 大学院 修士論文

●**授業の一般目標** 1.各自が設定したテーマに関する不明な概念や発想を解明することができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1.引用参考文献データを比較し、自分の体験と結びつけて理解を深める。**思考・判断の観点**：1.子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。**関心・意欲の観点**：1.幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。**態度の観点**：1.わからない用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。**技能・表現の観点**：1.考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** ノートパソコンの調整 **内容** 各自のノートパソコンをネットで結ぶ。修士論文の様式のフォーマットを入力する。
- 第2回 **項目** インターネット 文献検索の仕方 **内容** インターネットで文献を検索したり、各機関の図書館の蔵書検索のし方を確認する。
- 第3回 **項目** 研究テーマを決める。 **内容** 各自のテーマが適切かどうかチェックし、決定する。
- 第4回 **項目** 章題と節題を調整する。 **内容** 各章題と各節題を決め、入力する。
- 第5回 **項目** 引用・参考文献 データを入力する。 **内容** 引用・参考文献を該当する各節に入力し、データ化する方法を指示する。
- 第6回 **項目** 引用・参考文献 データを入力する。 **内容** 引用・参考文献を該当する各節に入力し、データ化する。わからない概念や用語を解説する。
- 第7回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 入力した引用・参考文献に該当する各節ごとに自分の考えを入力し、データ化する。各節の小結論を決め、小結論に向けて論旨を整える。
- 第8回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第9回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第10回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第11回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第12回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第13回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第14回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

第15回 **項目** 自分の見解を入力する。**内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

●**成績評価方法 (総合)** 指導教官が口答で質問し、理解度を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：各自のテーマにそって数十冊指示する。／参考書：各自のテーマにそってインターネット検索し、数十件指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

●**授業の概要** 現代教育方法学の諸対象の中から、受講生各自が研究対象を設定し、資料収集・レポート等を行い受講生全員で検討・討議する。

●**授業の一般目標** 受講生各自が設定したテーマについて資料収集・精読・報告することを通して教育方法学研究の方法論を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 研究内容について説明できる。 **思考・判断の観点**：1. 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業方法、評価方法等について説明する。

第2回 **項目** 受講生のこれまでの学習・研究成果の報告（1）

第3回 **項目** 受講生のこれまでの学習・研究成果の報告（2）

第4回 **項目** 受講生のこれまでの学習・研究成果の報告（3）

第5回 **項目** 研究テーマの設定

第6回 **項目** 受講生による研究成果の報告（1）

第7回 **項目** 受講生による研究成果の報告（2）

第8回 **項目** 受講生による研究成果の報告（3）

第9回 **項目** 受講生による研究成果の報告（4）

第10回 **項目** 受講生による研究成果の報告（5）

第11回 **項目** 受講生による研究成果の報告（6）

第12回 **項目** 受講生による研究成果の報告（7）

第13回 **項目** 受講生による研究成果の報告（8）

第14回 **項目** 研究成果のまとめ（1）

第15回 **項目** 研究成果のまとめ（2）

●**成績評価方法（総合）** レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

●**メッセージ** 授業においては同じ研究者として対応します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部3F 電話:083-933-5452 メール:ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー:火曜日10:00~12:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

●**授業の概要** 修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／**検索キーワード** 幼児、保育、発達

●**授業の一般目標** 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。**関心・意欲の観点**：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べることができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 研究方法の検討

第8回 項目 研究方法の検討

第9回 項目 研究方法の検討

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 まとめ

第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●**メッセージ** 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

●**授業の概要** 修士論文の研究テーマを決め、研究に必要な文献調査を行い、主要な文献を解釈しながら読み進めていく。各自まとめたものを発表しながら討議し、教育哲学研究の方法を学ぶ。／**検索キーワード** 研究テーマ、文献調査、教育哲学研究

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 研究テーマの設定（1）
- 第 2 回 項目 研究テーマの設定（2）
- 第 3 回 項目 文献調査（1）
- 第 4 回 項目 文献調査（2）
- 第 5 回 項目 研究発表と討議（1）
- 第 6 回 項目 研究発表と討議（2）
- 第 7 回 項目 研究発表と討議（3）
- 第 8 回 項目 研究発表と討議（4）
- 第 9 回 項目 研究発表と討議（5）
- 第 10 回 項目 研究発表と討議（6）
- 第 11 回 項目 研究発表と討議（7）
- 第 12 回 項目 研究発表と討議（8）
- 第 13 回 項目 研究発表と討議（9）
- 第 14 回 項目 研究発表と討議（10）
- 第 15 回 項目 まとめと評価

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。／参考書：使用しない。

●**メッセージ** 教育や研究に対する問題意識をしっかりとって、研究テーマを設定して下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** masaton@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部 A 棟 3 階 教育哲学研究室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

●**授業の概要** 修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／**検索キーワード** 幼児、保育、発達

●**授業の一般目標** 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。**関心・意欲の観点**：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べることができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 研究方法の検討

第8回 項目 研究方法の検討

第9回 項目 研究方法の検討

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 まとめ

第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●**メッセージ** 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

●**授業の概要** プリント教材、OHP、パソコンなどさまざまな教育メディアを活用した教材を開発し評価できる基本的な能力を身につけます。そこでは、各種教育メディアの特性を理解し、他者からの評価による気づきを大切にします。また各自の研究テーマに沿ったトピックについて実際にマイクロプレゼンテーションを実施し、評価します。

●**授業の一般目標** 1. 各種教育メディアの特性を理解できる 2. 各種メディアの特性に応じた効果的な教材を開発できる 3. 教材の評価法を知る 4. マイクロプレゼンテーションを体得する

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

- 授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、教育史の立場から指導を行う。／**検索キーワード** 修士論文, 教育史
- 授業の一般目標** 教育史の研究方法を理解し、専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：教育史の研究方法が説明できる。 **思考・判断の観点**：収集した資料について多面的に検討し、客観的な分析ができる。 **関心・意欲の観点**：教育に関する関心を深め、専門的な課題意識を高めることができる。 **態度の観点**：ひとつの課題について、視野を深めながら長期的に追求することができる。 **技能・表現の観点**：検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画（全体）** 7月までにテーマを設定し、先行研究を整理し仮説を立てて資料の調査に入る。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

- 授業の概要** 文献講読により国際理解教育と世界人権宣言、ウィーン人権会議の関連についての研究を指導する。／**検索キーワード** 国際理解教育
- 授業の一般目標** 普遍的な人権概念の確立を目指しての世界の努力と成果について調査、理解し、自分の意見を述べる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：人権をめぐる国際的な会議等での議論についての知識を高め、理解を深める。**思考・判断の観点**：得た知識に基づいて、批判的思考ができる。自分の意見を述べることができる。**関心・意欲の観点**：さらに出てきた疑問について、意欲をもって調査を進める。**技能・表現の観点**：自分の意見を論理的な文章で記述できる。論文の形式を使って表現できる。
- 授業の計画（全体）** 主として文献の講読を通して国際社会における人権の認識と国際理解教育との関連を学ぶ。
- 成績評価方法（総合）** レジュメおよび発表による
- 教科書・参考書** 参考書：地球社会の人権論, 芹田健太郎, 信山社, 2003年
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部2階200-(1)室 事前のアポイントメントにより随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官					

●メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	荘司泰弘				

●**授業の概要** 実際には、1年前期からの研究作業を継続する。以後、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／**検索キーワード** 大学院 修士論文

●**授業の一般目標** 1. 各自が設定したテーマに関する不明な概念や発想を解明することができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

**思考・判断の観点**： 1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 **関心・意欲の観点**： 1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 **態度の観点**： 1. わからぬ用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 **技能・表現の観点**： 1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第2回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第3回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第4回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第5回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第6回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第7回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第8回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第9回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第10回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。



- 第11回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第12回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第13回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第14回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第15回 **項目** 自分の見解を入力する。 **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

●**成績評価方法 (総合)** 指導教官が適宜、口答で質問し、理解度を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：各自のテーマに沿って、引用・参考文献を数十冊指示する。／参考書：各自のテーマに沿って、インターネット検索し、参考データを数十件指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	杉山緑				

●**授業の概要** 現代教育方法学の諸対象の中から、受講生各自が研究対象を設定し、資料収集・レポートを行い受講者全員で検討・討議する。

●**授業の一般目標** 受講生各自が設定したテーマについて資料収集・精読・報告することを通して教育方法学研究の方法論を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 研究内容について説明できる。 **思考・判断の観点**：1. 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業方法、評価方法等について説明する。

第2回 **項目** 研究テーマの設定

第3回 **項目** 研究成果の報告・討議（1）

第4回 **項目** 研究成果の報告・討議（2）

第5回 **項目** 研究成果の報告・討議（3）

第6回 **項目** 研究成果の報告・討議（4）

第7回 **項目** 研究成果の報告・討議（5）

第8回 **項目** 中間まとめ

第9回 **項目** 研究成果の報告・討議（6）

第10回 **項目** 研究成果の報告・討議（7）

第11回 **項目** 研究成果の報告・討議（8）

第12回 **項目** 研究成果の報告・討議（9）

第13回 **項目** 研究成果の報告・討議（10）

第14回 **項目** 研究成果のまとめ（1）

第15回 **項目** 研究成果のまとめ（2）

●**成績評価方法（総合）** レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

●**メッセージ** 授業においては同じ研究者として対応します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部3F 電話083-933-5452 メール:ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田中理絵				

●**授業の概要** 調査を実施しデータを分析・考察する。その際、学術的知識の援用・獲得が必要となるが、文献の解読等によって修士課程1年次より引き続き行う。

●**メッセージ** 社会・教育現場へ還元可能なレベルの研究を行ってください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	白石敏行				

●**授業の概要** 1年次に引き続き、修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／**検索キーワード** 幼児、保育、発達

●**授業の一般目標** 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。**関心・意欲の観点**：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べることができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 研究方法の検討

第8回 項目 研究方法の検討

第9回 項目 研究方法の検討

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 まとめ

第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●**メッセージ** 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。1年次の「課題研究」の単位を取得していること。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村正登				

●**授業の概要** 各章と各節を設定し、修士論文の全体構想を立てた上で、各節ごとに文章化しながら修士論文を作成していく。／**検索キーワード** 修士論文、論文構成、論文作成

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 修士論文の全体構成（1）
- 第2回 項目 修士論文の全体構成（2）
- 第3回 項目 研究発表と討議（1）
- 第4回 項目 研究発表と討議（2）
- 第5回 項目 研究発表と討議（3）
- 第6回 項目 研究発表と討議（4）
- 第7回 項目 研究発表と討議（5）
- 第8回 項目 研究発表と討議（6）
- 第9回 項目 研究発表と討議（7）
- 第10回 項目 研究発表と討議（8）
- 第11回 項目 研究発表と討議（9）
- 第12回 項目 研究発表と討議（10）
- 第13回 項目 研究発表と討議（11）
- 第14回 項目 研究発表と討議（12）
- 第15回 項目 まとめと評価

●**メッセージ** 毎時間の積み重ねが修士論文作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

- 授業の概要** マルチメディア教材（児童生徒、教師用）の開発および評価 遠隔学習用Web教材の開発および評価
- 授業の一般目標** パソコンを活用したマルチメディア教材を開発し実証できる 遠隔学習用Web教材を開発し実証できる
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田修				

- 授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。／**検索キーワード** 修士論文
- 授業の一般目標** 教育史の研究方法を理解し、専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：教育史の研究方法が説明できる。 **思考・判断の観点**：収集した資料について多面的に検討し、客観的な分析ができる。 **関心・意欲の観点**：教育に関する関心を深め、専門的な課題意識を高めることができる。 **態度の観点**：ひとつの課題について、視野を深めながら長期的に追究することができる。 **技能・表現の観点**：検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画（全体）** 7月までにテーマを設定し、先行研究の整理し仮説を立て資料の調査に入る。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：なし



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

- 授業の概要** 前期に講読した文献をもとに、国際理解教育とは何かを文章にまとめます。また、平行して、受講者自身がさらに研究を深めたいことは何かを話し合い、研究課題をより明確にしていきます。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐々木司				

●**授業の概要** 修士論文を指導する大学院生に対して、研究テーマの設定、研究方法の選択、関係先行研究のフォロー方法、論文執筆方法などを教える。

●**メッセージ** 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	荘司泰弘				

●**授業の概要** 実際には、前期からの研究作業を継続する。具体的には、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／**検索キーワード** 大学院 修士論文

●**授業の一般目標** 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

**思考・判断の観点**： 1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 **関心・意欲の観点**： 1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 **態度の観点**： 1. わからぬ用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 **技能・表現の観点**： 1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第2回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第3回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第4回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第5回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第6回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第7回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第8回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第9回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第10回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

- 第11回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第12回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第13回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第14回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。
- 第15回 **項目** 自分の見解を入力する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の見解を入力する。適宜、わからない概念や用語を解説する。

●**教科書・参考書** 教科書：各自のテーマに沿って引用・参考文献を数十冊指示する。／参考書：各自のテーマに沿って、インターネットで検索し、参考データを数十件指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

●**授業の概要** 前期に引き続き、現代教育方法学の諸対象の中から、受講者各自が設定した研究対象について資料収集・レポートを行い受講者全員で検討・討議する。

●**授業の一般目標** 前期に設定した研究テーマの深化を図る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 研究内容について説明できる。 **思考・判断の観点**：1. 研究内容を自己の視点によって論理的に整理できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション・研究テーマの確認
- 第2回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（1）
- 第3回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（2）
- 第4回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（3）
- 第5回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（4）
- 第6回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（5）
- 第7回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（6）
- 第8回 項目 中間まとめ
- 第9回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（7）
- 第10回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（8）
- 第11回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（9）
- 第12回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（10）
- 第13回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（11）
- 第14回 項目 受講生による研究成果の報告・討議（12）
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** レポート内容、発表態度等を総合的に評価する。

●**メッセージ** 修士論文につながる授業なので、そのことを意識した学習を行うこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部3F 電話:083-933-5452 メール:ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	白石敏行				

●**授業の概要** 前期に引き続き、修士論文作成のための文献講読および研究方法等の検討を行う。／**検索キーワード** 幼児、保育、発達

●**授業の一般目標** 自分の興味・関心のある領域について文献を報告するとともに、研究方法等を検討し、修士論文作成に役立てる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の興味・関心ある領域に関する基礎的事項について説明することができる。**関心・意欲の観点**：他者の意見にも耳を傾け、自分の意見を述べることができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 文献講読

第3回 項目 文献講読

第4回 項目 文献講読

第5回 項目 文献講読

第6回 項目 文献講読

第7回 項目 研究方法の検討

第8回 項目 研究方法の検討

第9回 項目 研究方法の検討

第10回 項目 文献講読

第11回 項目 文献講読

第12回 項目 文献講読

第13回 項目 文献講読

第14回 項目 まとめ

第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席、課題の報告等をもとに総合的に評価する。

●**メッセージ** 修士論文で乳幼児期の子どもおよび彼らを取り巻く環境について追究する人を望みます。前期の「課題研究」の単位を取得していること。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：933-5330 t-shira@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

●**授業の概要** 修士課程1年前期で行った研究を発展させ、深めていく。文献をさらに読み進めながらまとめたものを発表し、それについて全員で討議しながら教育の本質について考察を深めていく。／**検索キーワード** 文献解釈、研究発表、討議

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 授業の全体計画と発表者の決定
- 第2回 **項目** 研究発表と討議（1）
- 第3回 **項目** 研究発表と討議（2）
- 第4回 **項目** 研究発表と討議（3）
- 第5回 **項目** 研究発表と討議（4）
- 第6回 **項目** 研究発表と討議（5）
- 第7回 **項目** 研究発表と討議（6）
- 第8回 **項目** 研究発表と討議（7）
- 第9回 **項目** 研究発表と討議（8）
- 第10回 **項目** 研究発表と討議（9）
- 第11回 **項目** 研究発表と討議（10）
- 第12回 **項目** 研究発表と討議（11）
- 第13回 **項目** 研究発表と討議（12）
- 第14回 **項目** 研究発表と討議（13）
- 第15回 **項目** まとめと評価

●**メッセージ** 毎回の研究発表の積み重ねが修士論文の作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

- 授業の概要** 授業に活用する教材教具としての教育メディアの教育効果を知るために、録画した授業による授業分析（数量的、質的）を通してその有用性や改善点について探究する。
- 授業の一般目標** 授業分析を通して教育メディアの与える効果について実証できる
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター 1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

- 授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。／**検索キーワード** 修士論文, 教育史
- 授業の一般目標** 教育史の研究方法を理解し, 専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**: 教育史の研究方法が説明できる。 **思考・判断の観点**: 収集した資料について多面的に検討し, 客観的な分析ができる。 **関心・意欲の観点**: 教育に関する関心を深め, 専門的な課題意識を高めることができる。 **態度の観点**: ひとつの課題について, 視野を深めながら長期的に追究することができる。 **技能・表現の観点**: 検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画 (全体)** 12月までに資料の調査を終え, 資料の分析を行う。
- 成績評価方法 (総合)** 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書: なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石井由理				

- 授業の概要** 人権と国際理解教育の関連について、文献講読および小論文作成を通して受講生の理解を支援する。／**検索キーワード** 国際理解教育
- 授業の一般目標** 主として人権に関する国際会議の記録等の文献を読み、理解し、その要旨と自分の意見を口頭および文章で述べる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：人権に関する国際会議の記録等の文献を読んで知識を広め、内容を理解する。人権に関する国際的な宣言、規約等が国際理解教育に対してどのような関連をもち、影響を与えているかを理解する。**思考・判断の観点**：調べた事項に基づいて、批判的に考え、自分の意見を構成できる。**関心・意欲の観点**：自主的に意欲をよって文献調査を進める。**態度の観点**：課題の研究を継続的に行う。**技能・表現の観点**：調べた内容を簡潔にまとめるとともに、自分の意見を論理的に記述することができる。論文形式のまとめた文章を書くことができる。
- 授業の計画（全体）** 多様な文化圏によって人権概念がどう異なるのかを文献講読と討議を通して理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合）** 提出された小論文の内容による
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部2階200-（1）事前の予約により随時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	桑原昭徳				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

●メッセージ 第1回目の授業で概要を説明する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	荘司泰弘				

●**授業の概要** 実際には、1年前期からの研究作業を継続する。以後、各自のテーマにそって文献を入手し、ノートパソコンにデータを入力する。引用参考文献データを各自の保育体験や保育記録と結びつけながら、考察を入力する。毎週、入力状況をチェックし、適宜指示を与える。／**検索キーワード** 大学院 修士論文

●**授業の一般目標** 1. 各自が設定したテーマに関する不明な概念や発想を解明することができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 各自が設定したテーマに対する結論を述べることができる。

**思考・判断の観点**：1. 子どもの活動を中心に考察し、論旨を組み立てる力を培う。 **関心・意欲の観点**：

1. 幼児に関する分野への関心を高め、子どもの立場を配慮した感性を身につける。 **態度の観点**：1. わからぬ用語や概念を積極的に質問し、理解するまで説明を求めることができる。 **技能・表現の観点**：

1. 考察した結果を論理的に文章に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 授業は入力したデータをチェックし、質疑応答する形式で進行する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** 論旨を確認する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の論旨をチェックする。

第2回 **項目** 論旨を確認する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の論旨をチェックする。

第3回 **項目** 論旨を確認する **内容** 必要な引用・参考文献の入力を続けながら、入力した引用・参考文献を該当する各節ごとに比較し自分の論旨をチェックする。

第4回 **項目** 論旨を確認する **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第5回 **項目** 論旨を確認する **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第6回 **項目** 論旨を確認する **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第7回 **項目** 論旨を確認する **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第8回 **項目** 論旨を確認する **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第9回 **項目** 文章表現を確認する。 **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。

第10回 **項目** 文章表現を再確認する。 **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。

第11回 **項目** 文章表現を再確認する。 **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。

第12回 **項目** 文章表現を再確認する。 **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認しながら、文章表現をチェックする。

第13回 **項目** まとめに入る **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第14回 **項目** まとめる **内容** 論旨を再チェックし、自分の考えが論理的にまとまっているか確認する。

第15回 **項目** 調整作業 **内容** フォーマットに従って印刷に入る。

●**成績評価方法（総合）** 主査と副査で評価する。

- 教科書・参考書** 教科書：各自のテーマに沿って、最新の引用・参考文献を数十冊指示する。／参考書：各自のテーマに沿って、インターネット検索し、最新のデータを数十件指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** メール：froebel@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階 オフィスアワー：火曜日 12:00～15:00

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	杉山緑				

●**授業の概要** 現代教育方法学の諸対象の中から、受講者各自が研究対象を設定し、資料収集・レポート等を行い受講者全員で検討・討議する。最後にそれまでの研究内容を報告書としてまとめる。

●**授業の一般目標** 前期に引き続き、各自が設定した研究テーマを深化し、総括する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 研究内容について説明できる。 **思考・判断の観点**：1. 研究内容について自己の視点から論理的に整理できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 研究成果のまとめ（1）
- 第3回 項目 研究成果のまとめ（2）
- 第4回 項目 研究成果のまとめ（3）
- 第5回 項目 研究成果のまとめ（4）
- 第6回 項目 研究成果のまとめ（5）
- 第7回 項目 研究成果のまとめ（6）
- 第8回 項目 研究成果のまとめ（7）
- 第9回 項目 研究成果のまとめ（8）
- 第10回 項目 研究成果のまとめ（9）
- 第11回 項目 研究成果のまとめ（10）
- 第12回 項目 研究報告書の作成（1）
- 第13回 項目 研究報告書の作成（2）
- 第14回 項目 研究報告書の作成（3）
- 第15回 項目 研究報告発表（試験）

●**成績評価方法（総合）** 報告内容、発表態度等、ならびに最終の口頭試問による試験の結果を総合的に評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部3F 電話:083-933-5452 メール:ryosugi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田中理絵				

●**授業の概要** 前期に蒐集したデータを分析・考察し、自分で設定した修士論文のテーマに関してより知見を深める。

●**メッセージ** 有益なデータ及び知見を、社会および教育現場へ還元できるレベルの研究を行って欲しい。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村正登				

●**授業の概要** 各章、各節を執筆しながら修正し、修士論文を完成する。／**検索キーワード** 修士論文、論文構成、論文作成

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 修士論文作成上の要点
- 第2回 項目 研究発表と討議（1）
- 第3回 項目 研究発表と討議（2）
- 第4回 項目 研究発表と討議（3）
- 第5回 項目 研究発表と討議（4）
- 第6回 項目 研究発表と討議（5）
- 第7回 項目 研究発表と討議（6）
- 第8回 項目 研究発表と討議（7）
- 第9回 項目 研究発表と討議（8）
- 第10回 項目 研究発表と討議（9）
- 第11回 項目 研究発表と討議（10）
- 第12回 項目 研究発表と討議（11）
- 第13回 項目 研究発表と討議（12）
- 第14回 項目 研究発表と討議（13）
- 第15回 項目 まとめと評価

●**メッセージ** 毎時間の積み重ねが修士論文作成につながっていくよう、1時間1時間を大切にしてください。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	林徳治				

●**授業の概要** 自己の研究テーマ（修論）に関して開発した教材の評価やマイクロプレゼンテーションについて実証する。改善すべき点を明らかにし、改善した教材による評価を再度実証する。

●**授業の一般目標** 1. 教材の評価法について実証できる 2. 授業（遠隔学習を含む）全体の評価について実証できる 3. ポートフォリオ評価について実践できる

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田修				

- 授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について教育史の分野から研究指導する。／**検索キーワード** 修士論文, 教育史
- 授業の一般目標** 教育史の研究方法を理解し, 専門的な学術論文が作成できる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**: 教育史の研究方法が説明できる。 **思考・判断の観点**: 収集した資料について多面的検討し, 客観的な分析ができる。 **関心・意欲の観点**: 脅威に関する関心を深め, 専門的な課題意識を高めることができる。 **態度の観点**: ひとつの課題について, 視野を深めながら長期的に追究することができる。 **技能・表現の観点**: 検証結果を精緻かつ明解に文章表現できる。
- 授業の計画 (全体)** 12月までに資料をもとに仮説を検証しまとめる。
- 成績評価方法 (総合)** 毎回の発表内容を中心に評価する。
- 教科書・参考書** 教科書: なし

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

# 学校臨床心理学専修

開設科目	学校教育総合研究 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村正登他				

●**授業の概要** わが国の学校教育の諸問題を教育学、障害児教育、幼児教育の各分野から総合的に考察し、今後の課題について検討する。／**検索キーワード** 学校、教育

●**授業の一般目標** (1) 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育についての概要と課題を理解する。(2) 障害児教育や障害児心理についての概要と課題を理解する。(3) 幼児教育についての概要と課題を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育についての概要と課題が理解できる。**思考・判断の観点**：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する思考力や判断力を高めることができる。**関心・意欲の観点**：1. 各専門分野の学習を通して、学校教育に対する関心や意欲を高めることができる。**態度の観点**：1. 日常生活の中で学校教育の諸問題について主体的に考えることができる。

●**授業の計画(全体)** 教育哲学、教育史、教育方法学、教育社会学、教育制度、社会教育、障害児教育、幼児教育の各分野を専門の教員が分担して授業する。

●**授業計画(授業単位)**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーションと教育哲学
- 第 2 回 項目 教育哲学
- 第 3 回 項目 教育史
- 第 4 回 項目 教育史
- 第 5 回 項目 教育方法学
- 第 6 回 項目 教育方法学
- 第 7 回 項目 教育社会学
- 第 8 回 項目 教育社会学
- 第 9 回 項目 教育制度
- 第 10 回 項目 教育制度
- 第 11 回 項目 障害児教育
- 第 12 回 項目 障害児教育
- 第 13 回 項目 幼児教育
- 第 14 回 項目 幼児教育
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法(総合)** 各授業担当の教員が評価したものを総合して平均値を出す。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。各教員がプリント等を準備する。／参考書：使用しない。

●**メッセージ** 授業には欠席しないようにして下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 各授業担当の教員

開設科目	学校教育総合研究 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊・他				

●**授業の概要** 我が国の学校教育の諸問題について、各担当教官の専門領域の観点から、現代の研究動向を踏まえて、総合的に検討する。／**検索キーワード** 学校教育、心理学、教育相談

●**授業の一般目標** 各担当教官がそれぞれの立場で論じる今日の学校教育の諸問題に関して、理解を深め、自己の観点に立って検討・消化する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 発達心理学の観点から 内容 堂野 佐俊 授業外指示 レポート
- 第 2 回 項目 社会心理学の観点から (I) 内容 熊谷 信順
- 第 3 回 項目 社会心理学の観点から (II) 内容 熊谷 信順 授業外指示 レポート
- 第 4 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 大石 英史
- 第 5 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 大石 英史 授業外指示 レポート
- 第 6 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 木谷 秀勝
- 第 7 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 木谷 秀勝 授業外指示 レポート
- 第 8 回 項目 教育心理学の観点から (I) 内容 田邊 敏明
- 第 9 回 項目 教育心理学の観点から (II) 内容 田邊 敏明 授業外指示 レポート
- 第 10 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 恒吉 徹三
- 第 11 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 恒吉 徹三 授業外指示 レポート
- 第 12 回 項目 臨床心理学の観点から (I) 内容 名島 潤慈
- 第 13 回 項目 臨床心理学の観点から (II) 内容 名島 潤慈 授業外指示 レポート
- 第 14 回 項目 学習心理学の観点から (I) 内容 福田 廣
- 第 15 回 項目 学習心理学の観点から (II) 内容 福田 廣 授業外指示 レポート

●**成績評価方法（総合）** 各担当教官により、提出されたレポートの評価を中心に、全体としての評価を算出する。

●**教科書・参考書** 教科書：特に指定されたものはなし。／参考書：その都度指示されます。

●**メッセージ** 「学校教育総合研究：II」は、心理学関係の教官が担当します。

●**連絡先・オフィスアワー** 各担当教官の研究室



開設科目	国際理解教育特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	石井由理				

●**授業の概要** 国際理解教育の用語、歴史、理念、含まれる事項、実践事例等について講義する。文献やビデオ、エクササイズを用いて受講者が批判的思考ができるように支援する。／**検索キーワード** 国際理解教育、ユネスコ、異文化理解

●**授業の一般目標** 国際理解教育の理念や誕生の背景、現状について知る。メディアが伝える他文化に関する情報に対して、批判的な視点をもって判断をできる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国際理解教育についての知識を広げる。国際理解教育の複雑さについて理解する。地球システムの中にいる自分を認識する。**思考・判断の観点**：国際理解教育について自分の意見をもつことができる。批判的思考ができる。**関心・意欲の観点**：国際理解教育の視点をもって自分の生活スタイルに関心をもってみつめなおす。授業で紹介された事例以外にも自分で関心のある分野を発展的に研究する。**態度の観点**：ユネスコの提唱する「平和の文化」に参加しようとする態度をもつ。**技能・表現の観点**：討議に参加し、自分の意見を論理的に述べるができる。自分の関心のあるテーマを見つけ、調査し、レポートにまとめることができる。

●**授業の計画（全体）** 国際理解教育とは、定まった定義があるのではなく、時代や場所によって様々な変遷をとげるものだという事を、文献や映像を通して学ぶ。また、自分もその変遷の中にいる参加者だという自己認識を、討議やエクササイズを通して高める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 国際理解教育とは何か **内容** 授業説明 国際理解教育に関連のある概念
- 第2回 **項目** 国際理解教育という概念の形成 **内容** 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第3回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第4回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 国際理解教育の成り立ちについての講義
- 第5回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1960年代の社会背景
- 第6回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1970年代の時代背景と1974年国際教育勧告
- 第7回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1974年勧告後の各国の実践努力
- 第8回 **項目** ユネスコと国際理解教育 **内容** 1980年代ブルントラント委員会
- 第9回 **項目** 1990年代から現在 **内容** 1990年代の社会背景
- 第10回 **項目** 1990年代から現在 **内容** コソボの学校
- 第11回 **項目** 1990年代の教育政策 **内容** ノルウェー、イギリス、日本の例
- 第12回 **項目** マスメディアと国際理解教育 **内容** ルワンダでの虐殺
- 第13回 **項目** マスメディアと国際理解教育 **内容** 日本の事例 映画の例
- 第14回 **項目** マスメディアと国際理解教育 **内容** 映画の例
- 第15回 **項目** まとめ

●**成績評価方法（総合）** 中間および期末のレポートによる

●**教科書・参考書** 教科書：プリント等を使用／参考書：異文化コミュニケーション教育、青木順子、溪水社、1999年；国際理解教育、永井滋郎、第一学習社、1989年；イギリスのグローバル教育、木村一子、勁草書房、2001年；南北問題と開発教育、田中治彦、亜紀書房、1994年

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部2階200-（1）室 オフィスアワーは初回授業時に伝達

開設科目	教育メディア特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	林徳治				

- 授業の概要** 教授・学習過程（授業）において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割について学修する。さらにパソコン、インターネット、衛星や電話回線利用などによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価による授業技術を学習する。
- 授業の一般目標** 授業での児童生徒と教師間におけるコミュニケーション活動の改善をめざした「わかる」、「楽しい」授業づくりにおける教育メディアの意義や役割を学び、これらを活用した教育方法・技術について教育実践学の見地より探究する。具体的な項目は以下の通りである。1.教育メディアの特性を理解し、各々の教材作成ができる 2.授業の分析（数量的、質的）ができる 3.プレゼンテーション技術（表現伝達）について改善できる
- 授業の計画（全体）** 授業（コミュニケーション）における教育メディアの意義や役割を習得した上で、主にプレゼンテーション技術の習得をめざした自己表現伝達技術の設計・実施・評価を行う。このプロセスを通してメディア利用の教材開発手法、プレゼンテーション訓練方法（マイクロプレゼンテーション）、評価方法・内容について習得する。
- 成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート，宿題／授業外レポート，発表（プレゼン）や授業内での製作作業，出席等を総合して評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術，林徳治，ぎょうせい，2000年；情報教育の理論と実践，林徳治・宮田仁，実教出版，2002年
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail hayashi@edu.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5461, 研究室 実践センター1階

開設科目	教育心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	熊谷信順				

●**授業の概要** 個性をめぐるいくつかの理論を紹介し、個性化と社会化について考察する。これを踏まえて、各自が今日の社会における様々な現象について論評し、討論する。

●**授業の一般目標** 教育における個性概念を批判的に検討できるようになる。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：「個性」概念について批判的に理解できるようになる。

●**授業の計画（全体）** 講義及びレポートに基づく討論

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 授業のねらい
- 第2回 項目 個性をめぐる今日の状況
- 第3回 項目 個性についての理論1
- 第4回 項目 個性についての理論2
- 第5回 項目 個性についての理論3
- 第6回 項目 個性を育てることとは
- 第7回 項目 個性化と社会化
- 第8回 項目 各自の課題設定と検討
- 第9回 項目 課題への取り組み **内容** レポート作成
- 第10回 項目 課題への取り組み **内容** レポート作成
- 第11回 項目 発表・討論1
- 第12回 項目 発表・討論2
- 第13回 項目 発表・討論3
- 第14回 項目 発表・討論4
- 第15回 項目 全体のまとめ

●**成績評価方法（総合）** レポートおよび討論

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは使用しない

開設科目	教育心理学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

●**授業の概要** 学校において、教師、児童、生徒が生み出す諸現象を分析し、教科指導、および生徒指導・進路指導を行う上で実際に役立つ知見を実習を通して得る。特に現在学校現場で問題とされていることの解決に向けて、その方策を示したい。

●**授業の一般目標** 現代の学校が立ち向かっている問題について具体的な対応策が描けるような授業でありたい。たとえば、それは学力低下問題であり、また子どもたちに伺われる意欲の減退であり、さらにはいじめ、不登校の問題、さらには虐待を受けた子どもたちのケアである。それらの子どもたちの心に寄り添えるような、そして心の育ちに貢献できるような方策を求めたい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 学力低下における基礎基本の徹底と応用について
- 第2回 項目 学力低下における学習の動機づけ再考
- 第3回 項目 学び合う心を育てる教育について
- 第4回 項目 人生の目標としての学びについて
- 第5回 項目 心のノートによる道徳教育への貢献について ー道徳教育への心理学の応用
- 第6回 項目 学校臨床心理士の活動と学校教育
- 第7回 項目 学校教育における「怠け」、「わがまま」、「甘え」と心理臨床的立場
- 第8回 項目 問題行動の解決に有効な心理療法について ーブリーフセラピーとナラティブセラピーを中心に
- 第9回 項目 学校臨床における心理劇の適用 ーいじめ体験の劇化による実習の効果
- 第10回 項目 学校と関連施設の連携 ー橋渡し役としての学校臨床心理士
- 第11回 項目 学校での問題児童生徒への対応1 ー不登校児への対応
- 第12回 項目 学校での問題児童生徒への対応2 ー軽度発達障(ADHD,LD)児への対応
- 第13回 項目 学校での問題児童生徒への対応3 ー虐待を受けた子、PTSDの疑いのある子への学校の対応
- 第14回 項目 学校での問題児童生徒への対応4 ー基底欠損が疑われる子に対する学校の対応
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 宿題／授業外レポート＝20～40％ 授業態度や授業への参加度＝40～60％ 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝20～40％

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail ttanabe@inf.edu.yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 木曜日 18:00～19:00

開設科目	発達心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊				

●**授業の概要** 乳幼児から青年、高齢者に及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。／**検索キーワード** 心理学、発達心理学

●**授業の一般目標** 乳幼児から青年、高齢者に及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 乳幼児から青年、高齢者に及ぶ発達のメカニズムに関して、認知や学習の発達領域に重点を置き、発達心理学の観点から理解を深める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 The Development of Thinking
- 第2回 項目 Sensory-motor Stage: Birth to 2 Years
- 第3回 項目 Preoperational Stage: 2 to 7 Years
- 第4回 項目 Stage of Concrete Operation: 7 to 12 Years
- 第5回 項目 Traditional Learning Theory as a Contrasting Explanation of Development
- 第6回 項目 The Role of Heredity and Environment in Intelligence
- 第7回 項目 Intelligence: heredity versus Environment
- 第8回 項目 Environmental Factors and IQ
- 第9回 項目 The Development of Perception
- 第10回 項目 Perception of Depth
- 第11回 項目 Other Perceptual Abilities (I)
- 第12回 項目 Other Perceptual Abilities (II)
- 第13回 項目 Language Development
- 第14回 項目 A Description of Language Development
- 第15回 項目 Chomsky's Theory of Innate Language Development

●**成績評価方法（総合）** 各担当時における資料に基づいた発表と、出席や意欲・態度が評価の対象となる。

●**教科書・参考書** 教科書：The Psychology of Childhood, Peter Mitchell, The Falmer Press, 1992年／参考書：その都度指摘します。

●**メッセージ** 十分な予習で、内容への積極的な参加を期待します。

●**連絡先・オフィスアワー** 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	人格心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

●**授業の概要** 児童・生徒の発達援助の方法としての人格心理学の理論について詳述し、特に子どもの心をどのように見るかについて具体的に提言する

●**授業の一般目標** 児童の問題行動を明らかにするため、幅広い見方を修得し、考察を深めていく。特に、対象関係論の理解は、重い病理を理解するためには欠かせないものである。さらに心のバランスやしなやかさを感じるセンスを身につけることは、心理面接を遂行する上でも必須の要素となる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 悩める心の見方 — 喩えからの提言
- 第2回 項目 心を抱えるということ — Winnicott の考えから
- 第3回 項目 心の統合について — 境界例を中心に
- 第4回 項目 基底欠損と境界例 — バリントとアドラーの心の見方
- 第5回 項目 抱える環境を与える心理療法の考え方 — 外国文献を読む1
- 第6回 項目 抱える環境を与える心理療法の考え方 — 外国文献を読む2
- 第7回 項目 父性と母性1 — 日本の母性と父性（河合隼雄と林義道の考え方の違い）
- 第8回 項目 父性と母性2 — 心理療法における「支え」と「壁・枠」
- 第9回 項目 心のバランスと調和について — 統合失調症と離人症が示すもの
- 第10回 項目 心の遊びについて — 家族における適度な揺れとホメオスタシス
- 第11回 項目 心のしなやかさと柔らかさ — アサーショントレーニングについて
- 第12回 項目 自閉症児の心の世界について
- 第13回 項目 心理テストに見る現代の子どもの心
- 第14回 項目 比喩を用いた心理療法1 — 容器としての心理療法家
- 第15回 項目 比喩を用いた心理療法2 — 物語作りとしての心理療法（ナラティブセラピー）

●**成績評価方法（総合）** 宿題／授業外レポート = 20～40% 授業態度や授業への参加度 = 20～40% 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 40～60%

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail ttanabe@inf.edu.yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 木曜日 18:00～19:00

開設科目	社会心理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	熊谷信順				

●**授業の概要** 自己の認識から評価、表現の過程を、「自己過程」としてとらえて、その過程に見られる様々な現象を理論的に考察する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 自己過程とは
- 第2回 項目 自己に対する注意の焦点化 自己過程の構造
- 第3回 項目 自己に対する注意の焦点化
- 第4回 項目 私的自己と公的自己
- 第5回 項目 自己の姿の把握
- 第6回 項目 自己知覚理論
- 第7回 項目 自己に関する知識の構造化
- 第8回 項目 セルフスキーマの機能
- 第9回 項目 自己の姿に対する評価
- 第10回 項目 社会的比較過程
- 第11回 項目 SEM理論
- 第12回 項目 自己呈示1
- 第13回 項目 自己呈示2
- 第14回 項目 自己開示
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	障害児心理学特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官					



開設科目	心理学研究法特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

開設科目	心理統計法演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

●**授業の概要** 心理学研究（特に、実証的、因果論的アプローチによる）を行う際に必要な、基本的な研究計画、測定、心理統計法にかかわる諸問題について、国内外の文献を用いて論考する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 研究パラダイム
- 第2回 項目 心理測定とは
- 第3回 項目 記述統計（1）
- 第4回 項目 記述統計（2）
- 第5回 項目 統計的検定（1）
- 第6回 項目 統計的検定（2）
- 第7回 項目 統計的検定（3）
- 第8回 項目 相関と回帰（1）
- 第9回 項目 相関と回帰（2）
- 第10回 項目 因子分析（1）
- 第11回 項目 因子分析（2）
- 第12回 項目 さまざまな多変量解析（1）
- 第13回 項目 さまざまな多変量解析（2）
- 第14回 項目 そのほかの統計的問題（1）
- 第15回 項目 そのほかの統計的問題（2）

開設科目	家族心理学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	堂野佐俊				

●**授業の概要** 「家族」を情緒的な関係の場として捉え、家族過程、家族機能、親子関係、養育態度とパーソナリティ発達、等に関して、システム論の立場から論考する。／**検索キーワード** 心理学、発達心理学、臨床心理学

●**授業の一般目標** 「家族」を情緒的な関係の場として捉え、家族過程、家族機能、親子関係、養育態度とパーソナリティ発達、等に関して、システム論の立場から論考する。

●**授業の計画（全体）** 「家族」を情緒的な関係の場として捉え、家族過程、家族機能、親子関係、養育態度とパーソナリティ発達、等に関して、システム論の立場から論考する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 家族心理学の概念
- 第2回 項目 家族心理学研究（I）：揺籃期
- 第3回 項目 家族心理学研究（II）：システムズ・アプローチの台頭
- 第4回 項目 家族心理学研究（III）：現代家族心理学の確立
- 第5回 項目 家族心理学における理論モデル
- 第6回 項目 家族発達段階論
- 第7回 項目 家族心理学における研究法（I）：心理学的アプローチ
- 第8回 項目 家族心理学における研究法（II）：効用と限界
- 第9回 項目 結婚と夫婦の心理
- 第10回 項目 夫婦関係における諸現象
- 第11回 項目 親と子の心理学（I）：子どもをめぐる社会的状況
- 第12回 項目 親と子の心理学（II）：親と子の絆
- 第13回 項目 親と子の心理学（III）：青年期の家族関係
- 第14回 項目 家族介入の技法
- 第15回 項目 現代家族心理学の課題と総括

●**教科書・参考書** 教科書：家族心理学講義，岡堂哲雄，金子書房，1991年；その他は、適宜指摘します。／参考書：その都度指示します。

●**メッセージ** 主として演習形式で進めますが、積極的な参加を期待します。

●**連絡先・オフィスアワー** 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	心理療法特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

- 授業の概要** 講義では、面接者とクライアントの関係をいかに理解するかについて講義する。講義では、毎回学生によるプレゼンテーションを行い、議論を深めていく。／**検索キーワード** 心理療法, 面接者とクライアント関係, 対象関係論。
- 授業の一般目標** 心理臨床場面における、面接者とクライアントの関係を理解する視点について学ぶ。特に、対象関係論の観点からのクライアント理解について学ぶことを目標とする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：心理療法の基本的な概念を説明できる。 **思考・判断の観点**：面接者と来談者の関係についての基本的な理解ができる。
- 授業の計画（全体）** 心理療法の実践に関わる場合の、クライアント理解の視点について講義する。対象関係論の概要についてまず講義をし、その後の週には毎回受講学生のプレゼンテーションの後に討論を行いながら、解説を加えていく。これにより、講義自体をより相互的なものとする。
- 成績評価方法（総合）** 講義では、受講生によるプレゼンテーションを行い、これをもって成績評価を行う。さらに、発表後に発表当日の討論を踏まえてさらに要約をレポートとして提出する。これらにより、総合的に評価する。
- メッセージ** 心理療法は、面接者とクライアントの対話を通して自己理解を深める場でもあるので、議論への積極的な参加を期待したい。

開設科目	臨床心理学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

●**授業の概要** 教育臨床・病院臨床・産業臨床など、さまざまな臨床場面において問題となるさまざまな事柄について考究します。そのさい、できるだけ具体的な臨床事例を呈示しながら講義します。また、いろいろな心理療法の特性についても講義します。／**検索キーワード** 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

●**授業の一般目標** 査定にしる援助・介入にしる、臨床心理学の基礎的・実践的な部分に焦点をあてます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 臨床心理学における専門性と倫理。諸外国の臨床心理士。
- 第 2 回 項目 インテイク面接における諸問題と対応。
- 第 3 回 項目 心理療法面接における諸問題と対応。
- 第 4 回 項目 心理テストの活用の仕方について。
- 第 5 回 項目 教育臨床場面における不適応行動の理解と対応（1） 学校・学業・友人関係に関する問題。
- 第 6 回 項目 教育臨床場面における不適応行動の理解と対応（2） 自己破壊・他者破壊に関する問題。
- 第 7 回 項目 教師の心の健康の問題と対応－抑うつ・自殺・不祥事・停職など。
- 第 8 回 項目 セラピストクライアント関係における諸問題と対応。
- 第 9 回 項目 臨床場面における夢の利用について。
- 第 10 回 項目 臨床場面における絵の利用について。
- 第 11 回 項目 臨床場面におけるイメージの利用について。
- 第 12 回 項目 他の専門職・専門機関との連携上の諸問題と対応。
- 第 13 回 項目 臨床援助チームにおけるリーダーシップの問題と対応。
- 第 14 回 項目 臨床事例研究。
- 第 15 回 項目 臨床事例研究。

●**教科書・参考書** 参考書：新版 心理臨床家の手引，鑓幹八郎・名島潤慈編著，誠信書房，2000 年；臨床場面における夢の利用，名島潤慈，誠信書房，2003 年

●**メッセージ** レポートがたくさんあります。7つか8つくらい。がんばって下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	臨床心理学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

●**授業の概要** 現代の思春期・青年期における臨床的テーマとして、不登校・ひきこもり問題および摂食障害を取り上げ、その発症のメカニズムや援助方法について、個人、家族、コミュニティを視野に入れながら考えていく。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 不登校・ひきこもりの実態
- 第 3 回 項目 不登校の歴史的変遷
- 第 4 回 項目 発達の観点からみた不登校
- 第 5 回 項目 不登校のタイプ
- 第 6 回 項目 不登校の背景要因
- 第 7 回 項目 現代の対人関係と不登校・ひきこもり問題
- 第 8 回 項目 学校制度と不登校
- 第 9 回 項目 不登校の援助 - 思春期まで
- 第 10 回 項目 不登校の援助 - 思春期以降
- 第 11 回 項目 ひきこもりの援助
- 第 12 回 項目 摂食障害の事例検討
- 第 13 回 項目 摂食障害の発症メカニズム
- 第 14 回 項目 摂食障害の治療 - 拒食症
- 第 15 回 項目 摂食障害の治療 - 過食症

開設科目	臨床心理査定演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

- 授業の概要** 心理アセスメントに関して、特に発達面を重視した発達検査、知能検査、臨床描画法等の実施方法やその解釈について、事例を紹介しながら議論を行う／**検索キーワード** 臨床心理学 アセスメント 発達
- 授業の一般目標** 心理アセスメントを中心にして、カウンセリングにおける基本的な視点について議論する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 専門的知識と高度な理解を習得する。 **思考・判断の観点**： 心理臨床に必要な思考や判断を習得する。 **関心・意欲の観点**： 心理臨床に対する深い関心を養う。
- 授業の計画（全体）** 自験例を中心にして、事例検討を通して議論を深める。
- 成績評価方法（総合）** 演習での積極的な態度を評価に入れる。

開設科目	臨床心理査定演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

●**授業の概要** 臨床的な心理査定の理論・技法について考究します。／**検索キーワード** 臨床心理学。査定。評価。アセスメント。心理テスト。投影法。

●**授業の一般目標** 心理査定のやり方を具体的に習得できるようにします。

●**授業の計画（全体）** 臨床心理査定に関する基礎的な事柄を中心にして講義する。また、さまざまな投映法を実際に施行して見ることによって、投映法の意義や限界を会得してもらう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 臨床心理査定概論。心理査定における倫理。テスト契約。

第 2 回 **項目** 面接による心理査定。

第 3 回 **項目** 質問紙法による心理査定。

第 4 回 **項目** 投影法による心理査定（1） バウムテスト。

第 5 回 **項目** 投影法による心理査定（2） 誘発線技法。

第 6 回 **項目** 投影法による心理査定（3） 人物画・家族画。

第 7 回 **項目** 投影法による心理査定（4） TAT・RT。

第 8 回 **項目** 投影法による心理査定（5） 夢。

第 9 回 **項目** 心理テストの組み合わせの仕方について。

第 10 回 **項目** 心理査定における治療的側面について。

第 11 回 **項目** クロッパー法ロールシャッハテストのスコアリング。

第 12 回 **項目** クロッパー法ロールシャッハテストの解釈。

第 13 回 **項目** クロッパー法ロールシャッハテストの RPRS（ロールシャッハ予後評定尺度）について。

第 14 回 **項目** 心理査定の事例研究。

第 15 回 **項目** 心理査定の事例研究。

●**教科書・参考書** 教科書：必要な論文はコピーして配布します。

●**メッセージ** 最終レポートの題目は、「新しい投影法を何か一つ考案して、それを実際に被検者に適用して、その臨床的妥当性を検討する。テストは、既存の投影法をもとにして発展させたものでもよい」というものです。がんばって下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465



開設科目	臨床心理面接特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

- 授業の概要** 参加者が実施した実際の事例を報告してもらい、事例を通して面接で生じやすい問題点を具体的に検討する
- 授業の一般目標** 事例報告を通して、より深いクライアント理解を進める。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 専門的な知識や理解をさらに臨床的に深める。 **思考・判断の観点**： 今、ここでの判断力を習得する。 **関心・意欲の観点**： クライアントへの深い関心を習得する。
- 授業の計画（全体）** 事例報告とそのスーパーヴィジョンを行う。

開設科目	臨床心理面接特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

●**授業の概要** フォーカシングおよび間主観的アプローチの実際とその意義、適用上の留意点等を、スクールカウンセリングの立場から体験的に学ぶ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 フォーカシングとは何か
- 第 2 回 項目 フォーカシングの生い立ち
- 第 3 回 項目 フォーカシングとフェルト・センス
- 第 4 回 項目 フォーカシング実習
- 第 5 回 項目 フォーカシング実習
- 第 6 回 項目 心理面接における非言語的相互作用 心理臨床における間主観的な場
- 第 7 回 項目 心理臨床における間主観的な場
- 第 8 回 項目 「間」の相互性とその臨床援助的活用
- 第 9 回 項目 間主観的体験の臨床的援助活用
- 第 10 回 項目 間主観的体験を活かした心理療法
- 第 11 回 項目 間主観的体験を活かした心理療法
- 第 12 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用
- 第 13 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用
- 第 14 回 項目 フォーカシングの学校臨床への適用
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	臨床心理基礎実習	区分	実験・実習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊・他				

●**授業の概要** 心理臨床場面における実践上の基本的な事項に関して具体的に学ぶ。心理臨床心理家としての基本的倫理や心理面接における傾聴的態度など、ロールプレイや資料に基づいて体験的に学習する。

／**検索キーワード** 専門性、倫理、受付、インテイク、ロールプレイ

●**授業の一般目標** 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回 項目 心理臨床場面に関する理解 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉

第2回 項目 心理臨床家としての倫理 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉

第3回 項目 臨床心理士の専門性と職務 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉

第4回 項目 電話受付とその対応 内容 恒吉・堂野・名島・大石・木谷

第5回 項目 紹介と面接記録 内容 恒吉・堂野・名島・大石・木谷

第6回 項目 インテイク面接への展開 内容 恒吉・堂野・名島・大石・木谷

第7回 項目 インテイク面接（I） 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・大石

第8回 項目 インテイク面接（II） 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・大石

第9回 項目 インテイク面接（III） 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・大石

第10回 項目 ロールプレイ（I）－（1） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島

第11回 項目 ロールプレイ（I）－（2） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島

第12回 項目 ロールプレイ（I）－（3） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島

第13回 項目 ロールプレイ（II）－（1） 内容 名島・大石・木谷・恒吉・堂野

第14回 項目 ロールプレイ（II）－（2） 内容 名島・大石・木谷・恒吉・堂野

第15回 項目 ロールプレイ（II）－（3） 内容 名島・大石・木谷・恒吉・堂野

●**成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート＝40～60％ 授業態度や授業への参加度＝20～40％ 演習＝20～40％ 出席＝20～40％

●**教科書・参考書** 教科書：テーマごとに資料を配付する。／参考書：その都度指示する。

●**メッセージ** 具体的な実践上の諸課題について体験的に学ぶので、積極的に参加して下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384, オフィスアワー 水：1／2 名島潤慈：電話 933-5465, 研究室 363 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	臨床心理基礎実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	堂野佐俊・他				

●**授業の概要** 心理臨床場面における実践上の基本的な事項に関して具体的に学ぶ。心理臨床家としての基本的倫理や心理面接における傾聴の態度など、ロールプレイや資料等に基づいて体験的に学ぶ。／**検索キーワード** 社会資源、発達障害、養護学校、現象学、精神科

●**授業の一般目標** 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 心理臨床場面における実践上の基本的態度や事項に関して具体的に修得し、心理臨床家としての基本的な倫理や心理面接における基本的態度などについて、体験的に理解を深める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 心理臨床における実践的活動 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉
- 第2回 項目 関連法規と心理臨床 内容 名島・堂野・大石・木谷・恒吉
- 第3回 項目 社会資源の理解と活用 内容 名島・堂野・大石・木谷・恒吉
- 第4回 項目 児童臨床の理解 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・大石
- 第5回 項目 児童臨床の実際と関わり方 内容 木谷・恒吉・堂野・名島・大石
- 第6回 項目 障害児童生徒の理解（I）：附属養護学校参加実習 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉
- 第7回 項目 障害児童生徒の理解（II）：附属養護学校参加実習 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉
- 第8回 項目 発達障害児童生徒の理解 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉
- 第9回 項目 心的外傷とPTSD 内容 堂野・名島・大石・木谷・恒吉
- 第10回 項目 現象学的接近法（I） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島
- 第11回 項目 現象学的接近法（II） 内容 大石・木谷・恒吉・堂野・名島
- 第12回 項目 精神科領域での心理臨床の実際 内容 恒吉・堂野・名島・大石・木谷
- 第13回 項目 精神科領域と近接領域 内容 恒吉・堂野・名島・大石・木谷
- 第14回 項目 全体通しての討論 内容 名島・大石・木谷・恒吉・堂野
- 第15回 項目 全体通しての討論とまとめ 内容 名島・大石・木谷・恒吉・堂野

●**成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート = 40～60% 授業態度や授業への参加度 = 20～40% 出席 = 20～40%

●**教科書・参考書** 教科書：特には指定しません。／参考書：各担当者により、適宜資料を配布します。

●**メッセージ** 具体的な実践上の諸課題について体験的に学ぶので、積極的に参加して下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384, オフィスアワー 水：1／2 名島潤慈：電話 933-5465, 研究室 363 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	臨床心理実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	堂野佐俊・名島潤慈・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

- 授業の概要** 心理臨床の実際場面で実習を行う。本実習においては、2種類の実習を行う。(1) 山口大学教育学部附属「心理教育相談室」で実際にケースを担当し、面接の進め方について指導を行う。(2) 「山口県精神保健福祉センター」において実習を行う。／**検索キーワード** 実習、心理臨床、面接、相談、セラピー
- 授業の一般目標** 心理臨床の実際場面で実習を行い、ケースを担当し、面接の進め方について学習を行う。特に、臨床場面における具体的な面接相談において、基本的方針を確認し、心理臨床家として直面する諸問題への対処の仕方について学ぶ。また、外部の臨床機関（山口県精神保健福祉センター）における実習を通して、さまざまなクライアントについて理解を深める。
- 授業の計画（全体）** (1) 「心理教育相談室」における実習では、同相談室において受けられるケースを担当し、指導教官のスーパーバイズを受けながら面接を経験する中で、心理臨床のあり方を学習する。(2) 「山口県精神保健福祉センター」における実習では、毎週（木曜日）一日（9時間）同センターを訪問し、5週間にわたるクライアントとの接触を通して、心理臨床場面の実際について、センターの担当臨床心理士の指導も受けながら理解を深める。
- 成績評価方法（総合）** 宿題／授業外レポート = 40～60% 出席 = 40～60%
- 教科書・参考書** 教科書：特には指定しません。／参考書：担当者により、資料が配布される場合がある。
- メッセージ** 「実習」としての意義を理解し、積極的に参加して下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384, オフィスアワー 水：1／2 名島潤慈：電話 933-5465, 研究室 363 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	臨床心理実習	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊・名島潤慈・大石英史・木谷秀勝・恒吉徹三				

●**授業の概要** 心理臨床心理の実際場面での実習を行う。本実習においては、以下の2種類の実習を行う。(1) 山口大学教育学部附属「心理教育相談室」で実際にケースを担当し、面接・相談の進め方等について指導を行う。(2) 病院実習として以下の2施設の中、どちらかを選択して実習する。[A] 山口大学医学部附属病院「精神科神経科」 [B] 山口県「小郡まきはら病院」／**検索キーワード** 実習、心理臨床、面接、相談、セラピー

●**授業の一般目標** 心理臨床心理の実際場面での実習を行い、ケースを担当し、相談・面接の進め方について学習する。特に、臨床場面における具体的な事例に直面しながら、基本的方針を確認し、心理臨床家として経験する諸問題への対処の仕方について学ぶ。また、病院実習として、実際の精神科病院で実習を行い、さまざまなクライアントについて理解を深める。

●**授業の計画(全体)** (1)「心理教育相談室」における実習では、同相談室において受け付けられるケースを担当し、指導教官のスーパーバイズを受けながら面接相談を経験する中で、心理臨床のあり方を学習する。(2) 病院実習においては、「医学附属病院」か「小郡まきはら病院」のどちらかにおいて、一週間(5日間：1日9時間)集中的に実習を行い、同病院の医師や臨床心理士の指導も受けながら、さまざまなクライアントの実態について理解を深める。

●**成績評価方法(総合)** 宿題／授業外レポート = 40～60% 出席 = 40～60%

●**教科書・参考書** 教科書：特には指定しません。／参考書：担当者により指示がある場合がある。

●**メッセージ** 本来の「実習」としての意義を理解し、積極的に参加して下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 堂野佐俊：電話 933-5449, 研究室 384 熊谷信順：電話 933-5465, 研究室 363 大石英史：電話 933-5454, 研究室 376 木谷秀勝：電話 933-5464, 研究室 実践センター 恒吉徹三：電話 933-5446, 研究室 392

開設科目	学校教育実践研究	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	西村正登他				

●**授業の概要** 学校教育に関する諸問題を教育学、心理学、障害児教育、幼児教育、情報教育、国際理解教育等の観点から実践的に考察する。／**検索キーワード** 学校、教育、実践

●**授業の一般目標** (1) 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解する。(2) 学校教育の諸問題について関心を持ち、主体的に考えることができる。(3) 学校教育の諸問題を実践的な観点から研究する方法を学び、理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 学校教育に関する諸問題を実践的な観点から理解できる。  
**思考・判断の観点**： 1. 学校教育の諸問題を実践的な観点から思考し、判断することができる。**関心・意欲の観点**： 1. 教育についての実践的な関心を広げ、問題意識を高めることができる。**態度の観点**： 1. 教育についての実践的な態度を養い、高めることができる。

●**成績評価方法(総合)** 各担当教員が評価したものを総合して平均値を出す。

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。各授業担当教員が準備する。／ 参考書： 使用しない。

●**メッセージ** 授業には欠席しないようにして下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** 各授業担当の教員

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

- 授業の概要** 臨床心理学に関する基礎的な学習を行う。具体的には各自が興味をもっているテーマに関する文献を講読し、指導教官とディスカッションを行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

- 授業の概要** 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う。
- 授業の一般目標** 児童へのカウンセリングだけでなく、児童精神医学を含めた多面的なアプローチの可能性について議論する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：専門的な知識の獲得をめざす **思考・判断の観点**：子どもの心の問題への多面的な思考と、速やかで適切な判断力を形成する。 **関心・意欲の観点**：子どもの心の世界の複雑さに十分な関心をもつようになることをめざす。
- 授業の計画（全体）** 演習形式で、重要な論文を講読する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	熊谷信順				

●授業の概要 各自の研究課題に関連する分権的考察を積む。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

- 授業の概要** 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。あらかじめ研究課題として各受講生が設定しているテーマについて発表し議論を深めながら、当該研究分野を概観していく。特に、臨床心理学分野での研究について取り上げること。その際には、研究の理解を深めるだけでなく、心理臨床においてどのような貢献ができるかも視野に入れてすすめていく。／**検索キーワード** テーマ、問題意識の明確化、文献展望
- 授業の一般目標** 受講者が取り組む研究課題についてより明確にすることが本セメスターの目標である。さらに、当該分野でのこれまでの研究について概観することを目指す。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：心理学の基礎的な知識および研究方法について基礎的理解できる。  
**思考・判断の観点**：心理学的に事象をとらえることができる。
- 授業の計画（全体）** まず、各自が設定した課題について発表し、研究テーマを明確にするための議論を重ねる。さらに、当該研究領域の現状を踏まえて、問題設定をより明確にする。
- 成績評価方法（総合）** 各自の担当した発表内容により評価する。ただし、講義実施回数の3分の2以上の出席が評価の前提となる。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	堂野佐俊				

- 授業の概要** 修士論文の作成に向け、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。／**検索キーワード** 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標** 修士論文の作成に向け、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。
- 授業の計画（全体）** 修士論文の作成に向け、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の資料に基づいた発表の内容が評価の中心となるが、出席や意欲・態度も評価の対象となる。
- 教科書・参考書** 教科書：特に指定はしません。／参考書：その都度指摘します。
- メッセージ** 有意義な修士論文の作成に向けて自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

- 授業の概要** 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／**検索キーワード** 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標** 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ** レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	大石英史				

●授業の概要 臨床心理学に関する応用的な学習を行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	木谷秀勝				

- 授業の概要** 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う
- 授業の一般目標** 主に修士論文にテーマに関連した論文を講読して、専門的分野への理解を深める。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：深い知識と理解をめざす **思考・判断の観点**：客観的な判断力を形成する。 **関心・意欲の観点**：より高い学問的関心と意欲を培う。
- 授業の計画（全体）** 論文の講読を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	熊谷信順				

●**授業の概要** 前期の課題研究を踏まえ、討議を通して研究課題の具体化を進める。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

●**授業の概要** 修士論文の作成に直結するような課題について論考し、具体的な研究計画を立てていく。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	恒吉徹三				

- 授業の概要** 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。前 Semester までの間に明確にされ、かつ予備的研究の実施によって具体的となった研究課題について、データ収集を行い、目的に沿って結果を整理する。この結果を発表し、討論を行う。特に、データ収集に際する人権や倫理的な点についても十分に検討する。／**検索キーワード** 研究手法、データ収集、結果の整理
- 授業の一般目標** 研究課題を明確にしたうえで、さらに予備的な研究（調査、観察などにより）を当該分野においてすすめる。その上でさらに、課題にそった研究手法や実施計画を再検討することを目標とする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：心理学および臨床心理学について十分に理解できている。 **思考・判断の観点**：事象を心理学の観点からとらえることができる。 **技能・表現の観点**：心理学的手法にもとづいて研究をすすめることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が設定した課題について発表し、研究テーマを明確にするための議論を重ねる点は、前期と同様である。この過程で問題をより明確にし、予備的な研究に取り組む。そのうえで、さらに問題の明確化と研究の実施計画をより実際的に検討する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	堂野佐俊				

- 授業の概要** 修士1年次の基礎的な文献研究に引き続き、修士論文の作成に向け、実質的な研究の立案・計画・実践のプロセスに応じて、個別的な討議と相宇段を継続しながら、円滑な研究へ進展させる／**検索キーワード** 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標** 修士1年次の基礎的な文献研究に引き続き、修士論文の作成に向け、実質的な研究の立案・計画・実践のプロセスに応じて、個別的な討議と相宇段を継続しながら、円滑な研究へ進展させる。
- 授業の計画（全体）** 修士1年次の基礎的な文献研究に引き続き、修士論文の作成に向け、実質的な研究の立案・計画・実践のプロセスに応じて、個別的な討議と相宇段を継続しながら、円滑な研究へ進展させる。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の授業時における資料に基づいた発表と意欲・態度が評価の対象となる。
- 教科書・参考書** 教科書：特に指定はしません。／参考書：その都度指摘します。
- メッセージ** 有意義な修士論文の作成に向けて自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	名島潤慈				

●**授業の概要** 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／**検索キーワード** 臨床心理学。心理テスト。心理療法。

●**授業の一般目標** 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。

●**メッセージ** レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田廣				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

●授業の概要 臨床心理学に関する基礎的な学習を行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

- 授業の概要** 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う
- 授業の一般目標** 前期の続きを行う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：前期と同じ **思考・判断の観点**：前期と同じ **関心・意欲の観点**：前期と同じ
- 授業の計画（全体）** 前期と同じ
- 成績評価方法（総合）** 前期と同じ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	熊谷信順				

●授業の概要 討議しながら、研究課題に具体的に取り組む。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

- 授業の概要** 前期に引き続き、修士論文の作成に直結するような課題について、調べたり、ディスカッションを行い、深く追求する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

●**授業の概要** 演習の進行は、前期と同様に、受講者の発表を中心にすすめる。各受講者の研究課題について発表し議論を深めながらすすめる。前期の講義で概観した当該研究分野について、さらに理解を深め、予備的なレベルでの調査や観察を実施し、さらにテーマについて理解を深める。臨床心理学分野での研究の位置付けや、心理臨床においてどのような貢献ができるかも視野に入れてすすめていくこと。  
／**検索キーワード** 問題意識の明確化、予備的調査、研究手法の検討

●**授業の一般目標** 受講者が設定した研究課題について、実際にデータ収集を行い、結果を整理する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：心理学および臨床心理学の知識について十分に理解ができる。  
**思考・判断の観点**：事象を心理学的な観点からとらえることができる。**技能・表現の観点**：心理学的手法にもとづいて研究をすすめることができる。

●**授業の計画（全体）** まず、各自が設定した課題について発表し、さらに研究テーマを明確にするための議論を重ねる。その上で、実際にデータ収集を行い、この結果について議論する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊				

- 授業の概要** 修士1年次前期に引き続き、修士論文の作成に向けて、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけを行う。／**検索キーワード** 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標** 修士1年次前期に引き続き、修士論文の作成に向けて、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけをおこなう。
- 授業の計画（全体）** 修士1年次前期に引き続き、修士論文の作成に向けて、日常的な研究の立案・計画・実践のプロセスの各段階に応じて、個別的な討議と相談を蓄積する中で、円滑な研究への方向づけをおこなう。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の資料に基づいた発表の内容が評価の中心となるが、出席や意欲・態度も評価の対象となる。
- 教科書・参考書** 教科書： 特には指定しません。／ 参考書： その都度指摘します。
- メッセージ** 有意義な修士論文の作成に向けて自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

- 授業の概要** 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／**検索キーワード** 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標** 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ** レポート発表がたくさんありますので、がんばってください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	大石英史				

●授業の概要 臨床心理学に関する応用的学習を行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	木谷秀勝				

- 授業の概要** 前期・後期を通して、児童精神医学とその関連領域の重要な文献の講読を行う
- 授業の一般目標** 前期と同じ
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：前期と同じ **思考・判断の観点**：前期と同じ **関心・意欲の観点**：前期と同じ
- 授業の計画（全体）** 前期と同じ
- 成績評価方法（総合）** 前期と同じ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	熊谷信順				

●授業の概要 各自の研究データについて討議し、分析、まとめの指導をする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田邊敏明				

- 授業の概要** 修士論文の課題について論考し、前期で立てた研究計画を実際に遂行していく。そして学校現場に役立つ視点や、学校臨床心理士としての役割遂行に関わるような視点から考察していく。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	恒吉徹三				

●**授業の概要** 演習は、受講者の発表を中心にすすめる。自ら実施した調査データ結果に基づいて考察を行い、研究課題の取り組みについてのまとめを行う。特に、臨床心理学分野での研究の位置付け、心理臨床への貢献についても視野に入れてすすめていく。／**検索キーワード** 結果の考察、研究を意味付ける、心理臨床への貢献

●**授業の一般目標** 受講者が設定した研究課題について、実際にデータ収集を行い、結果を整理する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：心理学および臨床心理学の知識について十分に理解できる。 **思考・判断の観点**：事象を心理学の観点からとらえることができる。 **技能・表現の観点**：心理学的手法にもとづいて研究をすすめることができる。

●**授業の計画（全体）** まず、各自が設定した課題について発表し、さらに研究テーマを明確にするための議論を重ねる。その上で、実際にデータ収集を行い、この結果について議論する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	堂野佐俊				

- 授業の概要** 修士1年次前期・後期、及び2年次前期に引き続き、かなり具体的にになった修士論文の作成を進展させる中で、具体的・現実的課題・問題に対して、個別的な討議と相談を繰り返し、えんかつな論文作成へと向かう。／**検索キーワード** 心理学、発達心理学、臨床心理学、家族心理学
- 授業の一般目標** 修士1年次前期・後期、及び2年次前期に引き続き、かなり具体的にになった修士論文の作成を進展させる中で、具体的・現実的課題・問題に対して、個別的な討議と相談を繰り返し、えんかつな論文作成へと向かう。
- 授業の計画（全体）** 修士1年次前期・後期、及び2年次前期に引き続き、かなり具体的にになった修士論文の作成を進展させる中で、具体的・現実的課題・問題に対して、個別的な討議と相談を繰り返し、えんかつな論文作成へと向かう。
- 成績評価方法（総合）** 毎回の資料に基づいた発表の内容が評価の中心となるが、出席状況や意欲・態度も評価の対象となる。
- 教科書・参考書** 教科書： 特には指定しません。／ 参考書： その都度指示します。
- メッセージ** 有意義な修士論文の作成に向けて、自主的・積極的に取り組んで下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** 堂野研究室（5449）・水曜日（10:30～12:00）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	名島潤慈				

- 授業の概要** 学生さん自身が関心を抱いている臨床心理学的テーマについて深く広く考究します。／**検索キーワード** 臨床心理学。心理テスト。心理療法。
- 授業の一般目標** 臨床心理学とは何かを会得してもらいます。
- メッセージ** レポート発表がたくさんありますので、がんばって下さい。修士論文の仕上げの時期でもあります。一步一步着実に研究を進めていって下さい。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:najima@yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5465

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田廣				

# 国語教育専修



開設科目	国語科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原マリ子				

- 授業の概要** 今日の国語科教育が抱える諸問題のうちから、各自の研究テーマに沿った課題を選び、教材・指導方法・評価法等について、史的検証を交えつつ考究してゆく。／**検索キーワード** 国語教育、学習指導方法、教科書史
- 授業の一般目標** (1) 国語科教育が抱える今日的課題について認識を深め、自分の見解をまとめて適切に発表する技能を身につける。(2) 先行研究に学びつつ、広い視野から学習改善の方途を探る態度を習得する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1 今日の国語科教育が抱える課題についてその背景を理解し、説明することができる。**思考・判断の観点**： 1 問題点について広い視野から考察し、検討することができる。**関心・意欲の観点**： 1 国語科教育の今日的課題について深い関心をもち、実際の授業改善に活かす意欲をもち。**態度の観点**： 1 様々な問題について主体的に考えることができる。**技能・表現の観点**： 1 考察の結果を口答や文章で適切に表現することができる。
- 授業の計画(全体)** 国語科が抱える多様な問題について、各自の研究テーマに沿った観点からそれぞれ課題を選び、順次、ゼミ形式で、講義と発表、自由討議により検討を加えてゆく。
- 成績評価方法(総合)** 授業中の担当課題の発表、自由討議への参加の状況により評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書： 特に使用せず。／ 参考書： 授業中に随時、紹介する。
- メッセージ** 国語科教育の諸問題に幅広い関心をもち、主体的に授業に参加することを望む。

開設科目	国語科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	長崎伸仁				

●**授業の概要** 国語科教育の基礎的な考え方について学び、そのことについて話し合う。(1)～(15)

●**授業の一般目標** 国語科教育の基礎的な考え方に興味を持ち、積極的に先学の考え方を学ぼうとすることができる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：国語科教育の理論を理解することができる。 **思考・判断の観点**：国語科教育の理論について、深く考えることができる。 **関心・意欲の観点**：国語科教育の理論について、興味・関心を抱くことができる。 **態度の観点**：国語科教育の理論について、積極的に学ぼうとすることができる。

●**授業の計画（全体）** 国語科教育の先学の理論を読み合い、討議する。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 討議

第 3 回 項目 討議

第 4 回 項目 討議

第 5 回 項目 討議

第 6 回 項目 討議

第 7 回 項目 討議

第 8 回 項目 討議

第 9 回 項目 討議

第 10 回 項目 討議

第 11 回 項目 討議

第 12 回 項目 討議

第 13 回 項目 討議

第 14 回 項目 討議

第 15 回 項目 討議

開設科目	国語科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原マリ子				

- 授業の概要** 国語科教育の理論や実践に関する先行研究論文や実践記録等を参照しつつ、国語科教育における今日的課題の解決に努める。各自の研究テーマに沿って課題を選択し、模擬授業やレジメの作成・発表を行う。自由討議を経て、研究の深化を図る。／**検索キーワード** 国語科教育
- 授業の一般目標** (1) 発表・自由討議を経て、広い視野を培い、各自の研究を深める。(2) 研究成果を、実際の学習指導の改善に活かす方途を探る。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1 国語科教育の諸問題の背景について説明できる。 **思考・判断の観点**： 1 問題点を指摘し、考察を加えることができる。 **関心・意欲の観点**： 1 国語科の諸問題に深い関心を持ち、実際の学習改善に活かす強い意欲をもつ。 **態度の観点**： 1 広い視野から、課題を検討することができる。 **技能・表現の観点**： 1 自己の見解を文章や口答で、適切に表現することができる。
- 授業の計画(全体)** 国語科の諸問題について、各自の研究テーマに沿った課題を決定し、各自が分担して、ゼミ形式で発表・討議・批評を行ってゆく。
- 成績評価方法(総合)** (1) 授業中の発表および自由討議への参加状況 (2) レポート提出 により総合的に判断する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書： 特に使用しない。／ 参考書： 授業中に随時、紹介する。
- メッセージ** 明確な目的意識をもって、主体的に授業に参加することを望む。

開設科目	国語科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	長崎伸仁				

- 授業の概要** 国語科教育の先学の理論について読み、発表する。
- 授業の一般目標** 国語科教育の先学の理論について、理解し、自分の実践に生かしていくことができる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国語科教育の先学の理論について、理解することができる。 **思考・判断の観点**：国語科教育の先学の理論について学び、現在の理論と比較・対照することができる。**関心・意欲の観点**：国語科教育の先学の理論を学ぼうという興味・関心を抱くことができる。 **態度の観点**：国語科教育の先学の理論を、自分の実践に積極的に生かしていこうとすることができる。
- 授業の計画（全体）** 国語科教育の先学の理論を読み、演習形式での授業を行う。
- 授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 発表・討議
- 第 3 回 項目 発表・討議
- 第 4 回 項目 発表・討議
- 第 5 回 項目 発表・討議
- 第 6 回 項目 発表・討議
- 第 7 回 項目 発表・討議
- 第 8 回 項目 発表・討議
- 第 9 回 項目 発表・討議
- 第 10 回 項目 発表・討議
- 第 11 回 項目 発表・討議
- 第 12 回 項目 発表・討議
- 第 13 回 項目 発表・討議
- 第 14 回 項目 発表・討議
- 第 15 回 項目 発表・討議

開設科目	国語学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

●**授業の概要** 本授業は、日本語の方言教育（文法教育）の実態を調査研究し、それを踏まえて、斬新な方言教育教材を開発することを目的とする。／**検索キーワード** 日本語、方言、教育、教材

●**授業の一般目標** (1) 日本の方言教育の実態を考察できる。(2) 方言教育教材の開発に高い関心を示し、主体的に考えることができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 日本の方言教育の実態を調査し、体系的に分析できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 方言教育教材の開発に新たな観点から参加することができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** シラバスの説明 **授業外指示** シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 **項目** 実態研究 (1) **内容** 論文紹介
- 第 3 回 **項目** 実態研究 (2) **内容** 論文紹介
- 第 4 回 **項目** 実態研究 (3) **内容** 教科書研究
- 第 5 回 **項目** 実態研究 (4) **内容** 教科書研究
- 第 6 回 **項目** 実態研究 (5) **内容** 教科書研究
- 第 7 回 **項目** 実態研究 (6) **内容** 教科書研究
- 第 8 回 **項目** 実態研究 (7) **内容** 海外の国語・方言教育
- 第 9 回 **項目** 実態研究 (8) **内容** 海外の国語・方言教育
- 第 10 回 **項目** 教材開発準備 (1) **内容** 目的、目標、ツール
- 第 11 回 **項目** 教材開発準備 (2)
- 第 12 回 **項目** 教材開発準備 (3)
- 第 13 回 **項目** 教材開発準備 (4)
- 第 14 回 **項目** 教材開発準備 (5)
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 問題点、展望

●**成績評価方法（総合）** (1) 調査研究・発表の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書はなし。／参考書：授業中に適宜指示する。

●**メッセージ** 先入観を捨ててください。

●**連絡先・オフィスアワー** arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

●**授業の概要** 本授業は、前期開講の「国語学特論 I」を踏まえて、斬新な観点からの方言教育教材を開発することを目的とする。受講生自らが開発した教材の披露及びそれに対する議論が中心となる。／**検索キーワード** 日本語、方言、教育、教材

●**授業の一般目標** (1) 新しい観点からの方言教育教材を創造できる。(2) 提示された教材に対し、主体的に討議できる。(3) 方言教育教材の開発に高い関心を示す。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 1. 斬新な観点からの方言教育教材を段階的に組み立てることができる。 2. 提示された教材に対し、論理的に討議できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 方言教育教材の開発に意欲的に参加できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** シラバスの説明 **授業外指示** シラバスを読んでおくこと
- 第 2 回 **項目** 教材開発準備 (1) **内容** 目的、目標、ツール
- 第 3 回 **項目** 教材開発準備 (2) **内容** 研究計画
- 第 4 回 **項目** 教材開発準備 (3)
- 第 5 回 **項目** 教材開発 (1) **内容** 発表
- 第 6 回 **項目** 教材開発 (2) **内容** 発表
- 第 7 回 **項目** 教材開発 (3) **内容** 発表
- 第 8 回 **項目** 教材開発 (4) **内容** 発表
- 第 9 回 **項目** 教材開発 (5) **内容** 発表
- 第 10 回 **項目** 教材開発 (6) **内容** 発表
- 第 11 回 **項目** 教材開発 (7) **内容** 発表
- 第 12 回 **項目** 教材開発 (8) **内容** 発表
- 第 13 回 **項目** 教材開発 (9) **内容** 発表
- 第 14 回 **項目** 教材開発 (10) **内容** 発表
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 問題点、課題、展望

●**成績評価方法（総合）** (1) 教材開発結果・発表の仕方を評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。  
なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書はなし。／参考書：授業中に適宜指示する。

●**メッセージ** 先入観を捨ててください。

●**連絡先・オフィスアワー** arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階 445 室

開設科目	国語学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中野伸彦				

●**授業の概要** 国語史上における近世語、主として江戸語に関わる問題点について、いくつかのテーマをとりあげて考えていく。受講者にも、それぞれが興味を持ったテーマについての調査を行ってもらい、その結果の発表とそれに対する討議を行ないながら、授業を進めていく。／**検索キーワード** 国語史、江戸語

●**授業の一般目標** 国語史上の近世語について、理解を深める。日本語を歴史的に見ることへの関心を高める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国語史上の近世語について、理解を深める。**関心・意欲の観点**：日本語を歴史的に見るに関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業の概要
- 第 2 回 項目 国語史上の江戸語（1）
- 第 3 回 項目 国語史上の江戸語（2）
- 第 4 回 項目 国語史上の江戸語（3）
- 第 5 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（1）
- 第 6 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（2）
- 第 7 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（3）
- 第 8 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（4）
- 第 9 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（5）
- 第 10 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（6）
- 第 11 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（7）
- 第 12 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（8）
- 第 13 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（9）
- 第 14 回 項目 受講者による調査結果の発表と討議（10）
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階

開設科目	国語学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中野伸彦				

●**授業の概要** 演習形式で、近世の国語資料を読みながら、そこにあらわれた問題について考えていく。／**検索キーワード** 近世語、資料についての調査

●**授業の一般目標** 資料を基に、言葉について考えていく方法を身につける。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：資料を基に、言葉について考えていくことができる。

●**授業の計画（全体）** 受講生の発表及びそれに対する討議という形で授業を進めていく。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 授業の概要、発表の分担決め
- 第 2 回 項目 発表とそれについての討議（1）
- 第 3 回 項目 発表とそれについての討議（2）
- 第 4 回 項目 発表とそれについての討議（3）
- 第 5 回 項目 発表とそれについての討議（4）
- 第 6 回 項目 発表とそれについての討議（5）
- 第 7 回 項目 発表とそれについての討議（6）
- 第 8 回 項目 発表とそれについての討議（7）
- 第 9 回 項目 発表とそれについての討議（8）
- 第 10 回 項目 発表とそれについての討議（9）
- 第 11 回 項目 発表とそれについての討議（10）
- 第 12 回 項目 発表とそれについての討議（11）
- 第 13 回 項目 発表とそれについての討議（12）
- 第 14 回 項目 発表とそれについての討議（13）
- 第 15 回 項目 発表とそれについての討議（14）

●**成績評価方法（総合）** 授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：n.nakano@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 4 階



開設科目	国文学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

●**授業の概要** 古典文学と教材についての講義を行う。古典教材として古典をとらえたばあい、そのねらいは何か、どのようなことに注意を払うべきかを具体的なテキストを中心に考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 古典文学の概要 1
- 第 2 回 項目 古典文学の概要 2
- 第 3 回 項目 古典文学の概要 3
- 第 4 回 項目 古典文学の概要 4
- 第 5 回 項目 文学研究と教材研究 1
- 第 6 回 項目 文学研究と教材研究 2
- 第 7 回 項目 文学研究と教材研究 3
- 第 8 回 項目 文学研究と教材研究 4
- 第 9 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 1
- 第 10 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 2
- 第 11 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 3
- 第 12 回 項目 教材化するにあたっての諸注意 4
- 第 13 回 項目 各論 1
- 第 14 回 項目 各論 2
- 第 15 回 項目 各論 3

開設科目	国文学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

●**授業の概要** 古典文学教材を中心に、受講者の個々の興味や疑問点のあるところを対象とした演習形式の授業を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 2 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 3 回 項目 受講者の問題意識確定
- 第 4 回 項目 問題への取り組み
- 第 5 回 項目 問題への取り組み
- 第 6 回 項目 問題への取り組み
- 第 7 回 項目 問題の解決
- 第 8 回 項目 問題の解決
- 第 9 回 項目 問題の解決
- 第 10 回 項目 発表
- 第 11 回 項目 発表
- 第 12 回 項目 発表
- 第 13 回 項目 最終まとめ
- 第 14 回 項目 最終まとめ
- 第 15 回 項目 最終まとめ

開設科目	国文学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林恒徳				

●**授業の概要** ・中世語り物文芸（軍記物語）を代表する作品のひとつ「平家物語」をとりあげる。 ・本授業では物語中の登場人物に視点を置いて、その人物造型の方法を確認する。／**検索キーワード** 語り物文芸 人物造型 音読

●**授業の一般目標** ・国語教育（古典文学教育）に携わる学生の受講が予想されるので、その点を踏まえて授業を進める。 ・〈語り〉という方法によって成立した作品であるので、音読を重視したい。 ・「平家物語」を読む愉しみに触れる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 古典文学への知見と理解を深める **技能・表現の観点**： 古典と音読

●**授業の計画（全体）** ・「平家物語」への知見を深めるべく、この作品の読みの方法について講ずる。 ・作品本文に沿って講ずることにも留意しつつ、進める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 基本的なガイダンス **内容** 「平家物語」とは
- 第 2 回 **項目** その成立の問題 **内容** 諸本の問題
- 第 3 回 **項目** 同上 **内容** 歴史（治承・寿永の乱）との関わり
- 第 4 回 **項目** 物語全体の流れ
- 第 5 回 **項目** 同上 **内容** 同上
- 第 6 回 **項目** 人物造型 **内容** 「清盛と重盛」の物語
- 第 7 回 **項目** 同上 **内容** 同上
- 第 8 回 **項目** 同上 **内容** 俊寛の物語
- 第 9 回 **項目** 同上 **内容** 同上
- 第 10 回 **項目** 同上 **内容** 同上
- 第 11 回 **項目** 同上 **内容** 武将たちの物語
- 第 12 回 **項目** 同上 **内容** 那須余一の物語
- 第 13 回 **項目** 同上 **内容** 建礼門院の物語
- 第 14 回 **項目** 同上 **内容** 同上
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 国文学特論演習（後期）との関連にふれて

●**成績評価方法（総合）** 期末のレポートを求め、これによって評価する

●**教科書・参考書** 参考書： 平家物語, 石母田正, 岩波新書； 平家物語の女性たち, 永井路子, 文春文庫

開設科目	国文学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林恒徳				

●**授業の概要** ・前期の国文学特論で講じたことを踏まえて、受講者のレポートとその質疑を中心に進める。  
・音読を大事にする。／**検索キーワード** 人物造型 音読

●**授業の一般目標** ・古典文学も読解力を深める。・「平家物語」の作品としての魅力を知る（声に出して読むに耐えうる作品であることを踏まえて）。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：「平家物語」という古典文学への知見を深める。 **思考・判断の観点**：人物造型の方法を考察する。

●**授業の計画（全体）** ・登場人物を（ひとりないしは複数）選び、その人物像の造型の方法を確認する。・適宜、授業者の講義という形をとることがある。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業の進め方

第 2 回 **項目** テーマ（人物）の選定 **内容** 選定のための準備・助言

第 3 回 **項目** テーマ（選んだ登場人物） **内容** その方法・調査の手続きの確認

第 4 回 **項目** 「平家物語」と現代 **内容** 現代的受容の一例を木下順二「子午線の祀り」にみる **授業記録**  
ビデオ映像を使用する

第 5 回 **項目** レポート **内容** レポーターの発表と質疑

第 6 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 7 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 8 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 9 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 10 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 11 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 12 回 **項目** 音読 **内容** 古典の音読について考える

第 13 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 14 回 **項目** レポート **内容** レポートの予備に当てる

第 15 回 **項目** まとめ **内容** 概評

●**成績評価方法（総合）** 受講者の授業中のレポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：平家の群像, 安田元久, 塙新書

開設科目	国文学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	重岡徹				

- 授業の概要** 受講生と話し合いの上、受講生の希望をあたうかぎり受け入れる形で、作家や作品を決定し、その作家や作品を精読していく。／**検索キーワード** 作品、精読
- 授業の一般目標** 各作家の各作品を精読する方法を身につける。言葉とその背後にいる作者との繋がり方を勉強する。
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 作品に対して主体的な読解ができるか
- 授業の計画（全体）** どの作家のどの作品を取り上げるかは、受講生との話し合いで決定する。
- 成績評価方法（総合）** 授業中での発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。
- メッセージ** 具体的な作品を、授業に参加する前に、必ず読んでおくこと。

開設科目	国文学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	重岡徹				

- 授業の概要** 受講生と話し合いの上、受講生の希望をあたうかぎり受け入れる形で、作家や作品を決定し、その作家や作品を精読していく。／**検索キーワード** 作品、精読
- 授業の一般目標** 各作家の各作品を精読する方法を身につける。言葉とその背後にいる作者との繋がり方を勉強する。
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 作品に対して主体的読解ができるか。
- 授業の計画（全体）** どの作家のどの作品を取り上げるかは、受講生との話し合いで決定する。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。
- メッセージ** 具体的な各作品を、授業に参加する前に、かならず読んでおくこと。

開設科目	漢語漢文学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	南部英彦				

- 授業の概要** 中国の魏晋南北朝時代（3世紀～6世紀）に焦を合わせ、文献を通して、その時代の文芸思想、科学技術等、文化の実態を考察する。本年は、所謂竹林の七賢の一人阮籍の撰になる「詠懐詩」82首を選読する。まずは時代背景について一定の予備知識を得つつ、担当制により深い読解を試みたい。  
／検索キーワード 竹林の七賢
- 授業の一般目標** レジメを作成することを通して、漢文資料を精読するためのより深い知識を得る。
- 授業の計画（全体）** 1 ガイダンス 2～5 時代背景等概説 6～15 担当制による「詠懐詩」の講読 レジメ作成の仕方については、授業中に指示する。
- 成績評価方法（総合）** 基本的には、レジメ発表の内容と、それに対する討議の姿勢とを勘案して行う。場合によっては、学期末にレポートを書いてもらうこともある。
- 教科書・参考書** 教科書：テキストを授業中に配布する。／参考書：吉川幸次郎「阮籍の「詠懐詩」について」（岩波書店、1981）を参考書として奨めます。
- メッセージ** 漢和辞典を一冊用意されたい。

開設科目	漢語漢文学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	南部英彦				

- 授業の概要** 中国古典の中で特異な地位を占める史書、文学書、思想書を精読し、時代性や思想構造及び表現形式の特徴を考察する。本年は、『論語』『孟子』『老子』『荘子』等の学問や教育に関わる文章を取り上げ、その注釈をも参考にしつつ批判的に検討を加える。／**検索キーワード** 中国古代の教育観
- 授業の一般目標** 中国古代の教育観について、知見を深めるとともに、その調査の仕方についての識見を獲得する。
- 授業の計画（全体）** 1 ガイダンス 2～3 レジメ作成のための予備的解説 4～15 担当制による講読  
レジメの作成の仕方は、授業中に指示する。場合によっては、レポートを課すことがある。
- 成績評価方法（総合）** 授業中でのレジメによる発表と他の受講者に対する討議の姿勢を勘案して行う。
- 教科書・参考書** 教科書：授業中にテキストを配布する。／参考書：授業中に指示する。
- メッセージ** 漢和辞典を一冊用意されたい。



開設科目	国語科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	長崎伸仁・藤原マリ子				

●**授業の概要** 課題研究で取り組んでいる研究内容を基本にし、その内容を附属小学校や中学校で実際に授業を行う

●**授業の一般目標** ・理論と実践の融合

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分の研究課題を客観的に理解する。**思考・判断の観点**：自分の研究課題を実践化するための工夫ができる。**関心・意欲の観点**：どのようにすれば、理論と実践が融合できるか興味・関心を持つことができる。**態度の観点**：積極的に実践化に向け取り組むことができる。

●**授業の計画（全体）** 自分の研究課題を実践に移すに当たり、まず、学習指導案の立案→討議を行い、その後、附属小・中学校等での実践→討議を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 指導案作成→討議
- 第3回 項目 指導案作成→討議
- 第4回 項目 指導案作成→討議
- 第5回 項目 指導案作成→討議
- 第6回 項目 指導案作成→討議
- 第7回 項目 附属学校での実践→討議
- 第8回 項目 附属学校での実践→討議
- 第9回 項目 附属学校での実践→討議
- 第10回 項目 附属学校での実践→討議
- 第11回 項目 附属学校での実践→討議
- 第12回 項目 附属学校での実践→討議
- 第13回 項目 討議
- 第14回 項目 討議
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	国語科教育支援実践研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	長崎伸仁・藤原マリ子				

●**授業の概要** 学校教育現場または学校以外の教育関連機関等で、社会教育、ボランティア活動等の教育支援活動を行う

●**授業の一般目標** 日本の学校や社会に興味・関心を抱き、積極的に学ぼうとする態度を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本の学校や社会に興味・関心を抱き、積極的に理解をしようとする。**思考・判断の観点**：日本の学校や社会について、自国の文化や風習等の違いについて深く考えることができる。**関心・意欲の観点**：日本の学校や社会について、積極的に興味・関心を抱くことができる。**態度の観点**：日本の学校や社会について、積極的に自分の研究に生かそうとすることができる。

●**授業の計画（全体）** 日本の学校や社会施設等を訪問し、日本の教育や文化について学ぶ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第3回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第4回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第5回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第6回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第7回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第8回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第9回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第10回 項目 学校や社会施設等を訪問
- 第11回 項目 学んだ事についての討議
- 第12回 項目 学んだ事についての討議
- 第13回 項目 学んだ事についての討議
- 第14回 項目 学んだ事についての討議
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉村誠				

●**授業の概要** 修士論文作成の基礎的な準備を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 修士論文作成のための対象選択
- 第 2 回 項目 研究方法
- 第 3 回 項目 本文読解 1
- 第 4 回 項目 本文読解 2
- 第 5 回 項目 本文読解 3
- 第 6 回 項目 本文読解 4
- 第 7 回 項目 本文読解 5
- 第 8 回 項目 本文読解 6
- 第 9 回 項目 背景となる時代性の把握 1
- 第 10 回 項目 背景となる時代性の把握 2
- 第 11 回 項目 背景となる時代性の把握 3
- 第 12 回 項目 背景となる時代性の把握 4
- 第 13 回 項目 背景となる時代性の把握 5
- 第 14 回 項目 背景となる時代性の把握 6
- 第 15 回 項目 背景となる時代性の把握 7

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉村誠				

●授業の概要 修士論文執筆のための基礎的な研究を行う

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力1
- 第2回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力2
- 第3回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力3
- 第4回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力4
- 第5回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力5
- 第6回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力6
- 第7回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力7
- 第8回 項目 対象周辺のテキストの基礎読解力8
- 第9回 項目 研究方法の習得1
- 第10回 項目 研究方法の習得2
- 第11回 項目 研究方法の習得3
- 第12回 項目 研究方法の習得4
- 第13回 項目 研究方法の習得5
- 第14回 項目 研究方法の習得6
- 第15回 項目 研究方法の習得7

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	長崎伸仁				

●**授業の概要** 基礎的なテキストを読み発表する (1)～(15)

●**授業の一般目標** 国語科教育の基礎的なテキストを読み、考えを深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国語科教育の基礎的なテキストを読み、理解する。**思考・判断の観点**：国語科教育の基礎的なテキストを読み、自分の考えと対比して考える。**関心・意欲の観点**：国語科教育の基礎的なテキストを読み、実践上の課題を見つけようとする ことができる。**態度の観点**：国語科教育の基礎的なテキストと読み、自分の研究に生かしていこうとすることが できる。

●**授業の計画 (全体)** 演習形式で行う。テキストを読み、発表する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 3 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 4 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 5 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 6 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 7 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 8 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 9 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 10 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 11 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 12 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 13 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 14 回 項目 テキストを読み、発表する
- 第 15 回 項目 テキストを読み、発表する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	長崎伸仁				

●**授業の概要** 修士論文の作成に直結する課題について研究し発表する (1)～(15)

●**授業の一般目標** 国語科教育についての研究と実践について深く学ぶことができる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 修士論文に関わる基礎的な知識を得ることができる。 **思考・判断の観点**： 自身の研究課題について、深く考えることができる。 **関心・意欲の観点**： 理論と実践の融合について、意欲的に取り組むことができる。 **態度の観点**： 研究について、前向きに取り組むことができる。

●**授業の計画 (全体)** 修士論文に向けて、自身が取り組んでいる研究課題について発表し、討議する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 3 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 4 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 5 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 6 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 7 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 8 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 9 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 10 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 11 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 12 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 13 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 14 回 項目 研究課題について発表し、討議する
- 第 15 回 項目 研究課題について発表し、討議する



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	長崎伸仁				

●**授業の概要** 自分の研究課題について、研究の深まりを発表する。

●**授業の一般目標** 国語科教育についての研究と実践について深く学ぶことができる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 研究の基礎的な知識を得ることができる。 **思考・判断の観点**： 自身の研究課題について、深く考えることができる。 **関心・意欲の観点**： 理論と実践の融合について、意欲的に取り組むことができる。 **態度の観点**： 研究について、前向きに取り組むことができる。

●**授業の計画（全体）** 修士論文に向けて、自身に取り組んでいる研究課題について発表し討議する。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第3回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第4回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第5回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第6回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第7回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第8回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第9回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第10回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第11回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第12回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第13回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第14回 項目 研究課題について発表し討議する
- 第15回 項目 研究課題について発表し討議する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	長崎伸仁				

●**授業の概要** 修士論文の作成に直結する課題について研究し発表する (1)～(15)

●**授業の一般目標** 国語科教育の実践的研究について深く学ぶことができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自身の研究課題に関わることについての知識を獲得することができる。**思考・判断の観点**：自身の研究課題について、深く考えることができる。**関心・意欲の観点**：実践的研究について、意欲的に取り組むことができる。**態度の観点**：研究について、前向きに取り組むことができる。

●**授業の計画（全体）** 修士論文に向けて、自身が取り組んでいる研究課題について、発表し討議する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第3回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第4回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第5回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第6回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第7回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第8回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第9回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第10回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第11回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第12回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第13回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第14回 項目 研究課題について、発表し討議する
- 第15回 項目 研究課題について、発表し討議する

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	有元光彦				

●**授業の概要** 本授業は、受講生の専門的研究を促進することを目的とする。具体的には、受講生の研究分野に関する発表を行い、それに対する議論を展開していく。／**検索キーワード** 国語学

●**授業の一般目標** (1) 国語学の高度な方法論を修得できる。(2) 自身の研究をプレゼンテーションし、議論する力を身につける。(3) 専門分野に強い関心を示す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 国語学（日本語学）における高度な方法論を体系的に修得できる。**思考・判断の観点**： 1. 研究成果を適切にプレゼンテーションし、議論を展開する力を身につける。**関心・意欲の観点**： 1. 研究分野に対し強くたゆまない関心を示す。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** オリエンテーション **内容** シラバスの説明 **授業外指示** シラバスを読んでおくこと
- 第2回 **項目** 研究発表(1)
- 第3回 **項目** 研究発表(2)
- 第4回 **項目** 研究発表(3)
- 第5回 **項目** 研究発表(4)
- 第6回 **項目** 研究発表(5)
- 第7回 **項目** 研究発表(6)
- 第8回 **項目** 研究発表(7)
- 第9回 **項目** 研究発表(8)
- 第10回 **項目** 研究発表(9)
- 第11回 **項目** 研究発表(10)
- 第12回 **項目** 研究発表(11)
- 第13回 **項目** 研究発表(12)
- 第14回 **項目** 研究発表(13)
- 第15回 **項目** まとめ **内容** 問題点、課題、展望

●**成績評価方法（総合）** (1) 研究成果及びそのプレゼンテーションを評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書はなし。／参考書：授業中に適宜指示する。

●**メッセージ** 研究戦略を的確に設定すること。

●**連絡先・オフィスアワー** arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階445室

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	有元光彦				

●**授業の概要** 本授業は、前期開講の「課題研究」に引き続き、受講生の専門的研究を促進することを目的とする。具体的には、受講生の研究分野に関する発表を行い、それに対する議論を展開していく。／**検索キーワード** 国語学

●**授業の一般目標** (1) 国語学の高度な方法論を修得できる。(2) 自身の研究をプレゼンテーションし、議論する力を身につける。(3) 専門分野に強い関心を示す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 国語学（日本語学）における高度な方法論を体系的に修得できる。**思考・判断の観点**： 1. 研究成果を適切にプレゼンテーションし、議論を展開する力を身につける。**関心・意欲の観点**： 1. 研究分野に対し強くたゆまない関心を示す。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |      |    |           |    |         |       |              |
|------|----|-----------|----|---------|-------|--------------|
| 第1回  | 項目 | オリエンテーション | 内容 | シラバスの説明 | 授業外指示 | シラバスを読んでおくこと |
| 第2回  | 項目 | 研究発表(1)   |    |         |       |              |
| 第3回  | 項目 | 研究発表(2)   |    |         |       |              |
| 第4回  | 項目 | 研究発表(3)   |    |         |       |              |
| 第5回  | 項目 | 研究発表(4)   |    |         |       |              |
| 第6回  | 項目 | 研究発表(5)   |    |         |       |              |
| 第7回  | 項目 | 研究発表(6)   |    |         |       |              |
| 第8回  | 項目 | 研究発表(7)   |    |         |       |              |
| 第9回  | 項目 | 研究発表(8)   |    |         |       |              |
| 第10回 | 項目 | 研究発表(9)   |    |         |       |              |
| 第11回 | 項目 | 研究発表(10)  |    |         |       |              |
| 第12回 | 項目 | 総括(1)     |    |         |       |              |
| 第13回 | 項目 | 総括(2)     |    |         |       |              |
| 第14回 | 項目 | 総括(3)     |    |         |       |              |
| 第15回 | 項目 | まとめ       | 内容 | 問題、展望   |       |              |

●**成績評価方法（総合）** (1) 研究成果及びそのプレゼンテーションを評価する。(2) 授業中の議論への参加度を評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書はなし。／参考書：授業中に適宜指示する。

●**メッセージ** 研究戦略を的確に設定すること。

●**連絡先・オフィスアワー** arimoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部4階445室

# 社会科教育専修

開設科目	社会科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

●**授業の概要** 生徒が主体的に学ぶ討論学習などを具体的な実践事例を取り上げ、社会科の教材選択の視点や授業方法の改善の課題などを検討する。／**検索キーワード** 討論授業 歴史認識 仮説－検証

●**授業の一般目標** 具体的な題材・単元を取り上げ、生徒が主体的に学び、しかも豊かな社会認識が育つためにはどのような授業方法が求められるかをさぐる。

●**授業の計画（全体）** 各自が、具体的な題材・単元を選び、生徒が主体的に学び、豊かな社会認識が育つ授業の工夫を探る。そのために、題材・単元の内容理解を踏まえて、実践事例を分析・整理する。その上で、生徒が主体的に学んだ契機・要因を探り、そこで発揮された教師の指導性を明らかにする。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 討論授業とは
- 第 3 回 項目 実践事例の紹介 1
- 第 4 回 項目 実践事例の検討 1
- 第 5 回 項目 実践事例の紹介 2
- 第 6 回 項目 実践事例の検討 2
- 第 7 回 項目 実践事例の紹介 3
- 第 8 回 項目 実践事例の検討 3
- 第 9 回 項目 資料の選択、討論の組織化について
- 第 10 回 項目 実践事例の紹介 4
- 第 11 回 項目 実践事例の検討 4
- 第 12 回 項目 実践事例の紹介 5
- 第 13 回 項目 実践事例の検討 5
- 第 14 回 項目 実践事例の紹介 6
- 第 15 回 項目 実践事例の検討

●**成績評価方法（総合）**（1）宿題/授業外レポート＝20％・加藤公明（「考える日本史授業」）実践の中から、単元を選び、分析・整理した上で、演習で発表する。・フロアの意見を踏まえ、加筆修正する。  
（2）演習＝80％

●**連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木 5 6



開設科目	社会科教育特論 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉川幸男				

●**授業の概要** 古今内外のさまざまな社会科授業実践における内容構成と学習過程の理論と実際について、認識論、学習論、発達論などの観点から分析検討する。

●**授業の一般目標** 1. 学校における社会科授業実践のみならず、さまざまなメディア媒体による社会認識形成的な営みに対し、社会認識形成の視点から分析検討できるようになる。 2. 上記の分析検討成果に立って、新たな社会認識教育構想への視点を提言できる。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：分析対象となる資料に対し、社会認識形成の視点から分析考察できる。 **関心・意欲の観点**：社会認識にかかわる対象を自ら見出し、独自の分析観点を提案できる。  
**態度の観点**：毎回の授業に出席している。 **技能・表現の観点**：論点を明確にした議論可能な発表資料を作成でき、発表できる。

●**授業の計画（全体）** 本授業は演習形式であり、内容は受講者の設定する問題によって変わってくる。以下に示すものは一つの事例である。 1. 社会認識形成の営み 2. 社会認識形成の機能を負うもの（古今内外の社会科授業、新聞雑誌TV等メディア媒体、博物館資料館その他） 3. 社会事象提示型の授業やメディア 4. 物語構成型の授業やメディア 5. 構造分析型の授業やメディア 6. 意味付与型の授業やメディア 7. 社会事象提示型の授業やメディアの分析検討 8. 物語構成型の授業やメディアの分析検討 9. 構造分析型の授業やメディアの分析検討 10. 意味付与型の授業やメディアの分析検討 11. 各分析対象の比較検討（1） 12. 各分析対象の比較検討（2） 13. メディアを生かした社会認識教育の構想（1） 14. メディアを生かした社会認識教育の構想（2） 15. 小論文作成

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 教材研究と社会 科教科論の動向
- 第 2 回 項目 教材研究と社会 科内容構成論の 動向
- 第 3 回 項目 特定教材に関する先行実践の分 析と検討（1）
- 第 4 回 項目 特定教材に関する先行実践の分 析と検討（2）
- 第 5 回 項目 特定教材に関する資料収集と検 討（1）
- 第 6 回 項目 特定教材に関する資料収集と検 討（2）
- 第 7 回 項目 教科書・資料集 等既存教材に関 する研究動向
- 第 8 回 項目 特定教材に関する教科書・資料 集等既存教材の 検討
- 第 9 回 項目 内容構成論の検 討と内容構成試 案（1）
- 第 10 回 項目 内容構成論の検 討と内容構成試 案（2）
- 第 11 回 項目 社会科単元構成 論、学習過程論 の動向（1）
- 第 12 回 項目 社会科単元構成 論、学習過程論 の動向（2）
- 第 13 回 項目 研究教材による 単元構成の検討 （1）
- 第 14 回 項目 研究教材による 単元構成の検討 （2）
- 第 15 回 項目 最終単元構成案 の作成

●**成績評価方法（総合）** 出席点、発表時の資料、最終小論文を総合して評価する

●**教科書・参考書** 教科書：特に定めない／参考書：設定された問題に応じて随時紹介する

●**メッセージ** 本授業は演習であり、積極的な発表と発言が求められる。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	社会科教育特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

- 授業の概要** 子ども主体の学びを創造する立場からの社会科教育論を歴史的・理論的に考察するとともに、社会科授業構成、指導方法の実際について検討する／**検索キーワード** 社会科教育 社会認識 授業づくり
- 授業の一般目標** すぐれた社会科実践者の実践を系統的に取り上げ、その実践の背後にある社会化観、子ども観を精査する。個別事例の分析検討を通して、今日求められる社会科教育のあり方を探る。
- 授業の計画（全体）** 受講者の関心に沿って、実践者を取り上げ、その代表的な実践を検討しながら、その実践を定位づける。演習形式。
- 連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木56

開設科目	日本史学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森下徹				

●授業の概要 歴史学の方法に関する基本的な文献を輪読する。

開設科目	西洋史学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩崎好成				

●**授業の概要** ファシズム（全体主義）をどう捉え、どう教えるかを念頭に、戦間期ドイツの歩みを政治史・軍事史・社会史的側面から検討し、ナチズムの思想・運動・体制の特質を論ずる。基本的には、文献講読方式で進める。但し、受講生の要望によるテーマ修正、変更の余地あり。／**検索キーワード** ファシズム、ナチス、自由民主主義

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：講読文献の内容を正確に理解できる **思考・判断の観点**：講読文献の内容に関し、自分なりに批評することができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 ナチズム思想論
- 第2回 項目 同
- 第3回 項目 ナチズム運動論
- 第4回 項目 同
- 第5回 項目 ワイマル共和国期の政治思想・運動
- 第6回 項目 同
- 第7回 項目 ナチズムの「魅力」
- 第8回 項目 同
- 第9回 項目 ナチズム体制論
- 第10回 項目 同
- 第11回 項目 ファシズム（全体主義）と自由民主主義
- 第12回 項目 同
- 第13回 項目 教科書分析・批判
- 第14回 項目 同
- 第15回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 教科書：受講生と相談の上で決定する。

●**メッセージ** やりたいテーマ、読みたい文献を積極的に提起してほしい。

開設科目	西洋文化史特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	今田淳				

- 授業の概要** ドイツ中世を舞台にして、農民生活や祭といった生活習慣、傭兵や学生の実態、魔女狩りや結婚生活等の様々な文化現象を取り上げて、通常の教科書には出てこない面を勉強する。少人数なので、講義ではなく演習形態になる。／**検索キーワード** 未知との遭遇
- 授業の一般目標** 中世の庶民の生活がどのようなものであったか、その実態を知る。世界史の教科書には記述されていない様々な生活習慣を、自分で調べることで身近に感じてもらう。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 中世の庶民の実生活を理解する。 **思考・判断の観点**： 教科書やいわゆる歴史書に記述されていない事柄を把握する。 **関心・意欲の観点**： 未知の事柄への好奇心・探求心を養う。
- 授業の計画（全体）** 受講生が何名いるのか、中世の庶民のどのような生活習慣に関心があるのか、それらのことが不明なので、受講生が決まってから、何をどのように調べるか相談して決める。
- 成績評価方法（総合）** 授業への参加、発表等全てを総合して評価する。
- メッセージ** 通常歴史の教科書に出てくるものは、歴史の表面の無難なところが中心だと思うけれど、その背後にある様々な文化史的出来事、特にヨーロッパの文化史は面白い。文化史には当に人間の歴史が秘められている。

開設科目	歴史学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	今田淳				

- 授業の概要** 「日本史学特論」「西洋史学特論」「西洋文化史特論」で身に付けた知見を踏まえ、論文を含む様々な資料に則して授業を進める。

開設科目	自然地理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	貞方昇				

●**授業の概要** 大学院修士課程レベルの学生にとっての、自然地理学的な考え方を学ぶ。／**検索キーワード**  
自然環境、土地環境、風土、文化、生活

●**メッセージ** 土地に根ざして人々が生活するとはどういうことか、考えたい。

開設科目	人文地理学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	荒木一視				

- 授業の概要** 地理学や地理教育に関わる専門的知識や理論，あるいは技能について論じる。具体的な題材については，受講者の専門的方向性を考慮する。／**検索キーワード** 人文地理学
- 授業の一般目標** 学部での授業を踏まえてより高度な人文地理学の理論，及び教育現場での実践の上での検討を行う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：地理学や地理教育に関わる専門的知識や理論，あるいは技能の理解と習得を目指す。 **思考・判断の観点**：授業を通じて，人文地理学及び地理教育に対する考察を深める。
- 授業の計画（全体）** 大学院の授業でもあり，受講者の修士論文のテーマに即して，課題論文や資料を与える。
- 連絡先・オフィスアワー** araki@yamaguchi-u.ac.jp 教育学部4階



開設科目	地誌学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	Mikhova, Dimitrina				

●**授業の概要** This course is rather flexible. Depends very much on the students' research interests. Some of the students get individual program of education, negotiated with the teacher. Basically it aims at exploring the world regions, their cultures and the features

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 1. How do we do research in Geography and what is the contribution of Geography in Social Education? International perspective.
- 第2回 項目 2. Kinds of regions in the world
- 第3回 項目 3. Regions, cultures and educational systems.
- 第4回 項目 4. The Greek roots of European and American (Western) culture, with perspective to education.
- 第5回 項目 5. How does a western child feel in a Japanese elementary school? - Talk and discussion.
- 第6回 項目 6. Differences in Japanese Junior High and High schools and European/American schools.
- 第7回 項目 7. How does a western teacher feel in a Japanese school? - Talk and discussion
- 第8回 項目 8. Educational systems in Europe: UK, France.
- 第9回 項目 9. Educational systems in Europe: France, Germany, and Italy.
- 第10回 項目 10. Educational systems in Europe: Eastern Europe and Russia.
- 第11回 項目 11. Diversity in educational approaches - general view.
- 第12回 項目 12. Use of Geographic Information Systems as an educational approach in Social studies.
- 第13回 項目 13. Globalization and education: home schooling, distance schooling through Internet, teamwork and individuality. Cultural perspectives.
- 第14回 項目 14. Globalization and education: the future. Discussion
- 第15回 項目 15. The teacher of the 21st century - international perspective. Discussion. 15. The teacher of the 21st century - international perspective. Discussion.

開設科目	地理学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	貞方昇・荒木一視・J. ミコバ				

●**授業の概要** 大学院修士課程で地理学で修士論文を書く学生に対し、論文作成に向けた具体的な指導を行う。

●**メッセージ** 修士論文内容の準備に直接関わる内容を扱います。

開設科目	社会学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本薫子				

●**授業の概要** 近年の社会学における中心的な議論について文献講読を通して学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部 476

開設科目	憲法学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	某				

開設科目	経済学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	来島浩				

●**授業の概要** 日本資本主義の生成・発展・展開過程を資本蓄積と労働市場の観点より体系的に学ぶ。前半では資本主義経済の基礎理論を学び、後半では日本資本主義の検討を行なう。

●**授業の一般目標** 日本資本主義の発展過程を、資本蓄積と労働市場の観点より検討する。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：日本資本主義の生成・発展・展開について説明ができる。 **思考・判断の観点**：なぜ日本資本主義が後発であったにも関わらず短期間に発展を遂げることができたかについて自分の意見を述べるができる。

●**授業の計画（全体）** 毎回下記のテキストの報告を行い、かつ報告についての議論を行う。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 経済の歴史と発展段階について
- 第2回 項目 資本主義の発展段階Ⅰ（原始蓄積段階）
- 第3回 項目 資本主義の発展段階Ⅱ（産業資本段階）
- 第4回 項目 資本主義の発展段階Ⅲ（独占段階）
- 第5回 項目 資本主義の生産過程
- 第6回 項目 資本の蓄積と再生産
- 第7回 項目 資本主義生産の総過程
- 第8回 項目 日本資本主義の形成過程
- 第9回 項目 日本資本主義の発展過程
- 第10回 項目 戦後日本資本主義の復興過程
- 第11回 項目 日本資本主義の高度成長過程
- 第12回 項目 日本資本主義の低成長過程
- 第13回 項目 日本資本主義のバブル過程
- 第14回 項目 日本資本主義の構造的不況過程
- 第15回 項目 日本資本主義の今後

●**成績評価方法（総合）** 毎回の報告・議論と自分の関心のある日本資本主義の問題についてのレポートを授業の最終回に提出する。

●**教科書・参考書** 教科書：戦後50年の日本経済，勝又寿良，東洋経済，1995年；現代資本主義と「資本論」—Ⅰ，松石勝彦他，新日本出版社，1991年

開設科目	社会科学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本薫子, 来島浩, 某				

- 授業の概要** 近年の社会科学における中心的な議論について文献講読を通して学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。
- 授業の一般目標** 現代社会が抱えるさまざまな問題、矛盾を読み解き、解決策を探るための実証的分析手法の習得を目指す。
- 授業の計画（全体）** 履修者と相談のうえ、テーマおよび講読文献を決定し、毎回の発表を通じて議論を行なう。

開設科目	哲学倫理学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦				

●**授業の概要** 現代ドイツ哲学における世界を解明する。／**検索キーワード** 世界と時間

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 フッサ-ルの生世界 1
- 第 2 回 項目 フッサ-ルの生世界 2
- 第 3 回 項目 ハイデガ-の世界 1
- 第 4 回 項目 ハイデガ-の世界 2
- 第 5 回 項目 ヘルトの世界解釈 1
- 第 6 回 項目 ヘルトの世界解釈 2
- 第 7 回 項目 アグィ-レの世界解釈 1
- 第 8 回 項目 アグィ-レの世界解釈 2
- 第 9 回 項目 世界と生ける現在 1
- 第 10 回 項目 世界と生ける現在 2
- 第 11 回 項目 カントの時間論
- 第 12 回 項目 ヘ-ゲルの時間論
- 第 13 回 項目 世界と時間 1
- 第 14 回 項目 世界と時間 2
- 第 15 回 項目 まとめ

●**メッセージ** じゅぎょうをは必ず出席すること。

開設科目	宗教学特論	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	岡村康夫				

●**授業の概要** 「宗教とは何か」を宗教学的立場から明らかにする。／**検索キーワード** 宗教、仏教、キリスト教

●**授業の一般目標** 具体的な宗教的文献を読み解きながら、「宗教とは何か」を学ぶ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 仏教やキリスト教の基本的知識を獲得する。 **思考・判断の観点**： 「宗教とは何か」を考える。 **関心・意欲の観点**： 宗教に対する関心を喚起する。 **態度の観点**： 人生に対する真摯な態度を培う。 **技能・表現の観点**： 英語の読解力を養う。

●**授業の計画（全体）** W.R.Inge の Christian Mystik を読み進めながら、「宗教とは何か」を考究する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** ガイダンス。 **内容** 文献紹介。授業の進め方、評価の仕方等の説明。
- 第2回 **項目** General Characteristics of Mysticism 1 **内容** 神秘主義とは何かを解明する。
- 第3回 **項目** General Characteristics of Mysticism 2
- 第4回 **項目** General Characteristics of Mysticism 3
- 第5回 **項目** Platonism and Mysticism 1 **内容** 新プラトン主義の流れのなかにある西洋神秘主義について解明する。
- 第6回 **項目** Platonism and Mysticism 2
- 第7回 **項目** Platonism and Mysticism 3
- 第8回 **項目** Platonism and Mysticism 4
- 第9回 **項目** Practical Mysticism 1 **内容** 実践的神秘主義の立場を明らかにする。
- 第10回 **項目** Practical Mysticism 2
- 第11回 **項目** Practical Mysticism 3
- 第12回 **項目** Speculative Mysticism 1 **内容** 思弁的神秘主義の立場を明らかにする。
- 第13回 **項目** Speculative Mysticism 2
- 第14回 **項目** Speculative Mysticism 3
- 第15回 **項目** 総まとめ

●**メッセージ** 英語の原典読解を中心とした授業を行う。



開設科目	哲学倫理学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岩本光悦				

●**授業の概要** フッサルの『危機書』をドイツ語で読解する。／**検索キーワード** 現象学的還元

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回 項目 演習

●**メッセージ** ドイツ語でテキストを読解することに慣れよう。

開設科目	社会科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭・吉川幸男				

- 授業の概要** 小・中学校の社会科教材を取り上げ、最近の専門諸科学の視点を生かした内容構成と教材開発を行う。その上で、各自独自の授業構想を立て、最終段階では、付属学校または公立学校において実際に授業を行い、社会科教育について実践的に研究する／**検索キーワード** 教材開発 授業構成 実践提案
- 授業の一般目標** 各自が、修士論文作成に向けて研究している視点を生かして、ユニークな単元を構成したり、授業を構成する。そのプランを集団で深め、実際に学校で授業を行うことで、その可能性を検討する。
- 授業の計画（全体）** 各自が、修士論文作成に向けてどのようなテーマで何を研究しているか交流する。その研究の視点を生かして、各自、実際の授業に向けた実践的な提案を準備する。出された提案をさらに具体的な研究授業などにつなげられるよう、検討する。最終的には、付属学校か派遣学校で授業を行う。
- 連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木56

開設科目	社会科教育支援実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	今田淳				

●授業の概要 研究課題を深化させるための実践的な研究指導をする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩本				

●授業の概要 卒論を具体的に指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩本				

●授業の概要 卒論のテーマを決めることが出来るように指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岩本				

●授業の概要 決めたテーマの下に卒論を実際に指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岩本				

●授業の概要 卒論のテーマを絞り込むように指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	外山				

- 授業の概要** 修士論文作成指導／**検索キーワード** 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標** 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。
- 授業の計画（全体）** 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	外山				

- 授業の概要** 修士論文作成指導／**検索キーワード** 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標** 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。
- 授業の計画（全体）** 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 成績評価方法（総合）** 演習＝100%
- 連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	外山				

- 授業の概要** 修士論文指導／**検索キーワード** 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標** 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。
- 授業の計画（全体）** 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	外山				

- 授業の概要** 修士論文指導／**検索キーワード** 課題の設定 文献の収集・選択 独自性
- 授業の一般目標** 本人の研究計画に基づき、修士論文作成に向け、関連文献の購読と演習を通して、研究テーマを限定する。
- 授業の計画（全体）** 研究計画の再確認の上、関連文献を整理する。その上で、研究テーマを明らかにする観点から、逐次取り上げ、分析・検討する。
- 連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木56

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	来島				

●**授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、専門分野高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	来島				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	来島				

●**授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	来島				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡村				

●**授業の概要** 修士論文作成のための指導を行う。／**検索キーワード** ヒンズー教、信愛

●**授業の一般目標** 修士論文作成へ向け、基本テキストの読解・指導を行う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ヒンズー教の教義の基礎的知識を得ること。**思考・判断の観点**：ヒンズー教とは何かを、特に「信愛」を中心に考えること。**関心・意欲の観点**：宗教に対する関心を喚起すること。**態度の観点**：宗教の理解を通して、人生に対する真摯な態度を学ぶこと。**技能・表現の観点**：英語、ドイツ語の読解能力。

●**授業の計画（全体）** ヒンズー教の基本テキストの読解を通して、「宗教とは何か」ということを考究する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 ガイダンス 内容 授業の進め方、テキストなどを提示する。
- 第2回 項目 バガヴァッド・ギーターの教え 内容 第三章
- 第3回 項目 バガヴァッド・ギーターの教え 内容 第三章
- 第4回 項目 バガヴァッド・ギーターの教え 内容 第三章
- 第5回 項目 バガヴァッド・ギーターの教え 内容 第四章
- 第6回 項目 バガヴァッド・ギーターの教え 内容 第四章
- 第7回 項目 バガヴァッド・ギーターの教え 内容 第四章
- 第8回 項目 原ギーターとは？ 内容 ルドルフ・オットーの主張を検証
- 第9回 項目 原ギーターとは？ 内容 ルドルフ・オットーの主張を検証
- 第10回 項目 ヒンズー教と仏教 内容 マックス・ウェーバーの主張について
- 第11回 項目 ヒンズー教と仏教 内容 マックス・ウェーバーの主張について
- 第12回 項目 先行研究について
- 第13回 項目 先行研究について
- 第14回 項目 先行研究について
- 第15回 項目 総まとめ

●**成績評価方法（総合）** 毎回のレポート、下調べおよび最終レポートによって総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：英訳のバガヴァッド・ギーターおよびドイツ語文献による。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡村				

●授業の概要 修士論文作成のための指導をする。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岡村				

●**授業の概要** 修士論文作成のための指導を行う。／**検索キーワード** 信愛、解脱、ヨーガ

●**授業の一般目標** 毎回のレポート発表によって修士論文作成へ向けての指導をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ヒンズー教の基本的知識の獲得すること。**思考・判断の観点**：ヒンズー教とは何かを考えること。**関心・意欲の観点**：宗教への関心を深めること。**態度の観点**：宗教理解を通して、人生に対する真摯な態度を培うこと。**技能・表現の観点**：英語、ドイツ語読解の能力および日本語の文章表現の力をつけること。

●**授業の計画（全体）** 主に『バガヴァッド・ギーター』というヒンズー教の聖典を中心に、それに関する研究文献を読み解く。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 先行研究調査
- 第2回 項目 先行研究調査
- 第3回 項目 先行研究調査
- 第4回 項目 論文作成指導
- 第5回 項目 論文作成のための発表
- 第6回 項目 論文作成のための発表
- 第7回 項目 論文作成のための発表
- 第8回 項目 論文作成のための発表
- 第9回 項目 論文作成
- 第10回 項目 論文作成
- 第11回 項目 論文作成
- 第12回 項目 論文作成
- 第13回 項目 論文作成
- 第14回 項目 論文作成
- 第15回 項目 論文完成へ

●**成績評価方法（総合）** 毎回の発表、下調べなどを総合して評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岡村				

●授業の概要 修士論文作成のための指導を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山本				

●**授業の概要** 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の作成に取り組む。

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山本				

●**授業の概要** 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山本				

●**授業の概要** 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山本				

●**授業の概要** 社会学の主要な概念・手法を学び、各人の選んだテーマにしたがって修士論文の制作を念頭においた研究を行なう。

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部 476

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	荒木				



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	荒木				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	今田				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	今田				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	今田				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	今田				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森下				

●授業の概要 修士論文作成に向けて各自の研究報告を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	ミホバ				

- 授業の概要** 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。 **思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。 **態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	ミホバ				

- 授業の概要** 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	ミホバ				

- 授業の概要** 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	ミホバ				

- 授業の概要** 卒業論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定したのち、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 総合的に評価する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	貞方				



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	貞方				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	貞方				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	貞方				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岩崎				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉川				

- 授業の概要** 修士論文の作成に向けて、研究成果のとりまとめの段階における指導を行う。
- 授業の一般目標** 中学校社会科授業におけるコンピュータ活用に関して、及び社会科の目標概念としての市民的資質に関して、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文の概略を作成する。
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 **技能・表現の観点**：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ論文を仕上げる ことができる。
- 授業の計画（全体）** 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。
- 授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**
  - 第1回 項目 論文の全体構成
  - 第2回 項目 論文の全体構成
  - 第3回 項目 関連する研究分野の文献調査と検討
  - 第4回 項目 関連する研究分野の文献調査と検討
  - 第5回 項目 論文の執筆と添削
  - 第6回 項目 論文の執筆と添削
  - 第7回 項目 論文の執筆と添削
  - 第8回 項目 論文の執筆と添削
  - 第9回 項目 論文の全体構成 中間発表
  - 第10回 項目 論文の執筆と添削
  - 第11回 項目 論文の執筆と添削
  - 第12回 項目 論文の執筆と添削
  - 第13回 項目 論文の執筆と添削
  - 第14回 項目 論文の執筆と添削
  - 第15回 項目 論文の最終発表
- 成績評価方法（総合）** 毎回の発表資料に対して評価を行う。
- 教科書・参考書** 教科書：特に定めない。／参考書：随時指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉川				

●**授業の概要** 修士論文の作成に向けた基礎的研究段階の指導を行う。

●**授業の一般目標** 問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成するための基礎的な資料収集と予備考察を行う。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 **技能・表現の観点**：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げる ことができる。

●**授業の計画（全体）** 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して 指導と助言を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 研究課題の設定
- 第 2 回 **項目** 研究対象と研究 方法の計画
- 第 3 回 **項目** 先行研究事例の 調査
- 第 4 回 **項目** 先行研究事例の 調査
- 第 5 回 **項目** 先行研究事例の 調査
- 第 6 回 **項目** 先行研究事例の 調査
- 第 7 回 **項目** 先行研究事例の 調査
- 第 8 回 **項目** 先行研究の分 析・検討
- 第 9 回 **項目** 先行研究の分 析・検討
- 第 10 回 **項目** 先行研究の分 析・検討
- 第 11 回 **項目** 先行研究の分 析・検討
- 第 12 回 **項目** 先行研究の分 析・検討
- 第 13 回 **項目** 先行研究の分 析・検討
- 第 14 回 **項目** 研究課題に対す る現状と課題
- 第 15 回 **項目** 研究課題に対す る現状と課題

●**成績評価方法（総合）** 毎回の発表資料に対して評価を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：特に定めない。／参考書：随時指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	吉川				

●**授業の概要** 修士論文作成に関する基礎的研究段階の指導を行う。

●**授業の一般目標** 問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文を作成するためのフレームワークの構築を行う。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 **技能・表現の観点**：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ発表資料を仕上げることができる。

●**授業の計画（全体）** 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討

第2回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討

第3回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討

第4回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討

第5回 項目 概念的作業枠に関する基本的文献の検討

第6回 項目 概念的作業枠の試案検討

第7回 項目 概念的作業枠の試案検討

第8回 項目 概念的作業枠の試案検討

第9回 項目 概念的作業枠の試案検討

第10回 項目 概念的作業枠の試案検討

第11回 項目 概念的作業枠の試案検討

第12回 項目 概念的作業枠の試案検討

第13回 項目 概念的作業枠の試案検討

第14回 項目 概念的作業枠の試案検討

第15回 項目 概念的作業枠の試案検討

●**成績評価方法（総合）** 毎回の発表資料に対して評価を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：特に定めない。／参考書：随時指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	吉川				

●**授業の概要** 修士論文の作成に向けた具体的作業段階の指導を行う。

●**授業の一般目標** 中学校社会科授業におけるコンピュータ活用、及び社会科の目標概念としての市民的資質に関して、問題意識に応じ、一定の課題設定と研究方法によって一貫した論文の概略を作成する。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：問題意識に応じ、社会科教育学の視点から課題を設定し、一貫した考察を行うことができる。 **技能・表現の観点**：社会科教育学としての一定の視点に貫かれた論理構成をもつ論文を仕上げる ことができる。

●**授業の計画（全体）** 毎回到わり、修士論文に関連した資料を対象とした考察結果を発表し、それに対して指導と助言を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 項目 研究対象の確定

第2回 項目 研究対象の確定

第3回 項目 研究対象の確定

第4回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第5回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第6回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第7回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第8回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第9回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第10回 項目 概念的作業枠をもとにした研究対象の分析・検討

第11回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成

第12回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成

第13回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成

第14回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成

第15回 項目 分析結果をもとにした具体的な試案の作成

●**成績評価方法（総合）** 毎回の発表資料に対して評価を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：特に定めない。／参考書：随時指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：教育学部 472 研究室，Tel/Fax:933-5329 オフィスアワー：随時・研究室前に表示

# 数学教育専修

開設科目	数学教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 数学教育における質的し研究方法について，講義する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 質的研究方法とは
- 第 2 回 項目 さまざまな研究手続き
- 第 3 回 項目 観察法について
- 第 4 回 項目 観察法実習 1
- 第 5 回 項目 観察法実習 2
- 第 6 回 項目 インタビューについて
- 第 7 回 項目 インタビュー実習 1
- 第 8 回 項目 インタビュー実習 2
- 第 9 回 項目 観察法実習レポート発表
- 第 10 回 項目 データ分析 1
- 第 11 回 項目 データ分析 2
- 第 12 回 項目 レポート事例紹介
- 第 13 回 項目 レポート作成作業
- 第 14 回 項目 レポート作成作業
- 第 15 回 項目 レポートについての検討会

●**メッセージ** 大学院の授業は積極的参加が絶対必要です。

開設科目	数学教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 数学教育研究における最近の話題に関する文献を取り上げ、セミナー形式で検討する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 2 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 3 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 4 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 5 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 6 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 7 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 8 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 9 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 10 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 11 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 12 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 13 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 14 回 項目 数学教育における研究文献の購読
- 第 15 回 項目 数学教育における研究文献の購読

●**メッセージ** 文献は最新のもので、受講生の関心に応じて選択する。積極的に授業に参加することが絶対条件です。

開設科目	数学教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 数学教育におけるさまざまな研究動向について概説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 数学教育における研究の動向
- 第 2 回 項目 理論的研究 1
- 第 3 回 項目 理論的研究 2
- 第 4 回 項目 理論的研究 3
- 第 5 回 項目 実験研究 1
- 第 6 回 項目 実験研究 2
- 第 7 回 項目 実験研究 3
- 第 8 回 項目 実験研究 4
- 第 9 回 項目 テクノロジー利用について 1
- 第 10 回 項目 テクノロジー利用について 2
- 第 11 回 項目 国際比較研究 1
- 第 12 回 項目 国際比較研究 2
- 第 13 回 項目 国際比較研究 3
- 第 14 回 項目 修士論文について
- 第 15 回 項目 質疑

開設科目	数学教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 数学教育の最近の研究文献についてセミナー形式で検討を行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 2 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 3 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 4 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 5 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 6 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 7 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 8 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 9 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 10 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 11 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 12 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 13 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 14 回 項目 数学教育の研究文献の購読
- 第 15 回 項目 数学教育の研究文献の購読



開設科目	代数学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	笠井伸一				

- 授業の概要** 代数学を中心に授業を行う。
- 授業の一般目標** 代数学を主とする授業を通して、代数的な考え方を修得する。
- 授業の計画（全体）** 輪講による発表
- 成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度、出席 = 欠格条件

開設科目	代数学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	笠井伸一				

- 授業の概要** 代数学一般について演習を行う。
- 授業の一般目標** 代数学一般について演習を行い、代数的な考え方を修得する。
- 授業の計画（全体）** 輪講による発表
- 成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度、出席 = 欠格条件

開設科目	代数学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

●**授業の概要** 現代代数学の基本概念である群について学習する。特に群の表現論をテーマの中心に置き、セミナー形式授業をすすめる。／**検索キーワード** 群論 表現論

●**授業の一般目標** 群論の基礎及び表現論を身につけ、代数的な考え方を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：代数的な考え方・抽象的な概念把握が出来るような力を養う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |        |    |                 |    |                  |
|--------|----|-----------------|----|------------------|
| 第 1 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 群の基本性質に関する文献を読む。 |
| 第 2 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 群の基本性質に関する文献を読む。 |
| 第 3 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 群の基本性質に関する文献を読む。 |
| 第 4 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 群の基本性質に関する文献を読む。 |
| 第 5 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 群の基本性質に関する文献を読む。 |
| 第 6 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 7 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 8 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 9 回  | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 10 回 | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 11 回 | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 12 回 | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 13 回 | 項目 | 群の表現の応用 (1)     | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 14 回 | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |
| 第 15 回 | 項目 | 群の表現論に関するテキスト講読 | 内容 | 表現論の文献を読む。       |

●**メッセージ** 特に無し。

●**連絡先・オフィスアワー** iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4 時限

開設科目	幾何学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

●**授業の概要** 幾何学の分野から選択したテーマについて解説する。今年度は、結び目の代数的不変量について講義する。これにより、結び目の位相幾何学的性質と代数学の関連について解説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 結び目と絡み目の基本概念（その 1）
- 第 2 回 項目 結び目と絡み目の基本概念（その 2）
- 第 3 回 項目 結び目と絡み目の基本概念（その 3）
- 第 4 回 項目 ホモトピー
- 第 5 回 項目 基本群（その 1）
- 第 6 回 項目 基本群（その 2）
- 第 7 回 項目 基本群上の自由微分
- 第 8 回 項目 アレキサンダー多項式
- 第 9 回 項目 カンドル代数（その 1）
- 第 10 回 項目 カンドル代数（その 2）
- 第 11 回 項目 カンドル代数と結び目の不変量（その 1）
- 第 12 回 項目 カンドル代数と結び目の不変量（その 2）
- 第 13 回 項目 カンドル代数と結び目の不変量（その 2）
- 第 14 回 項目 高次元結び目
- 第 15 回 項目 演習

開設科目	幾何学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

●**授業の概要** 各自が幾何学のテーマを選択し、これにあう専門書を熟読する。その内容を発表する。

開設科目	幾何学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

●授業の概要 微分位相幾何学や微分幾何学、代数幾何学の中からトピックを選んで概説をする。

開設科目	解析学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河津清				

開設科目	解析学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河津清				



開設科目	解析学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	数理情報特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

- 授業の概要** 数理情報学に関わる内容を講義する
- 授業の一般目標** 文献を読み、理解する力をつけること.
- 授業の計画 (全体)** 文献を 1 つ選択し、それを輪講する形で授業を進める.
- 成績評価方法 (総合)** 出席 (50 %) とレポート (50 %) により行う.
- 教科書・参考書** 教科書： 適宜指定する. / 参考書： 適宜指定する.

開設科目	数理情報特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

●**授業の概要** 数理情報科学にあらわれる数学、特に離散的な代数系についての演習をセミナー形式で行う。

／検索キーワード 体論 代数拡大 附値

●**授業の一般目標** 情報においてだけではなく、数学活動において必ず現れる数についての基礎知識を充実させる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：抽象的な思考と実際の現象を結びつけて考察できるような力を身につける。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第2回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第3回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第4回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第5回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第6回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第7回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第8回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第9回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第10回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第11回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第12回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第13回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第14回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。
第15回	項目	テキスト講読及び演習	内容	離散的な代数系についての基本的な事項について学ぶ。

●**メッセージ** 特になし

●**連絡先・オフィスアワー** iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4時限

開設科目	数理情報特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鷹岡亮				

●**授業の概要** 数理情報特論 II では、数学を対象領域とした問題解決の方法に関する授業を行います。具体的には、「Mathematical Problem Solving」を題材にしながら、問題解決に関わるリソースや経験則、問題解決の制御、信念システム、問題解決の分析方法について学びます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- |        |    |                      |        |            |    |
|--------|----|----------------------|--------|------------|----|
| 第 1 回  | 項目 | 本授業の内容・進行・評価方法       | に関する説明 | 内容         | 説明 |
| 第 2 回  | 項目 | 数学に関する問題解決の概観        | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 3 回  | 項目 | 数学的行動分析のための枠組み       | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 4 回  | 項目 | 数学的問題解決のリソースについて (1) | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 5 回  | 項目 | 数学的問題解決のリソースについて (2) | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 6 回  | 項目 | 数学的問題解決の経験則について (1)  | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 7 回  | 項目 | 数学的問題解決の経験則について (2)  | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 8 回  | 項目 | 数学的問題解決の制御について (1)   | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 9 回  | 項目 | 数学的問題解決の制御について (2)   | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 10 回 | 項目 | 数学的問題解決の信念システムについて   | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 11 回 | 項目 | 学習支援システムの概観          | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 12 回 | 項目 | 数学を題材にした学習支援システムについて | 内容     | 説明・討論      |    |
| 第 13 回 | 項目 | 数学を題材にした解法モデルの開発 (1) | 内容     | 個人作業・討論    |    |
| 第 14 回 | 項目 | 数学を題材にした解法モデルの開発 (2) | 内容     | 個人作業・討論    |    |
| 第 15 回 | 項目 | 数学を題材にした解法モデルの開発 (3) | 内容     | 個人作業・討論・評価 |    |

●**教科書・参考書** 教科書：Mathematical Problem Solving, A.H.Schoenfeld, Academic Press, Inc., 1985 年  
／参考書：参考書は、授業時間内や授業HPで適時紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：ryo@yamaguchi-u.ac.jp (E-mail)

開設科目	数理情報特講	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

- 授業の概要** 数理情報学に関わる内容を講義する
- 授業の一般目標** 文献を読み、理解する力をつけること。
- 授業の計画（全体）** 文献を1つ選択し、それを輪講する形で授業を進める。
- 成績評価方法（総合）** 出席（50％）とレポート（50％）により行う。
- 教科書・参考書** 教科書：適宜指定する。／参考書：適宜指定する。

開設科目	数学科教育実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 中学校現場において、現職の数学科教官と協力しながら、実践研究を行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 中学校数学教官との研究計画の話し合い
- 第2回 項目 中学校において実践研究
- 第3回 項目 中学校において実践研究
- 第4回 項目 中学校において実践研究
- 第5回 項目 中学校において実践研究
- 第6回 項目 中学校において実践研究
- 第7回 項目 中学校において実践研究
- 第8回 項目 中学校において実践研究
- 第9回 項目 中学校において実践研究
- 第10回 項目 中学校において実践研究
- 第11回 項目 中学校において実践研究
- 第12回 項目 中学校において実践研究
- 第13回 項目 中学校において実践研究
- 第14回 項目 中学校において実践研究
- 第15回 項目 まとめ

●**メッセージ** 実践研究の内容については、受講生の関心に応じて決定する。

開設科目	数学科教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	渡邊正				

●授業の概要 附属学校や地域の学校等で実践的な教育を通して、教師としての高度な素養を身につける。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	河津清				



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡邊正				

●**授業の概要** 学生の興味や能力に適した課題を与え、その課題研究に必要な基礎から学習する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

●授業の概要 1年次前期からの継続した課題を与え、その課題研究に必要な基礎から学習する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第2回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第3回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第4回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第5回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第6回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第7回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第8回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第9回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第10回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第11回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第12回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第13回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第14回 項目 大学院生各自の課題の設定と追及
- 第15回 項目 レポート提出

●**メッセージ** 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第2回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第3回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第4回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第5回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第6回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第7回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第8回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第9回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第10回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第11回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第12回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第13回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第14回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第15回 項目 レポート提出

●**メッセージ** 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

- 授業の概要** 各自が設定した研究テーマに関して、必要な知識の習得、研究の方法などを指導する。また、研究テーマをより具体的なものにするように問題の観点、考え方を指導する。
- 授業の一般目標** 各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを発表するというセミナー形式で授業を進行する。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

●**授業の概要** 1年前期の課題研究を踏まえて、各自が設定した研究テーマについて、必要な知識の習得、問題の観点、研究の取り組み方、研究の方法などを指導する。

●**授業の一般目標** 1年前期の課題研究に続いて、各自が設定した研究テーマにあう専門書を熟読し、その内容と考え方などを発表するというセミナー形式で授業を進行する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

●**授業の概要** 各研究テーマに関連する参考文献をセミナー形式で学習する。

●**授業の一般目標** 研究課題についての基本的な知識を身につける。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : 幅広い知識を身につけ、問題解決にその知識を適切に利用できるようにする。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第1回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第2回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第3回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第4回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第5回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第6回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第7回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第8回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第9回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第10回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第11回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第12回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第13回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第14回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。
第15回	項目	テキスト講読	内容	セミナー形式でテキストを精読する。

●**成績評価方法 (総合)** 代数学の基本知識を幅広く身につけたかどうかを口頭試問で判定する。

●**メッセージ** 特に無し。

●**連絡先・オフィスアワー** iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

●**授業の概要** 前期に身につけた知識を基に、各自のテーマについて研究する。／**検索キーワード** 群論 環論 体論 暗号

●**授業の一般目標** 学生各自が自分のテーマに関しての研究を深める。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 研究上に現れた問題に対し、適切な方法と考察が出来るような力を養う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第2回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第3回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第4回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第5回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第6回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第7回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第8回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第9回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第10回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第11回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第12回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第13回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第14回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第15回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表

●**成績評価方法（総合）** 積極的に研究に励んだか、また、自分の研究を深く理解しているかを口頭試問で評価する。

●**メッセージ** 特に無し

●**連絡先・オフィスアワー** iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4 時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

●**授業の概要** 修士論文制作に向けての指導を行う。

●**授業の一般目標** 研究の方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

●**授業の概要** 修士論文制作に向けての指導を行う。

●**授業の一般目標** 研究の方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	河津清				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡邊正				

●授業の概要 1年次の時の課題研究を続ける。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	渡邊正				

●授業の概要 2年次までの学習成果をまとめる。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第2回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第3回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第4回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第5回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第6回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第7回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第8回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第9回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第10回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第11回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第12回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第13回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第14回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第15回 項目 レポート提出

●**メッセージ** 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	関口靖広				

●**授業の概要** 各大学院生ごとに、各自の関心のある課題をいくつか設定し、指導教官の指導のもとで、それについて各自の自主的な研究を行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第2回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第3回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第4回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第5回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第6回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第7回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第8回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第9回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第10回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第11回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第12回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第13回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第14回 項目 各受講生の課題の設定と追求
- 第15回 項目 各受講生の課題の設定と追求

●**メッセージ** 大学院生各自が自ら考え、自ら進めるという、主体的取り組みが絶対条件です。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	佐藤好久				

- 授業の概要** 各自が設定した研究テーマについて、問題点を絞り込み、修士論文が完成するように指導する。
- 授業の一般目標** 各自が設定した研究テーマについて、研究している内容を発表するというセミナー形式で授業を進行する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	佐藤好久				

●**授業の概要** 各自が設定した研究テーマについて、修士論文が完成するように指導する。また、発表の仕方なども指導する。

●**授業の一般目標** 修士論文の完成を目指して、修士論文の作成する。その内容を発表するというセミナー形式で授業を進行する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	飯寄信保				

●**授業の概要** 各研究テーマに関連する参考文献をセミナー形式で学習する。／**検索キーワード** 群論 環論  
暗号

●**授業の一般目標** 研究に必要な基礎知識を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：幅広い知識を身につけ、問題解決にその知識を適切に利用できるようにする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |      |    |        |    |                   |
|------|----|--------|----|-------------------|
| 第1回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第2回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第3回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第4回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第5回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第6回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第7回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第8回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第9回  | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第10回 | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第11回 | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第12回 | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第13回 | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第14回 | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |
| 第15回 | 項目 | テキスト講読 | 内容 | セミナー形式でテキストを精読する。 |

●**メッセージ** 特に無し

●**連絡先・オフィスアワー** iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4 時限



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	飯寄信保				

●**授業の概要** 前期に身につけた内容を基に各自のテーマについて研究を行う。／**検索キーワード** 群論 環論 体論 暗号

●**授業の一般目標** 学生各自が自分のテーマに関しての研究を深める。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 研究上に現れた問題に対し、適切な方法と考察が出来るような力を養う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第2回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第3回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第4回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第5回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第6回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第7回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第8回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第9回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第10回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第11回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第12回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第13回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第14回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表
第15回	項目	研究成果発表	内容	研究成果発表

●**メッセージ** 特になし

●**連絡先・オフィスアワー** iiyori@yamaguchi-u.ac.jp 水曜日 3・4 時限

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	北本卓也				

●**授業の概要** 修士論文制作に向けての指導を行う。

●**授業の一般目標** 研究の方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	北本卓也				

●**授業の概要** 修士論文制作に向けての指導を行う。

●**授業の一般目標** 研究の方法を学び、それを発表する技術を身につけること。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

# 理科教育専修

開設科目	理科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

●**授業の概要** 理科教育の理念や哲学的背景、新しい理科学習論、評価方法などについて、理科教育学、科学史などの最近の知見を踏まえて講義する。／**検索キーワード** 理科教育

●**授業の一般目標** 科学論・科学哲学に基づいて理科教育の諸問題を解説する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：理科教育に関わる科学論科学哲学についての基礎的な理解 **思考・判断の観点**：理科教育に関する諸問題を批判的に考察する **関心・意欲の観点**：積極的に課題を見いだそうとする意欲 **態度の観点**：理科教育に関する諸問題を積極的に見いだす態度 **技能・表現の観点**：理科教育に関する諸問題を分析し成果を発表する技能

●**授業の計画（全体）** 講義形式で授業を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 現在の学校理科教育の理念

第 2 回 **項目** 理科教育の基礎としての科学哲学 (1) 帰納主義

第 3 回 **項目** 理科教育の基礎としての科学哲学 (2) 反証主義

第 4 回 **項目** 理科教育の基礎としての科学哲学 (3) 洗練された反証主義

第 5 回 **項目** 理科教育の基礎としての科学哲学 (4) 相対主義

第 6 回 **項目** 戦後の理科教育の理念の変遷

第 7 回 **項目** 理科教育の目的・目標

第 8 回 **項目** 理科教育実践の具体例 (1) 観察実験の位置づけ (1)

第 9 回 **項目** 理科教育実践の具体例 (2) 振り子の等時性

第 10 回 **項目** 理科教育実践の具体例 (3) 力と運動

第 11 回 **項目** 理科授業の評価 (1) 理論・統計的方法

第 12 回 **項目** 理科教育の評価 (2) 具体的方法

第 13 回 **項目** 理科教育における最近の課題

第 14 回 **項目** 予備

第 15 回 **項目** 予備

●**教科書・参考書** 教科書：文化として学ぶ物理科学／参考書：授業の中で紹介する

開設科目	理科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

- 授業の概要** 現代の科学教育や科学観に大きな影響を及ぼしている中立的科学観を創出したクーンのパラダイム理論を彼の原著を購読しながら学ぶ。また、中立的科学観に強く影響されている、グールドの著作もあわせて輪読し、中立的科学観から派生する彼の生命観などを指導する。
- 授業の一般目標** 理科教育の背景となる代表的な科学観の背景や内容、理論的枠組み、それらに基づいた理科教育のあり方などを学習、修得する。
- 授業の計画（全体）** クーンおよびグールドの著作を輪読し、内容のレポートを作成し発表する。発表内容について議論を導き、指導する。
- 成績評価方法（総合）** 作成レポート、発表、出席状況を総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail [habe@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:habe@yamaguchi-u.ac.jp) 水曜日 13:00～14:30



開設科目	理科教育特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫・阿部弘和				

- 授業の概要** 理科教育実一般について、論文購読・討論・実地研究などの方法によって学習する。／**検索キーワード** 理科教育
- 授業の一般目標** 理科教育の諸問題を統計的に分析する手法を修得する
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：統計的データ処理に関する知識理解 **思考・判断の観点**：統計処理の方法を用いて教育的事象を理科する思考力 **関心・意欲の観点**：積極的に課題を認識する意欲 **態度の観点**：積極的に取り組む態度 **技能・表現の観点**：統計的手法を利用する技能
- 授業の計画（全体）** パソコンを用いた実習を中心に授業を行う
- 教科書・参考書** 教科書：よくわかる統計解析／参考書：すぐ分かる統計解析, 石村貞夫, 東京図書, 1993年

開設科目	物理学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

- 授業の概要** 相転移や対流現象など身の回りの秩序形成を取り上げ、マイクロとマクロにおける現象の違いや共通点を考える。／**検索キーワード** マイクロとマクロ 秩序形成 カオス
- 授業の一般目標** 普段目にする自然現象を物理学的観点から観察・考察できる能力をもてるようにする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：身の回りの物理現象を数理的に記述・処理する方法を学ぶ。**思考・判断の観点**：身の回りの種々の巨視的物理現象は共通する数理的側面をもつことを理解する。
- 授業の計画（全体）** 輪読を基本に進める。自分の担当部分が説明できるよう予習復習が必要。

開設科目	物理学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	糸長雅弘				

●**授業の概要** 地球大気を含めた惑星間空間に生起するさまざまな自然現象は、その大部分が太陽から放射される電磁波のエネルギーとプラズマの流れ（太陽風）に起因している。最近では、地上からの宇宙観測に止まらず、観測衛星やロケットによって、遠く大気圏外の宇宙環境を直接に探査することが日常化している。本講義では、太陽から放出されるエネルギーが地球の超高層大気と電離圏、磁気圏、惑星間空間の宇宙環境をどのように決めているかを論じる。／**検索キーワード** 宇宙、環境、太陽、太陽風、電離圏、磁気圏、放射線、宇宙天気

●**授業の一般目標** 宇宙環境を決定するメカニズムとその背後にある物理素過程を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 宇宙環境を決定するメカニズムを説明できる。2. メカニズムの背後にある物理素過程を説明できる。**思考・判断の観点**：1. 宇宙環境現象を物理的に思考できる。2. 宇宙環境現象にどのような物理法則が関わっているか判断できる。**関心・意欲の観点**：1. 物の理（ものごとわり）に関心を持つことができる。2. 理科教育における宇宙環境科学の活用に意欲をもやすことができる。**態度の観点**：1. 物理的な問題にも粘り強く取り組むことができる。2. 教育という視点で宇宙環境科学を考えることができる。**技能・表現の観点**：1. 物事を論理的に説明することができる。

●**授業の計画（全体）** 宇宙環境を決定するメカニズムとその背後にある物理素過程の解説を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も随時行う。毎回、講義資料を配布する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 宇宙環境科学入門
- 第 2 回 項目 太陽と太陽風
- 第 3 回 項目 太陽の活動現象
- 第 4 回 項目 電離圏
- 第 5 回 項目 電離圏の変動
- 第 6 回 項目 電波環境としての電離圏
- 第 7 回 項目 太陽風－磁気圏 相互作用 **授業外指示** 授業外レポート を課す。
- 第 8 回 項目 磁気圏対流
- 第 9 回 項目 磁気圏嵐
- 第 10 回 項目 磁気圏の粒子環境
- 第 11 回 項目 地球近傍の粒子環境
- 第 12 回 項目 宇宙放射線環境
- 第 13 回 項目 宇宙天気予報
- 第 14 回 項目 宇宙環境と人間社会 **授業外指示** 授業外レポート を課す。
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験、授業外レポート、出席を総合的に評価する。出席率が 80 % 未満の場合は、不合格になる。

●**教科書・参考書** 参考書：宇宙環境科学、恩藤忠典・丸橋克英、オーム社、2000 年

●**メッセージ** 「物理学特論演習 II」を併せて受講すること。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20-11:50

開設科目	物理学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古川浩				

●**授業の概要** 物理学特論 I の内容に関する代表的な原著論文を読み、統計物理学における基礎的な理論的手法を習得する。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：修得した知識を生かせるようになる **関心・意欲の観点**：発展的な思考が出来るようになる

開設科目	物理学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	糸長雅弘				

●**授業の概要** コンピュータシミュレーションは、現代科学にとって、なくてはならない研究手段であり、宇宙環境科学においても、重要な役割を果たしている。また、シミュレーションの計算結果を目に見える形でわかりやすく表現する可視化も、その重要性が注目されている。宇宙環境科学におけるコンピュータシミュレーションと可視化について、実習を行う。／**検索キーワード** 宇宙環境科学, プログラミング, 数値計算, シミュレーション, 可視化, Java

●**授業の一般目標** 宇宙環境科学におけるコンピュータシミュレーションと可視化の技法を修得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. コンピュータシミュレーションと可視化の技法を説明できる。  
2. シミュレーションの結果を解釈できる。 **思考・判断の観点**：1. 論理的な思考ができる。2. シミュレーションの結果について、その妥当性を判断できる。 **関心・意欲の観点**：1. いろいろなシミュレーション技法に関心を持つことができる。2. 新たなシミュレーション技法の開発に意欲をもやすことができる。 **態度の観点**：1. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。2. 教育という視点でシミュレーションを考えることができる。 **技能・表現の観点**：1. プログラムの簡潔な記述ができる。2. 読みやすいプログラムを記述できる。

●**授業の計画（全体）** コンピュータシミュレーションの演習を中心とするが、理解の定着を図るため、一人一人指名して、受講者への質問も随時行う。毎回、資料を配布する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 プログラミング 1 (数値計算手法)
- 第 2 回 項目 プログラミング 2 (太陽風の数値計算手法)
- 第 3 回 項目 プログラミング 3 (太陽風のシミュレーション)
- 第 4 回 項目 プログラミング 4 (電離圏の数値計算手法)
- 第 5 回 項目 プログラミング 5 (電離圏のシミュレーション I)
- 第 6 回 項目 プログラミング 6 (電離圏のシミュレーション II)
- 第 7 回 項目 プログラミング 7 (磁気圏の数値計算手法)
- 第 8 回 項目 プログラミング 8 (磁気圏のシミュレーション I)
- 第 9 回 項目 プログラミング 9 (磁気圏のシミュレーション II) **授業外指示** 課題を課す。
- 第 10 回 項目 プログラミング 10 (Java の基本)
- 第 11 回 項目 プログラミング 11 (Java による可視化)
- 第 12 回 項目 プログラミング 12 (Java によるアニメーション)
- 第 13 回 項目 プログラミング 13 (Java によるダブルバッファリング)
- 第 14 回 項目 プログラミング 14 (Java によるマルチスレッド処理) **授業外指示** 課題を課す。
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験，課題，出席を総合的に評価する。出席率が 80 %未満の場合は、不合格になる。

●**メッセージ** 「物理学特論 II」を併せて受講すること。自分の頭で考え、プログラミングに取り組むこと。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp, 電話: 083-933-5350, 研究室: 教育学部 224 号室, オフィスアワー: 水曜 10:20-11:50

開設科目	化学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

- 授業の概要** 結晶成長に関する文献講読を行なう。特に学校の実験室レベルで行える水溶液からの結晶成長に重点をおき、水溶液中の溶質の状態についても解説する。／**検索キーワード** 結晶成長、水溶液
- 授業の一般目標** 結晶成長の機構を原子・分子レベルから理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：結晶成長の機構を説明できる。 **思考・判断の観点**：結晶形態の変化など巨視的に観察される現象を結晶成長の観点から考察できる。 **関心・意欲の観点**：身近な結晶や様々なかたちで役立っている結晶に興味をもつ。
- 授業の計画（全体）** 授業は、教科書に沿って、講読形式で行なう。必要に応じてプリントを配付する。
- 成績評価方法（総合）** 教科書の理解度による評価、レポートによる評価、出席による評価を下記の割合で行なう。
- 教科書・参考書** 教科書：「結晶（成長、形、完全性）」砂川一郎著、共立出版／参考書：「結晶は生きている」黒田登志雄著、サイエンス社 「結晶成長」大川章哉著、裳華房
- 連絡先・オフィスアワー** bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階

開設科目	化学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上清文				
<p>●<b>授業の概要</b> 生体における機能発現に重要な生体関連物質間の相互作用や身近な界面現象について、構造・熱力学・速度論等の物理化学的観点から、学習する。小中学校の理科における指導内容にも関連させて、学習する。</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 物質間の相互作用とその機能や界面で起こる多様な現象についての理解を深めるとともに、学校現場における指導に役立てる。</p> <p>●<b>授業の計画（全体）</b> 文献や資料の講読を中心として進めつつ、その中から生じた疑問や課題についての調査等を行いながら、理解を実践的に深める。化学特論演習 II とセットで実施する。</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> 授業への取り組みや課題レポートの内容によって評価する。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 参考書：テキストは、いくつかの候補の中から学生の希望に応じて、選定する。</p>					

開設科目	化学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二				

- 授業の概要** 理科教育や日常生活に関連した結晶を具体的に取り上げ、その特性や構造を理解するとともに、実験を通して、それぞれの結晶に適した育成法や観察法を習得する。／**検索キーワード** 結晶、理科教育
- 授業の一般目標** 結晶成長機構の基礎的理解に基づいた適切な育成法・観察法を習得する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 具体的な結晶の構造や成長機構を説明でき、適切な育成法を説明できる。**思考・判断の観点**： 成長した結晶の良否を判断し、育成条件をコントロールするパラメータを、どのように調整すべきか判断できる。**関心・意欲の観点**： 結晶の育成を通じた理科教育に関心を持つ。**技能・表現の観点**： 適切な試料調整・観察・実験・記録ができる。
- 授業の計画（全体）** 成長実験を各自で行なう。そのために必要な文献や器具・試薬についての調査や、結晶の成長の具合に応じて実験を進める。
- 成績評価方法（総合）** 下記の観点で評価する。特に目的の結晶をうまく成長させるために、どのような手立てが必要になってくるのかを自ら追求する思考力や判断力を重視する。
- 教科書・参考書** 参考書：「結晶（成長、形、完全性）」砂川一郎著、共立出版「結晶は生きている」黒田登志雄著、サイエンス社「結晶成長」大川章哉著、裳華房
- 連絡先・オフィスアワー** bec20@yamaguchi-u.ac.jp、研究室：教育学部 1 階



開設科目	化学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村上清文				

- 授業の概要** 生体関連物質間の相互作用や身近な界面現象の具体例を文献講読や実習を通して学び、理論的・実験的手法を習得する。
- 授業の一般目標** 物質間の相互作用とその機能や界面で起こる多様な現象についての理解を深めるとともに、学校現場における実地指導に役立てることができるようにする。
- 授業の計画（全体）** 文献や資料の講読から見いだした疑問や課題についての調査等を行いながら、理解を実践的に深める。化学特論 II とセットで実施する。
- 成績評価方法（総合）** 授業への取り組みや課題レポートの内容によって評価する。

開設科目	生物学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	星出一巳				

- 授業の概要** 生物の基本的な単位である細胞、個体の各レベルにおいて動物の系統進化や種の分化について学ぶと共に、動物の分布と種の隔離の問題についても学習する。

開設科目	生物学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	星出一巳				

- 授業の概要** 生物学に関わる重要な文献や先端技術の現状に関する文献購読も実験実習等を行いながら、生物学特論の内容や理解を深める。

開設科目	地学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

- 授業の概要** 地質構造と岩石変形組織の解析を通して地球内部でどのような変形テクトニクスがおこってきたのかを探ることができる。本講では、その解析手法と地殻のさまざまな深度レベルでの変形様式を解説する。

開設科目	地学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	千々和一豊				

●**授業の概要** 化石燃料鉱床に関する基本的な事項を解説するとともに、燃料資源とわれわれの生活との関わりを考える。／**検索キーワード** 化石燃料、資源、エネルギー、石炭、石油

●**授業の一般目標** 化石燃料の特徴と成因について、野外・室内実習を交えながら理解を深めるとともに、生活との関わりを確認しながら、21 世紀の課題の一つであるエネルギー問題の背景・対応を考察する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：化石燃料資源の特徴・成因・意義について理解し、説明できる。  
**関心・意欲の観点**：学校教育におけるエネルギー問題の学習に有効な視点・教材を提案する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1. 化石燃料とは-燃料鉱床について
- 第 2 回 項目 2. 炭素質岩の研究意義
- 第 3 回 項目 3. 化石燃料とエネルギー・環境問題
- 第 4 回 項目 4. 化石燃料の特徴・成因論（1. 石油）
- 第 5 回 項目 5. 化石燃料の特徴・成因論（2. 石炭）
- 第 6 回 項目 6. 有機熟成作用-Grade と Rank
- 第 7 回 項目 7. 世界の燃料 鉱床
- 第 8 回 項目 8. 日本の燃料 鉱床
- 第 9 回 項目 9. 野外実習（大嶺・宇部炭 田）
- 第 10 回 項目 10. 試料の処理（1）
- 第 11 回 項目 11. 試料の処理（2）
- 第 12 回 項目 12. 試料の鏡下観察（1）
- 第 13 回 項目 13. 試料の鏡下観察（2）
- 第 14 回 項目 14. 文献輪読（1）
- 第 15 回 項目 15. 文献輪読（2）

開設科目	地学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武田賢治				

- 授業の概要** 地学特論 I の内容をさらに深く理解するために、構造地質学・マイクロテクトクスに関連した文献講読と、実際のさまざまな変形岩を用いた構造解析法の実習を行う。

開設科目	地学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	千々和一豊				

●**授業の概要** 有機地球科学に関する文献講読および野外観察実習より構成され、地学特論 II の内容をさらに深く理解する。／**検索キーワード** 有機地球科学、演習

●**授業の一般目標** 有機地球科学の文献講読より、同分野の基本事項・最新の研究動向を理解するとともに、野外観察実習より地質（大地のつくり）の見方を修得する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：有機地球科学の基本事項・研究動向を説明できる。**態度の観点**：野外実習における観察ポイント、観察事項の簡潔な要約ができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1. 文献講読 (1)
- 第 2 回 項目 2. 文献講読 (2)
- 第 3 回 項目 3. 文献講読 (3)
- 第 4 回 項目 4. 文献講読 (4)
- 第 5 回 項目 5. 文献講読 (5)
- 第 6 回 項目 6. 文献講読 (6)
- 第 7 回 項目 7. 文献講読 (7)
- 第 8 回 項目 8. 野外観察実習 (1)
- 第 9 回 項目 9. 野外観察実習 (2)
- 第 10 回 項目 10. 野外観察実習 (3)

開設科目	理科教育実践研究	区分	その他	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	和泉研二, 阿部弘和				

- 授業の概要** 学校現場で理科教育に関する実践を中心に授業を行う。／**検索キーワード** 理科教育実践
- 授業の一般目標** 理科教育の具体的な課題を取り上げて、統計的に分析する実習
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 理科教育に関する知識理解 **思考・判断の観点**： 具体的な課題を科学的に考察する思考力 **関心・意欲の観点**： 積極的に課題を見いだそうとする意欲 **態度の観点**： 見いだした課題を統計的手法によって解析する態度 **技能・表現の観点**： 統計的手法を具体的な教育課題に適用する技能
- 授業の計画（全体）** 現職教員を対象にした授業で、学校現場での活動を中心に授業を行う
- 成績評価方法（総合）** レポート



開設科目	理科教育支援実践研究	区分	その他	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野村厚志				

●**授業の概要** 企業や社会における活動を通して、自然環境や情報に関する教育を支援する理論やシステムについて実践的に学習する。／**検索キーワード** 画像処理、信号処理

●**授業の一般目標** 理科教育を支援するための手法について修得する。とくに、カメラで理科実験の様子を撮影し、そこに現れる現象の計算機処理手法・可視化手法について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：理科教育を支援するための手法について理解を深めること。**関心・意欲の観点**：理科教育を支援するための手法・技術についての関心が高まること。

●**授業の計画（全体）** 画像処理に関する基礎的な事項を学んだ後、実習を通じて、理科実験における実際の計算機処理手法などを修得する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** はじめに **内容** 本授業で行う内容について説明する。また、ノートパソコンを用いた実習を行うため、簡単な計算機の利用法を修得する。**授業外指示** ノートパソコンが利用できることを確認しておくこと。

第2回 **項目** 画像の表現（その1）

第3回 **項目** 画像の表現（その2）

第4回 **項目** 画像処理（その1）

第5回 **項目** 画像処理（その2）

第6回 **項目** 画像処理（その3）

第7回 **項目** 動画画像処理（その1）

第8回 **項目** 動画画像処理（その2）

第9回 **項目** 動画画像処理（その3）

第10回 **項目** 実習（その1） **内容** 可視化された流れ場からの速度ベクトル場計測

第11回 **項目** 実習（その2） **内容** 気象衛星画像からの風ベクトル場計測

第12回 **項目** 実習（その3） **内容** 化学反応波の伝播速度の計測

第13回 **項目** レポート作成 **内容** これまでの内容をレポートとしてまとめる。

第14回 **項目** レポート作成 **内容** これまでの内容をレポートとしてまとめる。

第15回 **項目** レポート作成 **内容** これまでの内容をレポートとしてまとめる。

●**成績評価方法（総合）** レポート及び毎回の受講状況で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：1回目の授業において指定する。／参考書：三池、古賀：パソコンによる動画処理、森北出版、1994

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部 226号室/anomura@yamaguchi-u.ac.jp/水曜日 13時～15時

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池田幸夫				

- 授業の概要** 学校理科教育全般の諸問題に関する検討を通して、理科教育に関する認識を深める／**検索**  
キーワード 理科教育
- 授業の一般目標** 理科教育全般に関する諸問題を分析する能力を育成する
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 理科教育に関する知識理解 **思考・判断の観点**： 理科教育に関する諸問題を分析する思考力 **関心・意欲の観点**： 積極的に課題を見つける意欲 **態度の観点**： 理科教育の課題に取り組む姿勢 **技能・表現の観点**： データを分析する統計的手法の修得と発表する技能

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池田幸夫				

●**授業の概要** 学校理科教育全般の諸問題に関する検討をを通して、理科教育に関する認識を深める／**検索**  
**キーワード** 理科教育

●**授業の一般目標** 理科教育に関する課題を科学的に解決する思考力と方法を修得する

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 理科教育に関する諸問題を課題として認識するために必要な知識  
**理解** **思考・判断の観点**： 課題を科学的に考察する思考力 **関心・意欲の観点**： 積極的に課題を見いだ  
す意欲 **態度の観点**： 積極的に課題に取り組む態度 **技能・表現の観点**： 課題を科学的に分析する技能  
と成果を表現する力

●**授業の計画（全体）** 受講者の実状に合わせて、演習形式で行う

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	阿部弘和				

- 授業の概要** 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験指導を行う
- 授業の一般目標** 理科教育と卒業研究に関連する基礎的な理論や実験方法などを修得する。
- 成績評価方法 (総合)** 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。
- メッセージ** 講読する論文著作等は受講者の卒業研究を考慮しながら適宜選択する
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail [habe@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:habe@yamaguchi-u.ac.jp) 水曜日 13:00～14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	阿部弘和				

- 授業の概要** 卒業研究と理科教育に関連する理論、実験の指導を行う。
- 授業の一般目標** 卒業研究と理科教育に関連する理論、実験方法などを修得する。
- 授業の計画（全体）** 与えられた課題、卒業研究の基礎的な理論を演習形式で指導し、また、成果を検討しながら、取り組みかたや、問題解決へ向けて具体的に指導する。
- 成績評価方法（総合）** 課題解決への取り組み状況、成果等を総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail [habe@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:habe@yamaguchi-u.ac.jp) 水曜日 13:00～14:30

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	星出一巳				

●**授業の概要** 中学校理科教材研究一学生が目的・目標を持って実験・観察に取り組むための教材選択と教材分析 生徒の興味関心を高める生物教材の研究一学生に興味関心を高める教材についてー

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：生物教材に対する知識，教材間の関連。 **思考・判断の観点**：中学校理科において個々の教材の持つ意味 **関心・意欲の観点**：教材に対する関心と知識を習得しようとする意欲

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	星出一巳				

- 授業の概要** 中学校理科教材研究一生徒が目的・目標を持って実験・観察に取り組むための教材選択と教材分析 生徒の興味関心を高める生物教材の研究一生徒の興味関心を高める教材についてー
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：理科教材に関する知識 **思考・判断の観点**：教材分析と生徒の理解の関係 **態度の観点**：積極的に取り組んだか。

# 音樂教育專修



開設科目	音楽科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野波健彦				

- 授業の概要** 本授業では、音楽科教育の基本的な文献の購読を通じて、今日の音楽科教育の現状及び問題を明らかにし、音楽科教育のあり方について考察する。

開設科目	音楽科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	朴成泰				

●**授業の概要** 音楽教育思想および音楽教育史を中心とする本授業は、教官も含めて大学院生を中心に課題意識を取り上げ、高度の分析を討論を展開し、研究者としての自立を目指す。また、本授業は、同分野の優れた先行研究を精査したり、学会発表および投稿論文などの対外研究活動も積極的に考究する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 音楽教育哲学と国内の研究動向 I
- 第 2 回 項目 音楽教育史と国内の研究動向 II
- 第 3 回 項目 音楽教育方法学と国内の研究動向 III
- 第 4 回 項目 音楽教育哲学と海外の研究動向 I
- 第 5 回 項目 音楽教育史と海外の研究動向 II
- 第 6 回 項目 音楽教育方法学と海外の研究動向 III
- 第 7 回 項目 論理性と学会論文の分析 I
- 第 8 回 項目 仮想課題と学会論文の分析 II
- 第 9 回 項目 先行研究と批判的検討 I
- 第 10 回 項目 課題意識と批判的検討 II
- 第 11 回 項目 先行研究の検討と学会誌論文の精査 I
- 第 12 回 項目 課題意識の妥当性と学会誌論文の精査 II
- 第 13 回 項目 個人史による人物研究と業績 I
- 第 14 回 項目 音楽教育思想による人物研究と業績 II
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	音楽科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	野波健彦				

- 授業の概要** 音楽科教育の表現領域や鑑賞領域の授業について、児童・生徒と教師の相互作用に関する行動分析理論の立場から実践的な研究を行う。

開設科目	音楽科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	朴成泰				

●**授業の概要** 本授業は、音楽科教育を専門に研究するために、研究方法についての基礎概念と基礎技法を身に付けるための実際的な内容である。音楽科教育研究という言葉の意味内容は未だに一般的九通理解を欠いており、これらの科目の講義内容は、量的にも質的にも多様なものとなっている。本授業の目的は、音楽教育者が研究の基本的原理、手法を容易に理解し、実践的で論理的な方法を提示する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 音楽科教育研究の意義
- 第 3 回 項目 課題設定
- 第 4 回 項目 研究計画の組織
- 第 5 回 項目 文献情報の獲得
- 第 6 回 項目 歴史的研究・過去の記録
- 第 7 回 項目 実験的研究・未来の予測
- 第 8 回 項目 記述的研究・現状の報告
- 第 9 回 項目 哲学的探求・真理の理性的追求
- 第 10 回 項目 美的探求・美の追求
- 第 11 回 項目 研究報告書の作成
- 第 12 回 項目 音楽教育研究のための研究費
- 第 13 回 項目 音楽教育研究の現在と未来
- 第 14 回 項目 修了後の研究
- 第 15 回 項目 予備

開設科目	器楽特別研究 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

●**授業の概要** ピアノ演奏の技法的な部分に重点を置いた研究を、文献による研究と実践により行う。

開設科目	器楽特別研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成川ひとみ				

●**授業の概要** 鍵盤楽器の音楽史上の主要な作品や作曲家について、楽譜・文献等を資料にしながら分析・研究を行う。また、鍵盤楽器の発達過程上の観点も、演奏研究に取り入れる。

●**連絡先・オフィスアワー** nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364

開設科目	器楽演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

●**授業の概要** ピアノ作品の演奏において必要な表現技法や演奏解釈を、実践を通して探求する。

開設科目	器楽演習 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	成川ひとみ				

●**授業の概要** 器楽特別研究 II をふまえて、ピアノ作品の時代様式の違いに着目しながら、演奏表現の実践を行う。この実践活動を通して、表現の多様性や可能性を幅広く探求する。

●**教科書・参考書** 教科書：必要な楽譜を各自準備

●**連絡先・オフィスアワー** nr1103@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線 5364



開設科目	声楽特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	佐々川広子				

- 授業の概要** イタリア、日本、ドイツ、フランスなどの歌曲を中心に、ディクシオン、発声法を学び、歌唱力を高める。
- 授業の一般目標** 学部段階の学習を踏まえ、発声・呼吸・ディクシオン等の技術をより高度に磨くと共に、表現力の向上を目指す。

開設科目	声楽演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	佐々川 広子				

●**授業の概要** 歌曲に加え、オペラやオラトリオのアリア、重唱など、レパートリーを広げ、豊かな音楽表現を目指す。

●**授業の一般目標** レパートリーを広げ、豊かな音楽表現を目指す。

開設科目	作曲特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

- 授業の概要** 古典から現代までの作曲技法について、理論的、思想的側面から分析的に研究し、音楽全般に対する高度な理解力や洞察力の深まりを図る。
- 授業の一般目標** 古典から現代までの作曲技法について、理論的、思想的側面から分析的に研究できる能力の獲得、音楽全般に対する高度な理解力や洞察力の深まりが達成されることを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：様々な作曲手法の理解。 **思考・判断の観点**：様々な作曲手法が生まれて来た背景を思考する能力の獲得。 **関心・意欲の観点**：様々な作曲法への積極的な関心。 **技能・表現の観点**：様々な作曲法で、簡単な作曲を行える高度な技能と豊かな表現力の獲得。
- 授業の計画（全体）** 受講生の関心の強い主題により決定する。
- 教科書・参考書** 教科書：取り上げる領域によって決定。／参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。
- メッセージ** 自発的な取り組みが成果を生む。
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	作曲演習	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

- 授業の概要** 声楽曲、器楽曲の習作の作曲や、高度な編曲技術の研究を行う。
- 授業の一般目標** 声楽曲、器楽曲の習作の作曲や、高度な編曲技術の取得を目指し、必要に応じた高度な教材開発能力を習得することを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：様々な作曲法の基本的な知識の習得と理解。 **思考・判断の観点**：音楽表現意図、教材作成意図に沿った作曲手法を的確に選択し、その判断が的確かどうか、を判断する思考力の獲得。 **関心・意欲の観点**：様々な作曲法に対する関心と、その作曲法を試してみよう、という意欲。 **技能・表現の観点**：様々な作曲法で作曲できる技能の習得と、幅広い表現力の獲得。
- 授業の計画（全体）** 受講生個々の持つ課題に対応して決定する。
- 教科書・参考書** 教科書：受講生との話し合いにより、必要ならば指示する。／参考書：授業時間中に必要に応じ適宜紹介する。
- メッセージ** 強い好奇心と旺盛な意欲が肝要。
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	音楽学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	安原雅之				

- 授業の概要** 基本的な音楽学の方法論を実践的に学びます。
- 授業の一般目標** 基本的な音楽学の方法論を身につける。
- 授業の計画（全体）** 開講時に詳細なシラバスを配布します。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。／参考書：『音楽の文章術』を使用します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 933-5360 yasuhar@yamaguchi-u.ac.jp  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yasuhar/> オフィスアワーは開講時にお知らせします。

開設科目	音楽学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	安原雅之				

●**授業の概要** 履修生の研究課題に則した課題を設定し、考察を深めていきます。

●**授業の計画（全体）** 各受講生が設定したテーマに基づいて授業の計画を立てます。

●**成績評価方法（総合）** 授業で課す課題を評価の対象とします。

●**連絡先・オフィスアワー** yasuhar@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	音楽科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	野波健彦 朴 成泰				

- 授業の概要** あくまで現場の実践に結びついた音楽教育学をめざし、音楽教育方法学、音楽教育心理学、音楽教育内容学などの基礎研究をベースにして、より専門的に研究を深める。

開設科目	音楽科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

●**授業の概要** 音楽科教育を側面から支援する様々な領域の研究を、資料等を検討することを通して行うと共に、音楽科教育への支援の方法を実践的に探究する。

●**授業の一般目標** 音楽科教育を側面から支援する様々な領域の理解と、それらの領域からの支援の方法を理解し、実践すること。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 様々な支援の形態の知識と理解 **思考・判断の観点**： 様々な支援の方法を考え、最適な支援方法を判断する。 **関心・意欲の観点**： 支援できる様々な領域への関心

●**授業の計画（全体）** 受講生の学習歴、関心の所在などによって学年はじめに決定する。

●**教科書・参考書** 教科書： 特に定めない。／ 参考書： 必要に応じ、授業時間中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	西村順子				

●授業の概要 研究計画に従って、前年度のまとめと今年度の目標を定める。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	西村順子				

●**授業の概要** 修了時に2年間の成果が出せるよう、今までの研究を振り返りながら最後のまとめを行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池上敏				

- 授業の概要** 修士学位請求論文等の作成に必要な、研究テーマに対する基本的で広汎な知見、研究についての情報収集の方途などを指導する。
- 授業の一般目標** コンピュータを使つての情報検索技術の習得、論文執筆の基本的なマニュアルの理解を目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 研究テーマへの基本的な知識の獲得、研究目標の理解。 **思考・判断の観点**： 研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の獲得、検索から得られた情報の価値判断、評価を行える能力の獲得。 **関心・意欲の観点**： 先行研究の把握、学会や研究会への参加。  
**技能・表現の観点**： 研究内容をよりの確に表現するための文章能力の錬磨。
- 授業の計画（全体）** 研究テーマによって決定する。
- 教科書・参考書** 教科書： 特に定めない。／ 参考書： 必要に応じ、授業時間中に紹介する。
- メッセージ** 研究はあくまで自発的に行うもの、という基本的な態度を忘れないこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池上敏				

- 授業の概要** 修士学位請求論文等の作成に必要な、研究テーマに対する基本的で広汎な知見、研究についての情報収集の方途などを指導する。
- 授業の一般目標** コンピュータを使つての情報検索技術の習得、論文執筆の基本的なマニュアルの理解を目指す。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 研究テーマへの基本的な知識の獲得、研究目標の理解。 **思考・判断の観点**： 研究を深める方法論の探究を自ら獲得できる思考能力の獲得、検索から得られた情報の価値判断、評価を行える能力の獲得。 **関心・意欲の観点**： 先行研究の把握、学会や研究会への参加。**技能・表現の観点**： 研究内容をよりの確に表現するための文章能力の錬磨。
- 授業の計画（全体）** 研究テーマによって決定する。
- 教科書・参考書** 教科書： 特に定めない。／参考書： 必要に応じ、授業時間中に紹介する。
- メッセージ** 研究はあくまで自発的に行うもの、という基本的な態度を忘れないこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部・音楽棟109（池上）研究室、オフィスアワーは未定。

# 美術教育専修

開設科目	美術教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

●**授業の概要** 美術教育の理念について歴史、教育課程、民間教育運動等を通して解説する。また、東南アジアの美術教育についても現状と考え方について解説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 美術教育の理念歴史その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 同上その 4
- 第 5 回 項目 美術教育の教育課程その 1
- 第 6 回 項目 同上その 2
- 第 7 回 項目 同上その 3
- 第 8 回 項目 教える美術教育
- 第 9 回 項目 育む美術教育
- 第 10 回 項目 シンガポールの美術教育その 1
- 第 11 回 項目 同上その 2
- 第 12 回 項目 マレーシアの美術教育その 1
- 第 13 回 項目 同上その 2
- 第 14 回 項目 インドネシアの美術教育
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	美術教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

●**授業の概要** 美術教育の教材について教科書を基にして考え方を探求する。本年度はシンガポールの教科書を事例とする。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 シンガポールの教科書の購読その 1
- 第 2 回 項目 同上 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 同上その 4
- 第 5 回 項目 同上その 5
- 第 6 回 項目 同上その 6
- 第 7 回 項目 同上その 7
- 第 8 回 項目 教材構成について その 1
- 第 9 回 項目 同上その 2
- 第 10 回 項目 同上その 3
- 第 11 回 項目 美術教科書と鑑賞 その 1
- 第 12 回 項目 同上その 2
- 第 13 回 項目 情報化社会と美術教育
- 第 14 回 項目 アジア世界と美術教育
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	美術教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田貴富				

●**授業の概要** 現代の教育思潮や近年の美術教育研究の成果をもとに、美術教育の今日的課題を論じる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション。授業者、受講者の自己紹介、等。
- 第 2 回 **項目** 大学院における研究：教科専門と教科教育。レポートの書き方（1）
- 第 3 回 **項目** 大学院における研究：レポートの書き方（2）
- 第 4 回 **項目** 「学校」再考：学校教育の現状。学校教育のパラドクス。脱学校論からの今日的示唆。
- 第 5 回 **項目** 美術教師の現状。教員養成を考える。
- 第 6 回 **項目** 美術教育思潮の源流（1）：創造主義再考。
- 第 7 回 **項目** 美術教育思潮の源流（2）：造形主義再考。
- 第 8 回 **項目** 美術教育思潮の源流（3）：生活（認識）主義再考。
- 第 9 回 **項目** 美術教育思潮の源流（4）：DBAE 再考。
- 第 10 回 **項目** 描画発達段階再考
- 第 11 回 **項目** 造形遊びを支える論理
- 第 12 回 **項目** レポート中間提出
- 第 13 回 **項目** 美術教育における評価
- 第 14 回 **項目** カリキュラムの再構築に向けて
- 第 15 回 **項目** まとめ。レポート提出に向けて。



開設科目	美術教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉田貴富				

●**授業の概要** 日米の美術教育ジャーナルに掲載された論文を講読することにより、最新の動向を把握し、今  
 日的問題について考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション。教材（論文）配付。
- 第 2 回 **項目** 教材 1（日本語文献）購読（1）
- 第 3 回 **項目** 教材 1 購読（2）
- 第 4 回 **項目** 教材 1 購読（3）
- 第 5 回 **項目** 教材 1 購読（4）
- 第 6 回 **項目** 教材 2（英語文献）購読（1）
- 第 7 回 **項目** 教材 2 購読（2）
- 第 8 回 **項目** 教材 2 購読（3）
- 第 9 回 **項目** 教材 2 購読（4）
- 第 10 回 **項目** 児童画コンクールについて
- 第 11 回 **項目** 教材 3（英語文献）講読（1）
- 第 12 回 **項目** 教材 3 講読（2）
- 第 13 回 **項目** 教材 3 講読（3）
- 第 14 回 **項目** 教材 3 講読（4）
- 第 15 回 **項目** まとめ：ディスカッション

開設科目	絵画特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

●**授業の概要** (1) 絵画における古典技法(テンペラ、白亜地等)の実習。(2) 空間における平面作品のあり方をインスタレーションの実例をあげながら考察する。

●**授業の一般目標** (1) 絵画における古典技法(テンペラ、白亜地等)についての理解を深め、古典技法による作品を制作する。(2) 平面作品によりインスタレーションを行う。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**: 古典技法についての造詣を深める。 **技能・表現の観点**: 技法書に基づき古典技法を実際に使った作品をつくることのできる。

●**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第1回 項目 白亜地実習(1)

第2回 項目 "

第3回 項目 "

第4回 項目 "

第5回 項目 "

第6回 項目 課題(2)

第7回 項目 "

第8回 項目 "

第9回 項目 "

第10回 項目 "

第11回 項目 自主制作

第12回 項目 "

第13回 項目 "

第14回 項目 "

第15回 項目 講評

●**成績評価方法(総合)** (1) 授業態度 (2) 制作作品 (3) 出席

●**教科書・参考書** 教科書: 絵画技法入門 佐藤一郎著 美術出版社

●**連絡先・オフィスアワー** nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp 090-9003-6944

開設科目	絵画演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

●**授業の概要** 自作に関連する美術作家について研究し、自由制作および作品発表計画をつくる。

●**授業の一般目標** (1) 自作に関連する美術作家について研究する。(2) 自由制作および作品発表計画をつくる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：美術作家についての造詣を深める **態度の観点**：作品を自主的に制作し、発表することができる。 **技能・表現の観点**：新しい技術やスタイルを模索することができる。

●**授業の計画(全体)** 自作に関連する美術作家について研究し、自由制作および作品発表計画をつくる。

●**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第1回 項目 課題(1) 作家研究

第2回 項目 //

第3回 項目 //

第4回 項目 //

第5回 項目 //

第6回 項目 課題(2) 自由制作

第7回 項目 //

第8回 項目 //

第9回 項目 //

第10回 項目 //

第11回 項目 //

第12回 項目 //

第13回 項目 //

第14回 項目 //

第15回 項目 講評会

●**連絡先・オフィスアワー** nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	彫刻特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松原茂				

●**授業の概要** イタリア式ロウ型鋳造法について解説し、ブロンズの鋳造工程について体験を通して指導する。

●**授業の一般目標** ロウ型鋳造法の特徴および彫刻の素材について理解を深める。

●**授業の到達目標**／ **関心・意欲の観点**：彫刻の素材について興味・関心をもつ。 **技能・表現の観点**：ロウ型鋳造法による小品のブロンズ鋳造ができる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 ロウ原型制作

第3回 項目 同上

第4回 項目 同上

第5回 項目 同上

第6回 項目 同上

第7回 項目 湯道，コウガイ制作

第8回 項目 同上

第9回 項目 鋳型製作

第10回 項目 同上

第11回 項目 同上

第12回 項目 同上

第13回 項目 鋳込み

第14回 項目 仕上げ

第15回 項目 同上

●**メッセージ** スケッチブック持参

開設科目	彫刻演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松原茂				

●**授業の概要** 人体を対象にフォルムや表現技術などについて指導する。人体モデルを使い、かなsつに基づいて制作をするが、表面的な写実に終わることなく、人体の構造や感情表現など、より高度な表現技法の指導を心がけたい。

●**授業の一般目標** 人体をテーマにして、フォルム、動勢、比例、均衡などより高度な表現技術を習得する。

●**授業の到達目標**／ **関心・意欲の観点**：人体彫刻に関心をもつ。 **技能・表現の観点**：対象をより深く観察し、人体の構造を捉え表現することができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 デッサン
- 第3回 項目 デッサン
- 第4回 項目 心棒作り、粘土練
- 第5回 項目 粘土による制作
- 第6回 項目 同上
- 第7回 項目 同上
- 第8回 項目 同上
- 第9回 項目 同上
- 第10回 項目 同上
- 第11回 項目 同上
- 第12回 項目 石膏取り
- 第13回 項目 同上
- 第14回 項目 同上
- 第15回 項目 仕上げ

●**メッセージ** スケッチブック持参。

開設科目	デザイン特別研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	堀家敬嗣				

- 授業の概要** イメージ（映像）理論として注目すべき新旧の文献を精読し、その今日的な意義および可能性を検討する。
- 授業の一般目標** イメージ（映像）理論として注目すべき新旧の文献の今日的な意義および可能性の理解を目標とする。

開設科目	デザイン演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	熊谷武洋				

●**授業の概要** コンピュータグラフィックスおよびデジタル動画像を用いて視聴覚教材を想定した制作を行う。したがって芸術性ではなく有用性が評価の対象となる。また成果物だけではなくそれにいたる計画なども途中課題として学生自身によるプレゼンテーションを行う。／**検索キーワード** マルチメディア教材 コンピュータ

●**授業の一般目標** 本講義は、コンピュータを駆使して視聴覚教材を制作できる、もしくはその工程を計画できる技術を修得し、その有用性や可能性についても理解を深めることを目標としている。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：画像情報処理の基本技術、概念、有用性、社会性について自分自身の視座を獲得しているか **思考・判断の観点**：与えられた条件から有用性のある成果物を計画・制作できるか **技能・表現の観点**：自分が策定した計画にしたがってコンテンツ（含視聴覚教材）を完成レベルにまで制作できるか

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 メディア教育とコンピュータ
- 第2回 項目 メディア教育における事例紹介
- 第3回 項目 要素技術に関する概説-1-
- 第4回 項目 要素技術に関する概説-2-
- 第5回 項目 視聴覚教材制作計画案について
- 第6回 項目 制作計画案作成作業-1-
- 第7回 項目 一次発表
- 第8回 項目 制作計画案作成作業-2-
- 第9回 項目 制作計画案作成作業-3-
- 第10回 項目 二次発表
- 第11回 項目 実制作-1-（適宜 質疑応答）
- 第12回 項目 実制作-2-（適宜 質疑応答）
- 第13回 項目 実制作-3-（適宜 質疑応答）
- 第14回 項目 最終発表
- 第15回 項目 まとめ

●**メッセージ** 作品自体の完成度もさることながら成果物が自分の立場や考え方の中にきちんと位置付けられていることが重要です。

開設科目	工芸特別研究 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉賀将夫				

●**授業の概要** 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、作品制作と理論的な面と併せて研究する。

●**授業の一般目標** 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、作品制作と理論的な面と併せて研究し陶芸への理解をを深める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 全体説明

第 2 回 項目 制作論講義 及び制作研究（含 焼成）

第 3 回 項目 "

第 4 回 項目 "

第 5 回 項目 "

第 6 回 項目 "

第 7 回 項目 "

第 8 回 項目 "

第 9 回 項目 "

第 10 回 項目 "

第 11 回 項目 "

第 12 回 項目 "

第 13 回 項目 "

第 14 回 項目 "

第 15 回 項目 研究結果講評



開設科目	工芸演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉賀將夫				

●**授業の概要** 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、陶芸の制作を行う。

●**授業の一般目標** 総合的な工芸の観点から陶芸をとらえ、陶芸制作を行い作品を完成する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 全体説明

第 2 回 項目 制作論講義 及び制作研究（含 焼成）

第 3 回 項目 "

第 4 回 項目 "

第 5 回 項目 "

第 6 回 項目 "

第 7 回 項目 "

第 8 回 項目 "

第 9 回 項目 "

第 10 回 項目 "

第 11 回 項目 "

第 12 回 項目 "

第 13 回 項目 "

第 14 回 項目 "

第 15 回 項目 研究結果講評

開設科目	工芸特別研究 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	未定				

●授業の概要 工芸の意味・特質について、木材工芸を中心に考察する。

開設科目	工芸演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 木材工芸の加工技法を中心として制作及び研究を行う。

開設科目	美術史特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

●**授業の概要** 日本美術史、とくに近世、近代絵画史上の諸問題について講義をする。また受講生に対応して史料を読み解きながら、講義を行うことも想定される。

●**授業の一般目標** (1) 日本美術史の諸問題を理解し、それに対する自らの考察を加える基本的能力を養う。  
(2) 美術史の基本史料を読みこなし、そこに存在する問題を抽出し、検討する能力の養成。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本美術史に関する全般的な理解を基礎としつつ、各論としての美術史のテーマをもつ。**思考・判断の観点**：美術史の理解として得たテーマを、史料をもとに考察し、検討する。**関心・意欲の観点**：設定したテーマに対する基礎的な研究意欲を醸成する。**態度の観点**：史料の読解、探索など積極的な授業参加を期待する。

●**授業の計画（全体）** 日本美術史の問題をとくに設定したテーマで講義を行ない。その後それに伴う史料購読を行ない、さらに研究討議をしながら論点の整理と分析を行なう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 全体説明
- 第2回 項目 日本美術の問題点(1)
- 第3回 項目 日本美術の問題点(2)
- 第4回 項目 日本美術の問題点(3)
- 第5回 項目 日本美術の問題点(4)
- 第6回 項目 研究討議
- 第7回 項目 史料購読(1)
- 第8回 項目 史料購読(2)
- 第9回 項目 史料購読(3)
- 第10回 項目 史料購読(4)
- 第11回 項目 史料購読(5)
- 第12回 項目 史料購読(6)
- 第13回 項目 史料購読(7)
- 第14回 項目 研究討議
- 第15回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 参考書：参考書については授業のなかでその都度示す。

●**連絡先・オフィスアワー** kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術史演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

●**授業の概要** 受講生の研究領域に対応したテーマを設けて、研究発表形式で授業をもち、討論、討議も行う。

●**授業の一般目標** (1) 設定したテーマに対する研究方法の見極めと、アプローチの仕方を検討する。(2) 修士論文作成を念頭に、問題点の整理と分析を深める。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：研究テーマの確立と、その研究のための基礎的な考え方の方向性の確立をめざす。 **関心・意欲の観点**：史料の研究、探索に関して意欲的なあり方を期待したい。

●**授業の計画（全体）** 研究テーマに関する研究発表を基本として、適宜討議や分析を加えていく。ときとして実際にテーマに関わる研究調査を行なう場合もある。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回 **項目** 全体説明

第2回 **項目** 研究発表

第3回 **項目** 研究発表

第4回 **項目** 研究発表

第5回 **項目** 研究発表

第6回 **項目** 研究発表

第7回 **項目** 討議と分析

第8回 **項目** 研究発表

第9回 **項目** 研究発表

第10回 **項目** 研究発表

第11回 **項目** 研究発表

第12回 **項目** 研究発表

第13回 **項目** 討議と分析

第14回 **項目** まとめ

第15回

●**教科書・参考書** 参考書：参考書に関しては適宜授業で示す。

●**連絡先・オフィスアワー** kikuya@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部2階

開設科目	美術教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	福田隆真 吉田貴富				

- 授業の概要** 美術教育の実践的問題について把握し、附属学校などの協力を得て、教材開発、指導法、教育の今日的課題の認識について習得する。

開設科目	美術教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞 吉田貴富 菊屋吉生				

●**授業の概要** 美術教育の広義な実践として社会教育、美術館教育などにおける教育支援の実際について習得する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 社会教育場面における美術教育支援 その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 同上その4
- 第5回 項目 美術館における美術教育支援その1
- 第6回 項目 同上その2
- 第7回 項目 同上その3
- 第8回 項目 同上その4
- 第9回 項目 同上その5
- 第10回 項目 同上その6
- 第11回 項目 同上その7
- 第12回 項目 支援と教材開発その1
- 第13回 項目 同上その2
- 第14回 項目 同上その3
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官					



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

●**授業の概要** 各自の表現による作品制作。制作された作品と作品がどのような関連性をもつのかについての考察を行う。(ディスカッション)

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 自主制作
- 第2回 項目 〃
- 第3回 項目 〃
- 第4回 項目 〃
- 第5回 項目 〃
- 第6回 項目 講評会
- 第7回 項目 〃
- 第8回 項目 〃
- 第9回 項目 〃
- 第10回 項目 〃
- 第11回 項目 講評会
- 第12回 項目 〃
- 第13回 項目 〃
- 第14回 項目 〃
- 第15回 項目 講評会

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

●**授業の概要** 各受講生のテーマに従って、論文作成のための基礎となる資料収集、分析、個々の問題のまとめを行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 問題の探求その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 資料の収集その1
- 第5回 項目 同上その2
- 第6回 項目 同上その3
- 第7回 項目 資料の分析その1
- 第8回 項目 同上その2
- 第9回 項目 小論文作成その1
- 第10回 項目 同上その2
- 第11回 項目 同上その3
- 第12回 項目 同上その4
- 第13回 項目 同上その5
- 第14回 項目 同上その6
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	菊屋吉生				

- 授業の概要** 受講生がテーマとする研究にそって、その進捗状況に応じて逐次研究方法、参考文献などを指導する。また不定期に研究発表をし、研究状況を報告することとしたい。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中野良寿				

●**授業の概要** 自作のテーマに沿った作品制作をする。制作に関連した修士論文のテーマを決定し、論文を書く。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作（1）
- 第3回 項目 制作（2）
- 第4回 項目 制作（3）
- 第5回 項目 制作（4）
- 第6回 項目 ディスカッション（1）
- 第7回 項目 制作（5）
- 第8回 項目 制作（6）
- 第9回 項目 制作（7）
- 第10回 項目 制作（8）
- 第11回 項目 ディスカッション（2）
- 第12回 項目 制作（9）
- 第13回 項目 制作（10）
- 第14回 項目 制作（11）
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	福田隆眞				

●**授業の概要** 論文作成のための資料収集、分析、問題解決、小論文作成をおこなう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 美術教育にかかわる問題の発見その1
- 第2回 項目 同上その2
- 第3回 項目 同上その3
- 第4回 項目 美術教育にかかわる資料の収集その1
- 第5回 項目 同上その2
- 第6回 項目 同上その3
- 第7回 項目 資料の分析その1
- 第8回 項目 同上その2
- 第9回 項目 同上その3
- 第10回 項目 論文作成その1
- 第11回 項目 同上その2
- 第12回 項目 同上その3
- 第13回 項目 同上その4
- 第14回 項目 同上その5
- 第15回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

●**授業の概要** 自作のテーマに沿った作品制作および、修了論文のための資料収集をする。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作（1）
- 第3回 項目 制作（2）
- 第4回 項目 制作（3）
- 第5回 項目 ディスカッション
- 第6回 項目 制作（4）
- 第7回 項目 制作（5）
- 第8回 項目 制作（6）
- 第9回 項目 制作（7）
- 第10回 項目 ディスカッション
- 第11回 項目 制作（8）
- 第12回 項目 制作（9）
- 第13回 項目 制作（10）
- 第14回 項目 制作（11）
- 第15回 項目 講評



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

●**授業の概要** 論文作成のための全体構成、各章ごとの内容の点検を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 テーマと内容構成 の検討その 1
- 第 2 回 項目 同上その 2
- 第 3 回 項目 同上その 3
- 第 4 回 項目 1 章の作成と検討 その 1
- 第 5 回 項目 同上その 2
- 第 6 回 項目 同上その 3
- 第 7 回 項目 同上その 4
- 第 8 回 項目 2 章の作成と検討 その 1
- 第 9 回 項目 同上その 2
- 第 10 回 項目 同上その 3
- 第 11 回 項目 同上その 4
- 第 12 回 項目 同上その 5
- 第 13 回 項目 全体構成の再検討 その 1
- 第 14 回 項目 同上その 2
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	菊屋吉生				

- 授業の概要** ここでは、修士論文の完成をめざした研究とその指導を行う。論文のテーマにそった発表およびレポート作成を課し、逐次その検討を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中野良寿				

●**授業の概要** 修了作品制作および修士論文についてゼミ形式で討議する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 課題説明
- 第2回 項目 制作（1）
- 第3回 項目 ディスカッション（1）
- 第4回 項目 制作（2）
- 第5回 項目 制作（3）
- 第6回 項目 制作（4）
- 第7回 項目 ディスカッション（2）
- 第8回 項目 制作（5）
- 第9回 項目 制作（6）
- 第10回 項目 制作（7）
- 第11回 項目 ディスカッション（3）
- 第12回 項目 制作（8）
- 第13回 項目 制作（9）
- 第14回 項目 制作（10）
- 第15回 項目 講評

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	福田隆眞				

●授業の概要 論文作成の仕上げを行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 3章の作成と検討 その1
- 第 2 回 項目 同上その2
- 第 3 回 項目 同上その3
- 第 4 回 項目 同上その4
- 第 5 回 項目 同上その5
- 第 6 回 項目 4章の作成と検討 その1
- 第 7 回 項目 同上その2
- 第 8 回 項目 同上その3
- 第 9 回 項目 同上その4
- 第10回 項目 資料の検討その1
- 第11回 項目 同上その2
- 第12回 項目 全体の見直しその1
- 第13回 項目 同上その2
- 第14回 項目 同上その
- 第15回 項目 まとめ



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

# 保健体育教育専修

開設科目	体育科教育特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	非常勤				

- 授業の概要** 体育科教育における運動の学習の指導方法論を取り上げ、メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導について論じる。
- 授業の一般目標** メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導における基礎理論を理解させる。
- 授業の計画（全体）** メンタルプラクティス、視聴覚指導、運動感覚的指導に関する文献を購読し、その概略を理解させる。その上で、近年の文献をもとに、理論的背景を探ると同時に近年の研究動向について論じる。
- 教科書・参考書** 教科書：メンタルトレーニングの心理学理学, R. N. シンガー（松田岩男監訳）, 大修館書店, 1986 年

開設科目	体育科教育特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

- 授業の概要** 現代における子どもの生活スタイルの変容と発達疎外の状況に関して、各自がテーマを設定し、体育・スポーツという視点から関連する先行研究を検討する。
- 授業の一般目標** 子どもの生活スタイルと発達疎外の状況について、各自が担当したテーマに関する先行研究の考察と報告を通して、テーマについての理解を深めるとともに、レポートのまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自のテーマに関し、これまでの先行研究の概要と問題点について説明できる。**思考・判断の観点**：現代の子どもの生活課題・発達課題を理解し、体育科教育の課題について自説を展開できる。**態度の観点**：テーマに関する様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 受講者間で考察したいテーマを設定し、それぞれが具体的な先行研究をレビューしながら、適宜報告をしてもらい、ゼミ形式で進めていく。
- 成績評価方法（総合）** 授業時のレポートおよび総括レポートの作成過程と完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育科教育特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	非常勤				

●**授業の概要** 体育科教育における感情変容や態度変容に関して文献購読を行わせると同時にその測定 評価法について研究させる。／**検索キーワード** 体育科教育

●**授業の一般目標** 人格形成に及ぼす身体運動のの効果や感情変容における身体運動の変化について理解させると同時に、文献購読によってこの研究領域における研究史を理解させる。人格形成に係わって、測定用具を理解すると同時に、テスト理論について理解させる。

●**授業の計画（全体）** 人格形成に及ぼす身体運動のの効果や感情変容に及ぼす効果についての近年の研究動向を 文献購読によって深める。人格理論、その測定法について文献購読によって研究し、簡単な態度変容尺度を作成する。

●**教科書・参考書** 参考書：人格の構造, H.J. アイゼンク梅津耕作。祐宗省三他訳, 岩崎学術出版社, 1973 年

開設科目	体育科教育特論演習 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

- 授業の概要** 体育科教育特論 II で子どもの生活スタイルと発達状況に関する先行研究の考察を踏まえて、実際に研究課題を絞って調査票を作成し、実態調査を試みる。そして、調査結果を分析・考察する。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、先行研究を踏まえて必要な調査方法を構成し、実施する。また調査結果を分析・考察することを通して、テーマについての理解を深める。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 先行研究を踏まえて、適切な調査方法を構成できる。調査結果を先行研究のそれと関連で適切に解釈することができる。 **態度の観点**： 調査計画から実施、分析、報告までを、主体的に取り組むことができる。
- 成績評価方法 (総合)** 調査計画－実施－分析と考察の過程、および、調査報告レポートの完成度により総合的に評価する
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	体育学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三好洋二				

- 授業の概要** 社会制度としての体育・スポーツを社会的諸力（政治・経済・文化・教育等）と相互に影響しあう社会的現象として理解し、その成立、維持、発展、変動のメカニズムについて論じる。／**検索キーワード** スポーツ、体育、社会制度
- 授業の一般目標** 現代社会における社会現象としての体育・スポーツの事象を認識するとともに、そうした問題等の原因・背景を推論するための基本的な考え方を理解する。
- 授業の計画（全体）** 文献購読及ディスカッションを行いながら進める。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室:教育学部 1 6 2 番室 電話: 9 3 3 - 5 3 7 6 E-mail:y Miyoshi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	体育学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	非常勤				

●**授業の概要** 生涯スポーツの観点から各種の体育・スポーツ事業や行政のあり方について論じる。

●**授業の一般目標** 生涯スポーツの観点から運動者、経営体、行政体の特徴とそれをふまえた各種の体育・スポーツ事業や行政のあり方について理解する。

●**授業の計画（全体）** 1. 運動者について 2. 体育・スポーツ経営体について（施設の設置及び運営、行事の提供、クラブの育成） 3. 体育・スポーツ行政体について

開設科目	体育学特論 III	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池田恵子				

- 授業の概要** 体育・スポーツ文化論、歴史の観点から近代スポーツの視座を捉え、スポーツの伝播過程とその権力関係、社会的脈絡について理解を深める。
- 授業の一般目標** 現代社会を取り巻く体育・スポーツ事象について、歴史的観点からその原理を問う。そのための基礎的知識を学術論文の読解を通じて習得する。学術論文の読解は主として、演習形式で集約、発表を行い、論理的に再構成し、先行研究の限界について指摘する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：学術論文を正確に読解することができる。先行研究の研究方法に即して中身を自らのことばで集約し、説明することができる。**思考・判断の観点**：学術論文の方法論を自らの関心に引き付けて、再構成し、論文の限界を指摘することができる。発展的解釈や、現代的視角を投げ、論文の意味について、思考を深めることができる。**関心・意欲の観点**：主体的に演習テーマに即した文献を収集し、参照することができる。
- メッセージ** 昨年度授業内容を研究室HPにて公開しているので、参照のこと。<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/kikeda/newpage11.htm>
- 連絡先・オフィスアワー** 池田恵子：E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

開設科目	体育学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	三好洋二・池田恵子				

- 授業の概要** 現代スポーツの中から主要な問題を取り上げ、それに関わるこれまでの文献の講読をとおして理解を深める。
- 授業の一般目標** 体育学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習をふまえた上で、現代スポーツの中から主要な問題を取り上げ、それに関わるこれまでの文献の購読を通して理解を深める。
- 授業の計画（全体）** 二人の教官がそれぞれの専門分野から、現代スポーツの主要な問題を取り上げ、それに関わる文献購読とディスカッションを行う。
- 連絡先・オフィスアワー** 三好洋二：研究室162番室 E-mail:ymiyoshi@yamaguchi-u.ac.jp 池田恵子：研究室176番室 E-mail:kikeda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	運動学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	曾根涼子				

●**授業の概要** 運動を生理学（主に心肺機能系）の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて論じる。／**検索キーワード** 運動、心肺機能

●**授業の一般目標** 運動を生理学（主に心肺機能系）の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて理解することを目標とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 運動を生理学（主に心肺機能系）の面から捉え、運動の効果および発現機序などについて説明できる。**思考・判断の観点**：1. 心肺機能系に対する各種運動の効果や発現機序について説明できる。**関心・意欲の観点**：1. 心肺機能系に対する各種運動の効果や発現機序について関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 ガス交換
- 第 3 回 項目 呼吸筋
- 第 4 回 項目 運動時の換気亢進
- 第 5 回 項目 呼吸の化学調節
- 第 6 回 項目 酸素摂取動態
- 第 7 回 項目 末梢での酸素利用
- 第 8 回 項目 二酸化炭素動態
- 第 9 回 項目 自律神経と筋循環系
- 第 10 回 項目 自律神経と心腎臓
- 第 11 回 項目 運動時の血圧調節
- 第 12 回 項目 動脈血管
- 第 13 回 項目 毛細血管
- 第 14 回 項目 運動時の血管抵抗調節と一酸化窒素
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 2/3 以上出席が単位認定の最低必要条件である。

●**教科書・参考書** 教科書：新運動生理学（下巻）、宮村、真興交易医書出版部、2001 年／参考書：必要に応じて紹介する。

●**メッセージ** 基本的な生理学的知識が必要である。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2（083-933-5389）、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9 時～12 時

開設科目	運動学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官					

●授業の概要 本年度は開講せず。

開設科目	運動学特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	曾根涼子				

●**授業の概要** 運動学特論（主に心肺機能系）の発展として、自己研究課題を選び、それについて理解を深める。／**検索キーワード** 運動学、心肺機能

●**授業の一般目標** 運動学特論（主に心肺機能系）の発展として、自己研究課題を選び、それについて理解を深め、教育指導の素養を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 運動時における心肺機能系の反応および調節機序について理解を深める。**思考・判断の観点**：1. 運動の種類による運動時の心肺機能系の反応および調節機序の違いを説明できる。**関心・意欲の観点**：1. 運動時における心肺機能系の反応および調節機序について関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定1
- 第3回 項目 心肺機能系に関する文献講読I
- 第4回 項目 心肺機能系に関する実験I
- 第5回 項目 心肺機能系に関する実験結果のまとめI
- 第6回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定II
- 第7回 項目 心肺機能系に関する文献講読II
- 第8回 項目 心肺機能系に関する実験II
- 第9回 項目 心肺機能系に関する実験結果のまとめII
- 第10回 項目 心肺機能系に関する研究課題の設定III
- 第11回 項目 心肺機能系に関する文献講読III
- 第12回 項目 心肺機能系に関する実験III
- 第13回 項目 心肺機能系に関する実験結果結果のまとめIII
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回

●**成績評価方法（総合）** 2/3以上出席が単位認定のための最低必要条件である。

●**教科書・参考書** 教科書：文献を使用する。

●**メッセージ** 運動学特論IIを履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：教育学部 101-1 あるいは 101-2 (083-933-5389)、sone@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 9時～12時

開設科目	体力学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介				

- 授業の概要** 運動を行動体力からとらえ、体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、発表する。
- 授業の一般目標** 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、理解したうえで発表する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、理解する。 **思考・判断の観点**： 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、自分の課題研究との関連を思考する。 **関心・意欲の観点**： 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、自分の課題研究の関心を高める。 **技能・表現の観点**： 体力づくりや体力測定法に関する国内・外の論文を受講者が読み、まとめて発表する能力を高める。
- 授業の計画（全体）** 授業ごとに受講者が読んだ論文の内容を紹介し、議論を通して理解を深める。
- メッセージ** 自分の課題を早急に考えて、関連する論文を読破すること
- 連絡先・オフィスアワー** 電話 933-5385



開設科目	体力学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉浦崇夫				

- 授業の概要** 運動を行動体力の面から捉え、トレーニング法について、特に骨格筋の生化学的特性 から論じる。
- 授業の一般目標** 最新の論文を講読することにより骨格筋の生化学的特性を理解し、骨格筋の生化学的変化からトレーニングの特性を理解する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 骨格筋の生化学的特性やトレーニングによる変化を説明できる。  
**思考・判断の観点**： 骨格筋の生化学的特性について機能と関連づけて考えることができる。 **関心・意欲の観点**： 当該分野における最新の知見を得ることに努める。 **技能・表現の観点**： 最新の文献について、背景等も含めて発表することができる。
- 授業の計画（全体）** 紹介された文献について担当者を決め、担当者がその内容について関連する分野を含めて発表する。
- 教科書・参考書** 参考書： 授業時に紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp,

開設科目	学校保健特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定保博				

●**授業の概要** 学校保健研究（特に保健教育）に関する文献を購読し、研究課題の設定と研究方法論の学習の観点から、各自が選択した研究論文を集団検討します。

●**教科書・参考書** 参考書：新版 保健の授業づくり入門, 森 昭三ほか, 大修館書店, 2002年

開設科目	学校保健特論演習	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	友定保博				

- 授業の概要** 子どもの健康管理や健康相談活動の進め方を学習します。子ども・青年の健康や発達にかかわる教育実践・臨床事例をとりあげ、検討します。できるかぎり自己の体験を相対化した事例を記録し報告しますが、公表された実践記録・臨床事例を読み込み、子ども理解や対応の原則、発達課題を考えていきます。（内地研修の養護教諭の先生にも参加していただく予定です）

開設科目	健康処方特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	塩田正俊				

●**授業の概要** 各ライフステージにおける健康づくりのあり方について、生活習慣とくに運動との関わりから、これまでの研究成果をふまえて論じる。

●**授業の一般目標** 各ライフステージにおける健康づくりのあり方について、生活習慣とくに運動との関わりを理解し、生活習慣改善の方策を考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：各生活習慣病の原因について理解し、生活習慣改善の方策を説明することができる。**思考・判断の観点**：生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。**関心・意欲の観点**：生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、各ライフステージ毎にその方策を自ら考える姿勢が見られる。**技能・表現の観点**：生活習慣と疾病の関連について解説し、各ライフステージ毎にその方策を考え指導できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 健康の成立要因とその背景
- 第2回 項目 疾病構造の変遷
- 第3回 項目 健康生活とリスクファクター
- 第4回 項目 各生活習慣と健康
- 第5回 項目 児童生徒の生活習慣と健康（運動負荷時の反応）
- 第6回 項目 中高年者の生活習慣と健康（運動不足と血液性状）
- 第7回 項目 身体不活動、栄養過多と身体機能変化
- 第8回 項目 体位変換角度と循環動態
- 第9回 項目 ストレスと休養
- 第10回 項目 暑熱環境ストレスと絶食ストレス
- 第11回 項目 健康処方（運動と栄養の効果）
- 第12回 項目 肥満
- 第13回 項目 糖尿病
- 第14回 項目 高血圧
- 第15回 項目 喫煙と健康

開設科目	健康処方特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	丹信介				

●**授業の概要** 健康の維持増進という点からみた生活習慣、なかでも身体活動と食生活に関する日常生活における評価の仕方と具体的改善方法に関して演習、実習形式で授業を行う。後半は、健康と生活習慣に関する文献をもとに、ディスカッションを行う。／**検索キーワード** 健康 生活習慣 行動科学

●**授業の一般目標** 健康の維持増進という点からみた生活習慣、なかでも身体活動と食生活に関する日常生活における具体的な評価の仕方と具体的改善方法に関して、演習、実習をまじえた授業を通じて理解すると共に、それを実践できる能力を身につける。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 健康の維持増進のために必要な身体活動量1 内容 文献購読
- 第2回 項目 健康の維持増進のために必要な身体活動量2 内容 文献購読
- 第3回 項目 身体活動量の評価方法1
- 第4回 項目 身体活動量の評価方法2
- 第5回 項目 身体活動量促進のための方法1
- 第6回 項目 身体活動量促進のための方法2
- 第7回 項目 健康の維持増進のために必要な食生活の在り方 内容 文献購読
- 第8回 項目 食生活の評価方法1
- 第9回 項目 食生活の評価方法2
- 第10回 項目 食生活・食行動改善のための方法
- 第11回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション1
- 第12回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション2
- 第13回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション3
- 第14回 項目 生活習慣と健康に関する文献紹介・ディスカッション4
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 小テスト／授業内レポート＝20％未満 宿題／授業外レポート＝30％ 授業態度や授業への参加度＝20％未満 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）＝30％ 出席＝欠格条件

●**教科書・参考書** 教科書：授業時にプリントを配布する。／参考書：授業時に指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** 丹 信介 Email: tan@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話: 933-5388 研究室: 教育学部 436-2 オフィースアワー: 月 12:50～14:20

開設科目	保健体育科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

●**授業の概要** 体育・スポーツ・健康に関する教育課程および授業実践を取り上げ、科学的実証的な検討をとおして教育実践の改善を図る。

●**メッセージ** 附属学校の協力を得て授業研究を実施する関係で、一部集中開港や時間割 変更等、変則的な開講形態となる。

開設科目	保健体育教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	森田俊介、丹信介				

- 授業の概要** 公的施設や民間運動施設において、運動の指導方法を実習する。
- 授業の一般目標** 運動を通じた健康と生きがいがづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解し指導技術などを習得することを目標とする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 運動を通じた健康と生きがいがづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解する。 **レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案ができるための知識**を習得する。 **思考・判断の観点**： 実際に運動指導を行う時に、指導の方法や内容が対象者にふさわしいものかについて思考・判断する。  
**関心・意欲の観点**： 運動を通じた健康と生きがいがづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において実際に運動の指導をすることに関心を持つ。 **態度の観点**： 公的施設や民間運動施設において、対人関係が良好であること。 **技能・表現の観点**： 運動を通じた健康と生きがいがづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法ができる。
- 授業の計画（全体）** 実習先では、以下の内容を体験実習する。 1. 公的施設及び民間運動施設の管理・運営の概要 2. レクリエーションプログラムや運動プログラムの計画・立案 3. 公的施設におけるレクリエーションプログラムの作成と指導 4. 公的施設及び民間運動施設における健康・体力づくりのための運動プログラムの作成と指導
- 教科書・参考書** 参考書： プリント配布
- メッセージ** 実習期間は1週間以上になることがある。公的施設や民間運動施設への就職を熱望する学生が望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話 933-5385, 研究室 教 435-1, オフィスアワー 月・昼休み 履修上の注意

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

- 授業の概要** 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に判断する。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

- 授業の概要** 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法・調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	海野勇三				

- 授業の概要** 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に、また、わかりやすく述べるができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自が研究テーマを決定した後、具体的な調査の方法について指導を行う。各自の調査の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	海野勇三				

- 授業の概要** 修士論文の作成に向けて、各自の設定したテーマに応じて、調査の方法・論文の書き方等について指導を行う。
- 授業の一般目標** 各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方・発表の仕方を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：各自の研究テーマについてのこれまでの先行研究の概要・問題点を説明できる。**思考・判断の観点**：各自の研究テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考え論理的に、また、わかりやすく述べることができる。**態度の観点**：様々な問題について、主体的に考えることができる。
- 授業の計画（全体）** 各自がせっていた研究テーマにそくして、具体的な調査の方法ならびに叙述の方法について指導を行う。各自の修士論文の進行状況を、適宜報告してもらいながら、ゼミ形式、あるいは、個別の指導により、論文としてまとめることができるよう指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 修士論文の作成過程、および、修士論文の完成度により、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yunno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	池田恵子				

●**授業の概要** 体育・スポーツに関わる諸テーマを設定し、歴史哲学的手法を用いてその探究に務める。修士論文作成に向けて、各自設定したテーマに即し、資料収集、文献解読、方法論の検討、論文の書き方について指導を行う。成果は修士論文中間報告会として授業時間以外にも積極的に発表を行う。

●**授業の一般目標** 今日的研究動向を踏まえ、適切なテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究について正確に理解し、研究方法について学習する。資料収集、文献解読を通じて、新しい視野を開拓するとともに、緻密な演習力、論文構成力を養う。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：テーマの今日的意味について説明できる。先行研究について正確に理解することができる。 **思考・判断の観点**：先行研究と自らのテーマの関係について論理的に整理することができる。資料収集、文献解読の結果を、自らの研究テーマに即して、再構成し、集約することができる。 **関心・意欲の観点**：演習結果の問題点を指摘し、論文構成について再検討することに、忍耐強く取り組み、努力することができる。 **態度の観点**：主体的に調査旅行、文献収集につとめ、粘り強く、テーマと向き合うことができる。

●**連絡先・オフィスアワー** kiked@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	池田恵子				

●**授業の概要** 体育・スポーツに関わる諸テーマを設定し、歴史哲学的手法を用いてその探究に務める。修士論文作成に向けて、各自設定したテーマに即し、資料収集、文献解読、方法論の検討、論文の書き方について指導を行う。成果は修士論文中間報告会として授業時間以外にも積極的に発表を行う。

●**授業の一般目標** 今日的研究動向を踏まえ、適切なテーマを設定し、そのテーマに関する先行研究について正確に理解し、研究方法について学習する。資料収集、文献解読を通じて、新しい視野を開拓するとともに、緻密な演習力、論文構成力を養う。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：テーマの今日的意味について説明できる。先行研究について正確に理解することができる。**思考・判断の観点**：先行研究と自らのテーマの関係について論理的に整理することができる。資料収集、文献解読の結果を、自らの研究テーマに即して、再構成し、集約することができる。**関心・意欲の観点**：演習結果の問題点を指摘し、論文構成について再検討することに、忍耐強く取り組み、努力することができる。**態度の観点**：主体的に調査旅行、文献収集につとめ、粘り強く、テーマと向き合うことができる。

●**連絡先・オフィスアワー** kiked@yamaguchi-u.ac.jp

# 技術教育專修

開設科目	技術科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎擴道				

- 授業の概要** 技術教育に関する教育思想と教育実践を歴史的観点から講究する。／**検索キーワード** 技術教育、教育思想、教育実践、歴史
- 授業の一般目標** 歴史的経緯を踏まえた技術科教育の理念、課題などの考察を通じて、歴史と現状の分析に基づく的確な問題認識の把握を行う。
- 授業の計画（全体）** 1. 技術教育の歴史と問題視角 2. 明治大正期の技術教育 3. 戦前期の技術教育 4. 戦後期の技術教育 5. 総括
- メッセージ** 資料を随時配布する

開設科目	技術科教育特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎擴道				

- 授業の概要** 技術科教育の教育方法、教材などについての実践事例資料、文献の講読などを行う。／**検索**  
**キーワード** 技術科教育 教育方法、教材、実践事例、文献購読
- 授業の一般目標** 文献などの分析と討議を通して技術科教育の研究成果について理解を深め、技術科教育に関する 研究能力や専門的資質の向上を図る。
- メッセージ** 必要に応じ資料を配付する



開設科目	技術科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡村吉永				

●**授業の概要** 技術科教育の特徴や正確について考察し、これに基づいた指導内容や方法、教材・教具について考察する

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 技術科の性格と特徴
- 第 2 回 項目 技術科の学習目標
- 第 3 回 項目 各分野の学習課題
- 第 4 回 項目 技術とものづくり分野の学習項目
- 第 5 回 項目 教科書分析 (ものづくり分野)1
- 第 6 回 項目 教科書分析 (ものづくり分野)2
- 第 7 回 項目 技術と情報分野の学習項目
- 第 8 回 項目 教科書分析 (情報分野)1
- 第 9 回 項目 教科書分析 (情報分野)2
- 第 10 回 項目 学習題材の選定について
- 第 11 回 項目 技術科教育における教材・教具の意味
- 第 12 回 項目 学習者を支援する教材・教具のあり方
- 第 13 回 項目 教材・教具に関する事例研究 1
- 第 14 回 項目 教材・教具に関する事例研究 2
- 第 15 回 項目 安全指導 安全指導について

開設科目	技術科教育特論演習 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡村吉永				

●**授業の概要** 技術科の教育効果を高めるために必要な事項，特に教材・教具について，その具備すべき条件を明らかにするとともに，開発や使用にあたっての課題を検討する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 教科指導において教材・教具が果たす役割
- 第 2 回 項目 教材・教具が具備すべき条件
- 第 3 回 項目 教材・教具の使用または開発に際して留意すべき事項
- 第 4 回 項目 教材・教具の開発（資料集および検討）
- 第 5 回 項目 教材・教具の開発（提案）
- 第 6 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 7 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 8 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 9 回 項目 教材・教具の開発（中間発表，修正点等の検討）
- 第 10 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 11 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 12 回 項目 教材・教具の開発（試作，検討）
- 第 13 回 項目 開発した教材・教具の発表，実用に関する討議
- 第 14 回 項目 教材・教具開発の意味と重要性について
- 第 15 回 項目 まとめ

●**メッセージ** 技術科指導上の問題点を解決するための教材・教具の開発を想定しています。

開設科目	機械工学特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

- 授業の概要** 機械システムのモーションコントロールに関する文献を講読する。
- 授業の一般目標** ロボットを含む機械のモーションコントロールのシミュレーション技術を習得することを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 機械システムのモーションコントロールに関する文献を購読する。また、コンピュータを用いたモーションコントロール系のシミュレーションを行う。
- 成績評価方法（総合）** 成績評価はレポート（製作品を含む）、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木 1, 2

開設科目	機械工学特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

- 授業の概要** マイコン搭載ロボットの設計製作を通じてメカトロニクス技術全般を学習する。
- 授業の一般目標** 自律型ロボットの設計製作する技術力を身につける。
- 授業の計画（全体）** マイコン搭載ロボットの設計製作を行い、ロボット製作に必要となるメカトロニクス技術を習得する。
- 成績評価方法（総合）** 成績評価はレポート（製作品を含む）、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月 1, 2

開設科目	金属工学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

●**授業の概要** 金属材料は近代文明を支えており、構造用材料としても多く活用されている。構造用材料として使用する場合には、安全性の観点から、その機械的性質を十分に把握する必要がある。そこで、金属疲労、摩耗、クリープ、硬さ、じん性などの諸特性の工業的な評価方法について解説する。／**検索キーワード** 金属材料、疲労、摩耗、クリープ、硬さ、じん性、非破壊検査

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 金属疲労事例の紹介、金属疲労の一般的特性
- 第 2 回 項目 金属疲労に及ぼす腐食、金属組織、非金属介在物の影響
- 第 3 回 項目 金属疲労に及ぼす雰囲気、繰返し速さ及び熱応力の影響
- 第 4 回 項目 単結晶の金属疲労、静的変形と疲労、疲労き裂の発生と伝播
- 第 5 回 項目 金属疲労に及ぼす停滞き裂、金属の結晶粒径の影響
- 第 6 回 項目 摩耗の種類、摩耗に及ぼす試験温度、試験圧力、接触面の硬さの影響
- 第 7 回 項目 摩耗に及ぼす試験雰囲気、金属組織、組合せ、潤滑剤の影響
- 第 8 回 項目 曲げ試験、絞り加工試験
- 第 9 回 項目 硬度の測定法
- 第 10 回 項目 衝撃試験法
- 第 11 回 項目 金属材料の延性破壊、脆性破壊
- 第 12 回 項目 金属材料のクリープ破壊
- 第 13 回 項目 クリープに及ぼす組織、歪速度、結晶粒の影響
- 第 14 回 項目 圧縮試験法、非破壊検査法
- 第 15 回 項目 耐摩耗材料

●**教科書・参考書** 教科書：板書及びプリント配布により説明予定です。／参考書：大学基礎、機械材料、改訂版、門間改三、実教出版、1991 年

●**メッセージ** 社会問題となっている金属疲労などについても解説します。金属材料の性質を把握するために、工業的に行なわれている評価方法、検査方法を知ることが出来ます。

●**連絡先・オフィスアワー** 山口大学 教育学部 技術教育 金属加工 澤本章、TEL/FAX 083-933-5395  
E-mail sawamoto @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金属工学特論 II	区分	講義	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤本章				

●**授業の概要** 工業用材料として用いられている非鉄金属材料（ニッケル合金、銅合金、アルミニウム合金、マグネシウム合金、すず、亜鉛合金、セラミックスなど）、非金属材料（レンガ、モルタル、皮、ゴム、プラスチック、潤滑材）及び電子材料の特徴と使用方法について解説する。／**検索キーワード** ニッケル、アルミニウム、銅、セラミックス、プラスチック、レンガ、潤滑材、電子材料

●**授業の一般目標** 工業材料についての知識を広める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 工業材料を説明できる。 2. 工業材料を関係づける。 **思考・判断の観点**：1. 工業材料を類別できる。 2. 工業材料の機能を指摘できる。 **関心・意欲の観点**：1. 工業材料の種類を討議できる。 2. 工業材料の知識の修得に寄与できる。 **態度の観点**：1. 工業材料の効果的使用法を考える態度を養う。 2. 工業材料に関する知見を修得し、これらを使用した機器と協調できる。 **技能・表現の観点**：1. 材料を有効に活用する技術を身につける。 2. 材料を使用してものを作り表現する力を育む。

●**授業の計画（全体）** 工業材料を中心にその特徴及び活用法について概説する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ニッケル合金
- 第 2 回 項目 銅合金（黄銅、青銅）
- 第 3 回 項目 アルミニウム合金 I
- 第 4 回 項目 アルミニウム合金 II
- 第 5 回 項目 アルミニウム合金 III
- 第 6 回 項目 マグネシウム合金、チタン、すず、鉛
- 第 7 回 項目 亜鉛、軸受合金、ろう付け合金
- 第 8 回 項目 基礎材料（セメント、モルタル、コンクリート）
- 第 9 回 項目 耐火材料（レンガ）、保温材
- 第 10 回 項目 皮、ゴム、プラスチック
- 第 11 回 項目 プラスチックの性質
- 第 12 回 項目 潤滑剤、接着剤
- 第 13 回 項目 電子材料 I
- 第 14 回 項目 電子材料 II
- 第 15 回 項目 電子材料 III

●**成績評価方法（総合）** 出席状況（25％）、授業中の態度（5％）、レポート（70％）により総合評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：大学基礎、機械材料、改訂版、門間改三、実教出版、1991年；教科書の他、プリントも配布する。板書にて説明も行う。／参考書：若い技術者のための機械・金属材料、増補版、矢島悦次郎、市川理衛、古沢浩一、丸善、1986年

●**メッセージ** 工業用材料について解説します。

開設科目	電気回路特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

●**授業の概要** アナログ信号解析のためのフーリエ変換など離散信号解析手法について学習する

●**授業の一般目標** フーリエ変換、逆フーリエ変換の考え方を理解し、計算法と利用法を習得する

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : 1. 周期関数とフーリエ級数の関係を理解する 2. 非周期関数とフーリエ積分の関係を理解する 3. 畳み込み積分とフーリエ変換の関係を理解する **技能・表現の観点** : ゼミで与えられた範囲のテキストを読んで内容を理解し、人に説明することができる

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 デジタル信号とデジタル表示
- 第 2 回 項目 複素数と三角関数の基礎
- 第 3 回 項目 量子化雑音
- 第 4 回 項目 デスクリット信号
- 第 5 回 項目 基本伝達関数
- 第 6 回 項目 フーリエ級数
- 第 7 回 項目 フーリエ変換
- 第 8 回 項目 フーリエ逆変換
- 第 9 回 項目 コンボリューション
- 第 10 回 項目 アナログ信号とデスクリット信号
- 第 11 回 項目 ディスクリット関数フーリエ変換
- 第 12 回 項目 演習その 1
- 第 13 回 項目 演習その 2
- 第 14 回 項目 演習その 3
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法 (総合)** 出席点 20 点、5 回以上欠席は欠格。残り 80 点は、ゼミ形式の発表内容理解度 40 点、レポートによる評価 40 点で行う。

●**教科書・参考書** 教科書 : 適宜コピーを配布する

開設科目	回路設計特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

●**授業の概要** コンピューターで時間波形を扱うための A/D 変換、D/A 変換の技術について、実際の回路作製も含めて学習する。

●**授業の一般目標** コンピューターの機械語と入出力ハードウェアに関するプリント、および A/D 変換 D/A 変換の原理に関する解説書を読んで理解するとともに、実際に D/A 変換回路を作成して信号を取り込む。また、D/A 変換回路を利用し、ソフト的に A/D 変換器を実現し、コンピューターへの信号の入出力の方法を理解する

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : 1. 機械語を通してコンピューター動作の理解を深める 2. ラダー型 D/A 変換回路を理解する 3. 逐次比較型 A/D 変換の原理を理解する **思考・判断の観点** : 1. D/A 変換器を通して信号を取り込むプログラムが作成できる 2. 理解した A/D 変換の原理をプログラムにより実現できる **技能・表現の観点** : 1. ラダー型 D/A 変換回路を作成できる

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 機械語その 1
- 第 2 回 項目 機械語その 2
- 第 3 回 項目 入出力の原理とハード
- 第 4 回 項目 D/A 変換の原理
- 第 5 回 項目 A/D 変換の原理
- 第 6 回 項目 D/A 変換プログラムの作成その 1
- 第 7 回 項目 D/A 変換プログラムの作成その 2
- 第 8 回 項目 変換データ表示プログラムの作成
- 第 9 回 項目 D/A 変換の実験
- 第 10 回 項目 A/D 変換プログラムの作成その 1
- 第 11 回 項目 A/D 変換プログラムの作成その 2
- 第 12 回 項目 A/D 変換実験
- 第 13 回 項目 追加実験
- 第 14 回 項目 まとめ その 1
- 第 15 回 項目 まとめ その 2

●**成績評価方法 (総合)** 出席点 50 点、5 回以上欠席は欠格。残りは、回路作成 20 点、レポート 30 点で評価する

●**教科書・参考書** 教科書 : プリントを配布する



開設科目	現代制御特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永久洋治				

●授業の概要 ファジー理論になれるため、ファジー理論の基礎的なことを学習する。

開設科目	現代制御特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永久洋治				

●**授業の概要** ファジー制御の歴史，ファジー制御の仕組み（推論法），ファジー制御器の設計を学ぶ。

開設科目	情報回路網特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

●**授業の概要** 情報回路網の基礎理論を学ぶ。

●**授業の一般目標** 情報回路網の基礎理論であるグラフ・ネットワーク理論、アルゴリズムの設計法や計算複雑さの算出法を身につける。

●**授業の計画（全体）** ・グラフ・ネットワーク理論における種々のアルゴリズムの紹介 ・アルゴリズムの効率評価法の紹介 ・アルゴリズムの複雑さの計算手順 ・種々の応用問題におけるアルゴリズムの設計およびその効率の評価 など

●**成績評価方法（総合）** 授業発表やレポートなどによる評価 = 100 %

開設科目	情報回路網特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

- 授業の概要** 情報ネットワークの原理とその構築法を学ぶ
- 授業の一般目標** 情報ネットワークの技術を身につける
- 授業の計画 (全体)** ・通信ネットワークの基本原理 ・通信ネットワークにおける通信規約 ・インターネットのプロトコール ・各種サーバの構築法 など
- 成績評価方法 (総合)** 授業発表やレポートなどによる評価 = 100 % 教科書

開設科目	情報処理特論 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

- 授業の概要** データベースシステムの構築を行う。
- 授業の一般目標** データベースシステムの構築を行い、システムの基礎技術について学習する。
- 授業の計画（全体）** 初回授業時に課題を決定する。
- 教科書・参考書** 教科書：追って指示する／参考書：追って指示する
- メッセージ** 詳細は初回授業時に面接の上決定する。

開設科目	情報処理特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

●**授業の概要** 情報処理特論 I の引き続きとして、データベースシステムの構築を行う。

開設科目	技術科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	宮崎擴道 岡村吉永				

●**授業の概要** 技術科教育実践上の課題についてテーマを設定し、それに基づいて議論を深め、必要に応じて附属学校との連携をとるという方式で展開する。

●**授業の一般目標** 技術科教育実践に関わる研究テーマについて討議、講究すると共に、各自の研究テーマに即した課題研究や授業の実践とその分析を通して、技術科教育の研究能力や専門的資質の向上を図る。

開設科目	技術科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

- 授業の概要** 技術科教育を支援するための実践研究を行う
- 授業の一般目標** 技術科の教育を行うにあたっての技術を身に付ける。
- 授業の計画（全体）** 主に、コンピュータを使って、技術科教育の支援のためのプログラム作成やネットワーク構築を行う。具体的には、対象の受講生の要望を勘案して展開していく。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

- 授業の概要** 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。
- 授業の一般目標** 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。
- 授業の計画（全体）** ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う
- 成績評価方法（総合）** 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

- 授業の概要** 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。
- 授業の一般目標** 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。
- 授業の計画（全体）** ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う
- 成績評価方法（総合）** 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	葛崎偉				

- 授業の概要** 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。
- 授業の一般目標** 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。
- 授業の計画（全体）** ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う
- 成績評価方法（総合）** 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	葛崎偉				

- 授業の概要** 修士研究における諸問題を解決するための研究を行う。
- 授業の一般目標** 修士研究における諸問題の解決手法を見つける。
- 授業の計画（全体）** ・修士研究における諸問題の分析を行う ・諸問題の解決のための文献調査、ゼミなどを行う ・コンピュータを使った実験や諸問題の解決手法についてのディスカッションなどを行う ・研究成果が出次第、研究会での研究発表を行う
- 成績評価方法（総合）** 課題研究の過程と成果による総合評価 = 100 %

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	古賀和利				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	古賀和利				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	中田充				

- 授業の概要 修士論文に関する研究に関するゼミを行う。
- 授業の一般目標 修士論文に関する研究に関するゼミを行う。
- 授業の計画（全体） 面接の上決定する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	中田充				

●授業の概要 修士論文に関する研究に関するゼミを行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	森岡弘				

- 授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、技術教育教室の機械研究室に所属するM2院生の専門分野に関する研究の助言および指導を行う。
- 授業の一般目標** 修士論文作成に直結する課題について高度な知識を修得することを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 修士論文作成に直結する課題について技術教育教室の機械研究室に在籍するM2院生の専門分野に関する研究や実験の助言および指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 成績評価はレポート（製作品を含む）、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・木1, 2

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	森岡弘				

- 授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、技術教育教室の機械研究室に所属する M2 院生の専門分野に関する研究の助言および指導を行う。
- 授業の一般目標** 修士論文作成に直結する課題について高度な知識を修得することを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 修士論文作成に直結する課題について技術教育教室の機械研究室に在籍する M2 院生の専門分野に関する研究や実験の助言および指導を行う。
- 成績評価方法（総合）** 成績評価はレポート（製作品を含む）、授業態度・授業への参加度を総合的に評価して行う。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp・月 1, 2

# 家政教育專修

開設科目	家庭科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	入江和夫				

●**授業の概要** 現在の家庭生活の諸問題と対比しながら家庭科教育の歴史の変遷をたどり、何が家庭科に求められてきたかを考察し、これからの家庭科教育によって何がもたらされていくべきかを論究する／**検索キーワード** 家庭科観 家庭科教育

●**授業の一般目標** 戦後誕生した家庭科の内容で変遷した内容としなかった内容について理解するとともにアメリカ家庭科教科書との比較を通して、現在の家庭科教育に求められるべき要点を説明できる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：家庭科の内容の変遷と今回の学習指導要領の改訂の趣旨を説明できる。**思考・判断の観点**：アメリカ教科書と比較することで、現在の家庭科教科書に必要な内容を判断できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 教師、生徒、父母の家庭科観 I
- 第 2 回 項目 教師、生徒、父母の家庭科観 II
- 第 3 回 項目 小・中学校学習指導要領（家庭科）はどう変わってきたか I
- 第 4 回 項目 小・中学校学習指導要領（家庭科）はどう変わってきたか II
- 第 5 回 項目 日本の家庭科教科書分析 I
- 第 6 回 項目 日本の家庭科教科書分析 II
- 第 7 回 項目 日本の家庭科教科書分析 III
- 第 8 回 項目 米国家庭科教科書の分析 I
- 第 9 回 項目 米国家庭科教科書の分析 II
- 第 10 回 項目 米国家庭科教科書の分析 III
- 第 11 回 項目 健康問題と家庭科教材 I
- 第 12 回 項目 健康問題と家庭科教材 II
- 第 13 回 項目 TV の CM と家庭科教材 I
- 第 14 回 項目 TV の CM と家庭科教材 II
- 第 15 回 項目 まとめ

●**メッセージ** 家庭科とはどうあるべきかを考えよう

開設科目	家庭科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	入江和夫				

- 授業の概要** 家庭生活と生活環境について説明し、実験を通して課題を追求する。／**検索キーワード** 家庭科観 家庭科教育
- 授業の一般目標** 生活の何がどのような環境汚染を導き、それが我々の健康にどのような影響を与えるのか理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 環境汚染の要因と生活環境について説明できる **思考・判断の観点**： 水質階級を水性生物によって判断できる。 **態度の観点**： 家庭生活を環境保全の観点から改善しようとする。
- メッセージ** 家庭科とはどうあるべきかを考えよう

開設科目	家庭科教育特論 II	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永原朗子				

●**授業の概要** 家庭科教育の本質論、内容論について歴史的に考察し、あたらい学力観に立った指導方法について論述する。／**検索キーワード** 家庭科教育理論 家庭科カリキュラム 家庭科授業計画

●**授業の一般目標** 家庭科教育理論と実践例を通して、家庭科カリキュラムと授業計画を立てることが出来る力を育成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：家庭科教育理論を理解したか。家庭科カリキュラムと授業計画の基本的事項を理解したか。**思考・判断の観点**：あたらい学力観に立った家庭科カリキュラムと授業計画を立てたか。**その他の観点**：出席状況

●**授業の計画（全体）** 家庭科教育理論を基に、小・中・高等学校の授業実践例を分析し、問題・課題を整理する。その上で、カリキュラムや授業計画に必要な事項について学習する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 家庭科教育理論

第 2 回 項目 家庭科教育理論

第 3 回 項目 家庭科教育理論

第 4 回 項目 家庭科教育理論 のレポート提出

第 5 回 項目 小学校家庭科の 授業研究

第 6 回 項目 小学校家庭科の 授業研究

第 7 回 項目 小学校家庭科の 授業についてレ ポート提出

第 8 回 項目 中学校家庭科の 授業研究

第 9 回 項目 中学校家庭科の 授業研究

第 10 回 項目 中学校家庭科の 授業についてレ ポート提出

第 11 回 項目 高等学校家庭科 の授業研究

第 12 回 項目 高等学校家庭科 の授業研究

第 13 回 項目 高等学校家庭科 の授業について レポート提出

第 14 回 項目 家庭科カリキュ ラム開発と授業 計画

第 15 回 項目 家庭科カリキュ ラム開発と授業 計画

●**連絡先・オフィスアワー** 083-933-5413

開設科目	家庭科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	永原朗子				

●**授業の概要** 家庭科教育特論 II で学習したことを基に、家庭科カリキュラムと授業計画についての 基本的なことについて学習する。／**検索キーワード** 家庭科教育理論 家庭科カリキュラム 家庭科授業計画

●**授業の一般目標** 小・中・高等学校のカリキュラムと授業計画を作成することが出来ることを目標とする。

●**授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**：小・中・高等学校のカリキュラムと授業計画を作成出来たか。  
**技能・表現の観点**：分かりやすいカリキュラムと授業計画が作成出来たか。 **その他の観点**：出席状況

●**授業の計画（全体）** 小学校、中学校、高等学校のカリキュラムと授業計画について学習し、それを基に各自、作成したものをレポートする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 小学校家庭科カリキュラムと授業計画について

第 2 回 **項目** 小学校家庭科カリキュラムと授業計画について

第 3 回 **項目** 小学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表

第 4 回 **項目** 小学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表

第 5 回 **項目** 中学校家庭科カリキュラムと授業計画について

第 6 回 **項目** 中学校家庭科カリキュラムと授業計画について

第 7 回 **項目** 中学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表

第 8 回 **項目** 中学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表

第 9 回 **項目** 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画について

第 10 回 **項目** 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画について

第 11 回 **項目** 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表

第 12 回 **項目** 高等学校家庭科カリキュラムと授業計画のレポート発表

第 13 回 **項目** 家庭科カリキュラムと授業計画のまとめ

第 14 回 **項目** 家庭科カリキュラムと授業計画のまとめ

第 15 回 **項目** 家庭科カリキュラムと授業計画のまとめ

●**成績評価方法（総合）** レポート内容及び発表 出席状況を勘案して行う。

●**メッセージ** 家庭科教育特論 II を履修していること。

●**連絡先・オフィスアワー** 083-933-5413

開設科目	食物学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田次郎				

●**授業の概要** この授業では、先ず、児童・生徒の教育現場である学校教育における「食教育」の重要性について、「栄養」や「食品の安全性」など種々の観点から論述する。特に、安全性については、現在、問題になっている種々の環境汚染物質と食生活とのかかわりを検証し、学校の「食教育」において具体的にどのように学ばせればよいか、などについても討議する。／**検索キーワード** 個食、偏食、家族団欒、食物アレルギー、環境ホルモン、遺伝子組換え、クローン、有機スズ、ダイオキシン、

●**メッセージ** 文系、理系の発想で、受講しないこと。



開設科目	食物学特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山田次郎				

- 授業の概要** この授業では、食物学特論 I で討議した内容から、特に「食品衛生学」関連のテーマを取り上げ、文献購読を中心に、食物学および栄養学的視点に基づいて、食品の安全性の問題を討議する。さらに、簡単な実験、演習を取り入れ、学校現場のための教材化を試みる。

開設科目	食物学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	五島淑子				

●**授業の概要** 食生活について、歴史的視点および比較文化の視点から論究し、現代の食生活について討議する。／**検索キーワード** 食物、食文化、食生活

●**授業の一般目標** 食の文化について

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1 食文化とは何か、食文化研究の目的をいうことができる。 2 世界の食文化を理解する **思考・判断の観点**： 1 現在の食生活について、自分の考えを述べることができる **関心・意欲の観点**： 1 食文化、食生活史に関心を持つ **態度の観点**： 1 食への関心を深める

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** はじめに
- 第 2 回 **項目** 風土と食
- 第 3 回 **項目** 主食の文化
- 第 4 回 **項目** 魚食の文化
- 第 5 回 **項目** 肉食の文化
- 第 6 回 **項目** 乳食の文化
- 第 7 回 **項目** 味について
- 第 8 回 **項目** 料理のお国柄
- 第 9 回 **項目** 献立の様式
- 第 10 回 **項目** 食のタブー
- 第 11 回 **項目** 食の作法
- 第 12 回 **項目** 日本人の食文化
- 第 13 回 **項目** 日本の食文化
- 第 14 回 **項目** まとめ
- 第 15 回 **項目** レポート

●**連絡先・オフィスアワー** goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16 時 10 分～17 時 40 分

開設科目	食物学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	五島淑子				

- 授業の概要** 食文化・食物史に関する内外の文献の購読を行い、文献に記載された食物や料理について食物学の視点から検討する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1 江戸時代の料理書から簡単な料理を作ることができる。
- 連絡先・オフィスアワー** goto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 C 棟 4 階 422 号室 オフィスアワー：金曜日 16：10 ～ 17：40

開設科目	食生活科学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	被服学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

●**授業の概要** 繊維材料を構成している高分子の構造と、弾性率・強度等の物性、染色論について物理化学論に沿って論述する。

●**授業の一般目標** 繊維材料の構造、染色の過程について、物理化学的な視点で捉え、より専門的な学力を修得する。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 高分子の構造と性質を物理・化学の観点から説明できる。 2. 染料染着の原理を説明できる。 **思考・判断の観点**： 繊維材料のみならず、日用品としてあるプラスチック製品についても高分子化学の視点から構造、性質について考えることができる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 低分子と高分子
- 第2回 項目 繊維を構成する高分子（天然高分子と合成高分子）
- 第3回 項目 高分子の高次構造
- 第4回 項目 吸湿・吸水のメカニズム
- 第5回 項目 弾性率・強度と高分子の構造
- 第6回 項目 染料とは（天然染料と合成染料）
- 第7回 項目 浸染と捺染
- 第8回 項目 浸染における染着の原理
- 第9回 項目 染料の分類とその特徴（直接染料、酸性染料、塩基性染料）
- 第10回 項目 染料の分類とその特徴（媒染染料、分散染料、反応染料）
- 第11回 項目 染料の色と化学構造
- 第12回 項目 染色過程（拡散、吸着）
- 第13回 項目 染料と繊維の結合力
- 第14回 項目 染着平衡と染色速度
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 毎回のレポート提出および授業への取り組み方、討論の参加度で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 適宜プリントを配布する。／ 参考書： 高強度・高弾性率繊維, 高分子学会編, 共立出版, 1988年； 高分子化学序論, 岡村誠三・中島章夫・小野木重治・河合弘迪・西島安則・東村敏延・伊勢典夫共著, 化学同人, 1985年； 染色の化学（改訂版）, 黒木宣彦著, 槇書店, 1997年； 染色加工の事典, 日本学術振興会繊維・高分子機能加工第120委員会編, 朝倉書店, 1999年； 染色の物理化学, 高島直一・生源寺治雄・根本嘉郎共著, 丸善, 1957年

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 300号室

開設科目	被服学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	星野裕之				

●**授業の概要** 繊維材料、染色についての文献を購読し、利用の拡大、リサイクル、環境汚染等の問題点について討議する。

●**授業の一般目標** 繊維製品の最新技術と利用の拡大を知り、環境問題に絡めて、今後繊維製品がどのように発展すべきかについて自ら考える力を身に付ける。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 繊維製品のグローバルな用途について説明できる。 **思考・判断の観点**： 繊維製品の環境への影響を考えることができる。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 化合繊維産業の現状と今後の展望
- 第2回 項目 機能性繊維の新展開（消臭・抗菌繊維）
- 第3回 項目 機能性繊維の新展開（バイオミメティックス）
- 第4回 項目 バイオ技術の繊維への応用
- 第5回 項目 複合材料としての繊維の応用
- 第6回 項目 温熱的快適性を目的とした繊維の開発
- 第7回 項目 生分解性繊維の開発
- 第8回 項目 繊維の構造と物性の研究動向
- 第9回 項目 繊維製品のリサイクル
- 第10回 項目 染色加工の現状と今後の展望
- 第11回 項目 染料と水質汚染
- 第12回 項目 染色加工の革新的技術
- 第13回 項目 無水染色の新技术
- 第14回 項目 染色加工の動向
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 毎回のレポート提出、課題への取り組み方、討論の参加度で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：国内外の文献をプリントとして配布する。 / 参考書：ニューフロンティア繊維の世界、本宮達也・梶原莞爾著、日刊工業新聞社、2000年；おもしろいバイオ新素材のはなし、松永是・本宮達也著、日刊工業新聞社、1996年；環境化学（改訂版）、西村雅吉著、裳華房、1998年

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 300号室

開設科目	衣生活科学特論	区分	講義	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	星野裕之				

●**授業の概要** 衣生活分野に関わる今日の問題について、より広範な情報収集及びその分析等を通して、より高度な専門的学力や技術を論述する。

●**授業の一般目標** 繊維を構成している高分子について学び、衣料用繊維にとどまらず、日常生活にある日用品について、さまざまな領域で高分子材料が使われていることを理解する。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：高分子の構造や反応性を説明できる。 **思考・判断の観点**：衣料用以外に活用されている高分子材料を指摘できる。 **関心・意欲の観点**：関連する情報を自分で収集できる。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 繊維と高分子
- 第2回 項目 高分子材料・高分子科学の進歩
- 第3回 項目 若い肌の秘密
- 第4回 項目 ヘアケア製品
- 第5回 項目 快適新合繊（ニューシルキー）
- 第6回 項目 形態安定加工（イージーケア製品）
- 第7回 項目 透けない繊維
- 第8回 項目 水を磨く（浄水器）
- 第9回 項目 健康ベネフィット（食物繊維飲料）
- 第10回 項目 スポーツシューズ（快適フィッティング）
- 第11回 項目 感性に訴える快適性（カーシート）
- 第12回 項目 蒸れない繊維
- 第13回 項目 熱湯でバラバラになる繊維
- 第14回 項目 吸水速乾素材
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 毎回課題を与え、それに対するレポートと発表で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：適宜プリントを配布する。 / 参考書：ハイテク繊維の世界, 本宮達也著, 日刊工業新聞社, 1999年; ニューフロンティア繊維の世界, 本宮達也・梶原莞爾著, 日刊工業新聞社, 2000年; よくわかる新繊維のはなし, 林田隆夫著, 日本実業, 1998年; 繊維の百科事典, 本宮達也ほか7名編, 丸善, 2002年

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：教育学部 300号室

開設科目	住居学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

●**授業の概要** 住居及び地域空間の問題とそれに対する計画理論を中心に講義する。これらを歴史的に追いながら、現代の生活空間における居住問題のとらえ方とその計画的な解決について考える。さらに高齢者等の居住問題を考える。

●**授業の一般目標** 住居・地域空間の計画理論を説明できることとあわせて、教育現場に関わる空間・環境の問題を指摘でき、解決方向を提案できることを目標とする。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 住居・地域空間の計画理論を説明できる。 **思考・判断の観点**： 1. 教育に関わる環境の問題を指摘できる。 2. 問題解決の方法や方向を提案できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 児童・生徒が暮らす住居・地域空間に一般的な計画理論をひきつけて考えられる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 空間の構成と空間計画
- 第2回 項目 住環境問題と居住地づくり
- 第3回 項目 居住地づくりの思想
- 第4回 項目 戦後の住環境問題
- 第5回 項目 戦後の居住地計画論
- 第6回 項目 住居の調査研究と計画
- 第7回 項目 住居計画の発展
- 第8回 項目 住まいと住環境の今日的課題
- 第9回 項目 高齢者等の住居問題
- 第10回 項目 高齢者・障害者の住居対策
- 第11回 項目 高齢者・障害者の地域環境問題
- 第12回 項目 住居・地域環境点検の演習
- 第13回 項目 地域環境対策の課題
- 第14回 項目 今後の地域環境づくり—主体の問題
- 第15回 項目 総合討議

●**成績評価方法（総合）** 演習調査とそれに基づいた考察のレポート、及び出席状況で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。



開設科目	住居学特論演習	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山本善積				

- 授業の概要** 住居学関連の内外の文献購読や住居及び地域空間に関する調査演習を通して、生活と空間の課題について検討する。
- 授業の一般目標** 各自がテーマを設定して、それに関する調査を行い、発表・討議することを通して、テーマについて理解を深めるとともに、調査の進め方、結果の考察方法、討議による理解の深め方を修得する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 設定したテーマに関する先行研究や関連研究などの状況と問題を説明できる。**思考・判断の観点**： 1. テーマについて、調査結果に基づいて、自らの考えを論理的に述べることができる。**関心・意欲の観点**： 1. 他の人のテーマに冠する討議にも参加し、意見を述べるができる。
- 授業の計画（全体）** 各自のテーマに基づいて、ゼミ形式で行う。
- 成績評価方法（総合）** 調査と結果の整理、発表と討議への参加状況、及びテーマに関する考察のレポートにより評価する。

開設科目	住生活科学特論	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山本善積				

- 授業の概要** 住生活分野に関わる今日の問題について、より広範な情報収集及びその分析等を通して、高度な専門的学力や技術の習得・蓄積を行う。

開設科目	保育学特論	区分	講義と演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

●**授業の概要** 幼児の心身の発達をふまえて、幼児理解の方法、保育行為論、保育記録論など保育学の基礎を学ぶ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 テキスト輪読1
- 第2回 項目 テキスト輪読2
- 第3回 項目 幼稚園参加観察1
- 第4回 項目 幼稚園参加観察1
- 第5回 項目 幼児の行動理解1
- 第6回 項目 幼児の行動理解2
- 第7回 項目 幼稚園参加観察2
- 第8回 項目 幼稚園参加観察2
- 第9回 項目 保育行為論1
- 第10回 項目 保育行為論2
- 第11回 項目 幼稚園参加観察3
- 第12回 項目 幼稚園参加観察3
- 第13回 項目 保育実践研究の方法1
- 第14回 項目 保育実践研究の方法2
- 第15回 項目 まとめ

●**教科書・参考書** 教科書：未定，，

開設科目	保育学特論演習 I	区分	講義と演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

●**授業の概要** 保育現場に行き、保育実践(参加)を行い、記録をとる。観察記録を材料に、幼児の行動に含まれた感情や意思をつかみ、その行動の意味を探る。また、そのときの自分の保育行為が幼児にとってどのような意味を持つかについて考える。

●**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 観察について
- 第 2 回 項目 テキスト購読 1
- 第 3 回 項目 テキスト購読 2
- 第 4 回 項目 幼稚園参加観察 1
- 第 5 回 項目 幼稚園参加観察 1
- 第 6 回 項目 観察記録による 演習 1
- 第 7 回 項目 テキスト購読 3
- 第 8 回 項目 幼稚園参加観察 2
- 第 9 回 項目 幼稚園参加観察 2
- 第 10 回 項目 観察記録による 演習 2
- 第 11 回 項目 テキスト購読 4
- 第 12 回 項目 幼稚園参加観察 3
- 第 13 回 項目 幼稚園参加観察 3
- 第 14 回 項目 観察記録による 演習 3
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	保育学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

●**授業の概要** 保育学・発達心理学・認識論などの文献を購読し、保育実践記録と読み合わせることで、幼児理解の方法について考える。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 テキスト選択検討
- 第 2 回 項目 テキスト購読・演習 1
- 第 3 回 項目 テキスト購読・演習 2
- 第 4 回 項目 テキスト購読・演習 3
- 第 5 回 項目 テキスト購読・演習 4
- 第 6 回 項目 テキスト購読・演習 5
- 第 7 回 項目 テキスト購読・演習 6
- 第 8 回 項目 テキスト購読・演習 7
- 第 9 回 項目 テキスト購読・演習 8
- 第 10 回 項目 テキスト購読・演習 9
- 第 11 回 項目 テキスト購読・演習 10
- 第 12 回 項目 テキスト購読・演習 11
- 第 13 回 項目 テキスト購読・演習 12
- 第 14 回 項目 テキスト購読・演習 13
- 第 15 回 項目 まとめ

開設科目	家庭科教育実践研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	永原朗子				

- 授業の概要** 附属学校などの授業参観並びに先行授業実践例の分析を通して問題点を把握し、授業改善を図る。／**検索キーワード** 附属学校 授業改善
- 授業の一般目標** 附属学校などの授業参観並びに先行授業実践例の分析を通して問題点を把握し、授業改善を図ることが出来る。
- 授業の到達目標**／ **思考・判断の観点**： 授業改善に向けて、適切に改善点を指摘することが出来たか。  
**その他の観点**： 出席状況
- 授業の計画（全体）** 前半は、附属学校の授業参観並びに先行授業実践例を分析し、問題点を整理する。後半は、授業改善に向けて、問題・課題解決についてレポートする。
- メッセージ** 家庭科教育の教員2人（入江先生）で担当する。
- 連絡先・オフィスアワー** 083-933-5413

開設科目	家庭科教育支援実践研究	区分	実験・実習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

- 授業の概要** 学校現場のみならず、家政教育の専門性と関わりのある他の多様な社会的現場での実践的研究をとおして、より現実的問題の把握とその対処等について討議する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

●**授業の概要** 受講生の研究テーマに沿った文献に関する演習を行う。演習修士論文作成のための基礎的知識を得る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自分のテーマに沿った文献を読みこなす **思考・判断の観点**：文献等で得られた理解と実践上の事実をとつき合わせて考えることができる **技能・表現の観点**：テーマに沿った思考過程を他者にわかるように表現できる。幼児教育等の現場で実践できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	友定啓子				

●**授業の概要** 受講生の研究テーマに沿った文献に関する演習を行う。演習修士論文作成のための基礎的知識を得る。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討1
第2回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討2
第3回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討3
第4回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討4
第5回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討5
第6回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討6
第7回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討7
第8回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討8
第9回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討9
第10回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討10
第11回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討11
第12回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討12
第13回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討13
第14回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討14
第15回	項目	テキスト購読および	研究資料の検討15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- |      |    |           |           |
|------|----|-----------|-----------|
| 第1回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討1  |
| 第2回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討2  |
| 第3回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討3  |
| 第4回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討4  |
| 第5回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討5  |
| 第6回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討6  |
| 第7回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討7  |
| 第8回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討8  |
| 第9回  | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討9  |
| 第10回 | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討10 |
| 第11回 | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討11 |
| 第12回 | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討12 |
| 第13回 | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討13 |
| 第14回 | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討14 |
| 第15回 | 項目 | テキスト購読および | 研究資料の検討15 |



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	永原朗子				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	友定啓子				

●授業の概要 修士論文執筆の指導。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 論文執筆指導 1
- 第 2 回 項目 論文執筆指導 2
- 第 3 回 項目 論文執筆指導 3
- 第 4 回 項目 論文執筆指導 4
- 第 5 回 項目 論文執筆指導 5
- 第 6 回 項目 論文執筆指導 6
- 第 7 回 項目 論文執筆指導 7
- 第 8 回 項目 論文執筆指導 8
- 第 9 回 項目 論文執筆指導 9
- 第 10 回 項目 論文執筆指導 10
- 第 11 回 項目 論文執筆指導 11
- 第 12 回 項目 論文執筆指導 12
- 第 13 回 項目 論文執筆指導 13
- 第 14 回 項目 論文執筆指導 14
- 第 15 回 項目 論文執筆指導 15

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	永原朗子				



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

# 英語教育専修

開設科目	英語科教育特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

- 授業の概要** 英語教育諸領域についての知見を深めるため文献講読を行う。文献（教科書の欄を参照）は英語教育の概論書であり、教授法、教材論、学習者論、授業運営、4 技能の指導、評価論、教師論など幅広い分野を扱っている。／**検索キーワード** 英語教育、英語教授・学習
- 授業の一般目標** 文献の購読を通して、英語教育諸領域における知識と思考力を高める。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 英語教育諸領域における知識を高めることができる。 **思考・判断の観点**：1. 英語教育諸領域における思考力を高めることができる。 **関心・意欲の観点**：1. 英語教育諸領域におけるテーマへの関心を高めることができる。 **態度の観点**：1. 他人との議論を通して、自身の理解の深化を図ることができる。
- 授業の計画（全体）** 受講者のうち、各回の発表担当者は文献の割り当てられた部分の内容をまとめ、20 分程度で発表する。その後、内容について受講者全員で討議し、理解を深める。
- 成績評価方法（総合）** 授業内での発表、議論への参加度、レポート課題によって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy, H.D.Brown, Pearson Education, 2001 年／参考書：授業内で紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	英語科教育特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

●**授業の概要** 英語教育諸領域について知見を深めるための文献講読を行う。／**検索キーワード** 英語教育、英語教授・学習

●**授業の一般目標** 文献の購読を通して、英語教育諸領域における知識と思考力を高める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 英語教育諸領域における知識を高めることができる。 **思考・判断の観点**：1. 英語教育諸領域における思考力を高めることができる。 **関心・意欲の観点**：1. 英語教育諸領域におけるテーマへの関心を高めることができる。 **態度の観点**：1. 他人との議論を通して、自身の理解の深化を図ることができる。

●**授業の計画（全体）** 受講者のうち、各回の発表担当者は文献の割り当てられた部分の内容をまとめ、20分程度で発表する。その後、内容について受講者全員で討議し、理解を深める。

●**成績評価方法（総合）** 授業内での発表、議論への参加度、レポート課題によって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：未定。履修者の興味・関心に合わせて適当な文献を設定する。テーマとしては、Research Method, Reflective Teaching, Curriculum Development など が考えられる。

●**連絡先・オフィスアワー** nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	英語科教育特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

- 授業の概要** 外国語としての英語教育に関する最新の論考をもとに、日本における英語教育の普遍性と独自性について考察する。

開設科目	英語科教育特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

- 授業の概要** 英語教育および（応用）言語学、（認知）心理学、第 2 言語習得研究等の研究成果を踏まえ、英語教材を文法、語彙、言語機能、題材文化等の観点から学習する。



開設科目	英語学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

- 授業の概要** 英語を通時的観点に立って観察する。どのような変化を経て今日の英語が成立したかの理解を深める。
- 授業の一般目標** 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析するための考え方を学ぶ。言語事実を踏まえ、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

開設科目	英語学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

●**授業の概要** 英語を通時的観点に立って観察する。どのような変化を経て今日の英語が成立したかの理解を深める。

●**授業の一般目標** 英語学上の諸問題について、正しく観察し、分析できる。言語事実を踏まえた演習を通して、諸規則の綿密な観察ができること・英語を外国語として学ぶ学習者の疑問に答えられる知識と能力を培うことを目的とする。

開設科目	英語学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	某				

●**授業の概要** 英語を主として共時的視点から考察する。音韻・語形・統語といった文内文法的特徴、及び会話の含意・談話・社会における言語使用などの文外文法的特徴を明らかにする。

●**備考** 集中授業

開設科目	英語学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

●**授業の概要** この授業でとり上げるのは、英語のモダリティ表現（法助動詞、仮定法など）の意味および用法に関わる諸問題である。モダリティ表現は話者の主観的見方や感情などを伝達するために用いられるという点で、ともすると行間には現れない話者の「こころ」を知るうえでカギとなる表現である。随所で、日本語のモダリティ表現を参照することによって、言語の性質や英語の文法の理解を深めるとともに、日本語と英語の文化的・社会的相違点などを浮き彫りにしてみたい。

●**授業の一般目標** この授業では、英語学の専門書を読解することによって、英語学の諸概念を学ぶのと同時に、英語の読解力の涵養もめざしている。まず、英語においてモダリティ表現がどのように使われているかを理解し、それを通じて自らの英文法の知識を深めてゆくことが求められる。さらに、日本語との比較により、英文法学習における新たな視点を得られるよう配慮したい。また、原文の専門書を読みこなす英語の「感覚」を身につけることも目標に含まれており、さらに、学生諸君の授業をプレゼンによって進め、プレゼンテーション能力の涵養も狙っている。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語においてモダリティ表現がどのように使われているかを理解し、それを通じて自らの英文法の知識を深めてゆくことが求められる。**思考・判断の観点**：英語のモダリティについて学んだことを読解や作文など現実の英語使用の場面に生かすための応用力が求められる。また、言語学用語については、まずは英語学辞典などを用いて自ら調べ、授業のプレゼンに備えること。**関心・意欲の観点**：意欲を持って授業に参加し、授業の主題に関心をもっていただきたい。**態度の観点**：業に集中し、課された課題に十分な努力を払うこと。**技能・表現の観点**：授業のプレゼンやレポートをとおして表現力を高めること。

●**授業の計画（全体）** 授業は基本的にテキストにそって行すが、必要であれば、他の資料などを用いて内容を補足する。まず、授業のきっかけとして、言語学で考えられているモダリティの概念をテキストおよびその他の資料を用いて概説する。英語において様々なモダリティがどのように表現されるかを学ぶ。最後に、英語と日本語のモダリティ表現を比較し、さらにモダリティ表現が現実の社会において果たす役割について考える。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 演習 (1)
- 第 3 回 項目 演習 (2)
- 第 4 回 項目 演習 (3)
- 第 5 回 項目 演習 (4)
- 第 6 回 項目 演習 (5)
- 第 7 回 項目 演習 (6)
- 第 8 回 項目 演習 (7)
- 第 9 回 項目 演習 (8)
- 第 10 回 項目 演習 (9)
- 第 11 回 項目 演習 (10)
- 第 12 回 項目 演習 (11)
- 第 13 回 項目 演習 (12)
- 第 14 回 項目 演習 (13)
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** この授業では、おもに期末レポート、授業時間内に行うプレゼンおよび出席状況によって評価を行う。

●教科書・参考書 教科書：プリントを活用する。／参考書：プリントを活用する。

開設科目	英米文学特論 I	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡紘一郎				

●**授業の概要** 英国ルネッサンス、特に演劇についての特殊講義、演習 King Lear の背後にある宇宙観、世界観を概観した後、読解に進む。適宜最近の研究成果、重要概念等について解説する。／**検索キーワード** 英国ルネッサンス、シェイクスピア、演劇

●**授業の一般目標** 英国ルネッサンス期の英語が読解できる。その時代の宇宙観、世界観が理解できる。Shakespeare の演劇の概要と本質が理解できる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代英語とルネッサンス期の英語の相違が理解でき、読める。劇の構造、登場人物の行為、性格等が理解できる。劇の背景にある思想が理解できる。**思考・判断の観点**：難解な科白の意味と意義等が正しく把握できる。文の意味が正しく捉えられる。**技能・表現の観点**：理解した内容が出席者にペーパーや口頭で正しく伝えられる。

●**授業の計画（全体）** 受講者は分担してテキスト、注釈、大意等を十分に調べ、プリントして配る。それをもとに劇の内容、構造、とうじょうじんぶつ、思想等を分析していく。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Introduction
- 第 2 回 項目 Act 1, Scene 1 (A1, S1)
- 第 3 回 項目 A1, S1
- 第 4 回 項目 A1, S2
- 第 5 回 項目 A1, S3
- 第 6 回 項目 A1, S4
- 第 7 回 項目 ibid
- 第 8 回 項目 ibid
- 第 9 回 項目 ibid
- 第 10 回 項目 A1, S5
- 第 11 回 項目 A2, S1
- 第 12 回 項目 A2, S2
- 第 13 回 項目 A2, S2-S3
- 第 14 回 項目 A2, S4
- 第 15 回 項目 ibid

●**教科書・参考書** 教科書：King Lear, W. Shakespeare, edited by S. Ichikawa et al, Kenkyusha

●**メッセージ** 十分な予習がなければ、理解も鑑賞も困難である。

●**連絡先・オフィスアワー** koka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：教育学部 3 階、オフィスアワー：火曜 16：00 - - 16：30

開設科目	英米文学特論演習 I	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡紘一郎				
<p>●授業の概要 特論 I に引き続き King Lear の読解その他を行う。／検索キーワード 特論 I に同じ</p> <p>●授業の一般目標 特論 I に同じ</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：特論 I に同じ 思考・判断の観点：特論 I に同じ 技能・表現の観点：特論 I に同じ</p> <p>●授業の計画（全体） 特論 I に引き続き読解等を進めていく。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 A2, S4  第 2 回 項目 A3, S1-2  第 3 回 項目 A3, S3-4  第 4 回 項目 A3, S5-6  第 5 回 項目 A3, S7  第 6 回 項目 A3, S7-A4, S1  第 7 回 項目 A4, S1-2  第 8 回 項目 A4, S3-5  第 9 回 項目 A4, S6  第 10 回 項目 ibid  第 11 回 項目 A4, S7  第 12 回 項目 A5, S1-S3  第 13 回 項目 A5, S3  第 14 回 項目 ibid  第 15 回 項目 まとめ</p> <p>●成績評価方法（総合） 特論 I に同じ</p> <p>●教科書・参考書 教科書：特論 I に同じ</p> <p>●メッセージ 特論 I に同じ</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 特論 I に同じ</p>					

開設科目	英米文学特論 II	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村幸士郎				

- 授業の概要** 英文学の華と言われるロマン派の詩人達や英詩の歴史的流れを概観しながら、特にロマン派の代表的詩人の一人、P. B. Shelley の珠玉の詩を詳細に鑑賞し、その内容・詩情・言語表現がどのように融合され統一されて、どのような優れた芸術性を生み出しているかを探求する。／**検索キーワード** 英詩の鑑賞。ロマン派の詩人達。P. B. Shelley。詩形。言葉のイメージと表現法。英詩の音読。
- 授業の一般目標** 1. 英詩に対する理解を深め、楽しめるようになる。 2. 英詩の読み方や鑑賞の方法の基本を習得する。 3. 英語の授業にどのように生かせるかを考える。 4. 広く文学論を自ら修得できるよう具体的目標を立て努力する。
- 授業の計画（全体）** P. B. Shelley の詩をテキストに沿って演習形式で読み進める。最初は詩の読み方を詳しく解説する。P. B. Shelley の伝記的背景、詩の特色と思想、ここの詩の分析と鑑賞について、それぞれレポートを作成し、発表してもらう。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の演習、3回のレポートの成績で評価。出席は2／3以上。
- 教科書・参考書** 教科書： Shelley's Lyrics, P.B.Shelley, 研究社／ 参考書： 教室で指示
- メッセージ** 英詩を楽しもう。英詩読解と鑑賞の基本を習得しよう。表現の微妙さや味わいを自分のものにしよう。
- 連絡先・オフィスアワー** 9 3 3 - 5 4 2 4 木曜日 1 7 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0



開設科目	英米文学特論演習 II	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村幸士郎				

- 授業の概要** 前期に続いて、特に P. B. Shelley や他のロマン派の詩人達の珠玉の詩を詳細に鑑賞し、その内容・詩情・言語表現がどのように融合され統一されて、どのような優れた芸術性を生み出しているかを探求する。／**検索キーワード** 英詩鑑賞、詩形、ロマン派の詩人達、P.B. Shelley、詩の言葉と表現、日本の詩や俳句との比較
- 授業の一般目標** 1. 英詩に対する理解を一層深め、十分に鑑賞できる能力を修得する。 2. 英詩の読み方や鑑賞方法のレベルを高める。 3. 英語の授業にどのように生かせるかを考える。 4. 広く文学論を自ら修得できるよう具体的目標を立て努力する。
- 授業の計画（全体）** P. B. Shelley の詩をテキストに沿って演習形式で読み進める。必要に応じて他の詩人の詩を取り入れ、比較対照的に学習する。P. B. Shelley の詩の特色と思想、この詩人の詩の分析と鑑賞について、一層レベルの高いレポートを作成し、発表してもらおう。お互いに発表内容に関して論評し合い、より一層深い理解が得られるように毎回努力する。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の演習、3回のレポートの成績で評価。出席は2／3以上。
- 教科書・参考書** 教科書： Shelley's Lyrics, P.B.Shelley, 研究社, 1996年／参考書： 教室で指示
- メッセージ** 英詩を楽しもう。英詩の音読と英語の音読教育との関係について考えよう。言葉の持つ魅力について様々な角度から考えよう。
- 連絡先・オフィスアワー** 9 3 3 - 5 4 2 4 木曜日 1 7 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0

開設科目	英米文学特論 III	区分	講義	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	増田勉				

- 授業の概要** 大学院に相応しい高度の内容を学ぶ。
- 授業の一般目標** 英文学について知識を広め、深める。
- 授業の計画（全体）** 最初の授業で述べる。
- 成績評価方法（総合）** 授業での発表、レポート、試験等の評価を総合して判断。
- 教科書・参考書** 教科書：未定
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部 2 階研究室 TEL 933-5425 火曜日 16:00-17:30

開設科目	英米文学特論演習 III	区分	演習	学年	修士 1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	増田勉				

- 授業の概要** 大学院に相応しい高度の英文を読む。
- 授業の一般目標** 高度の英文の読解力を養う。
- 授業の計画（全体）** 最初の授業で述べる。
- 成績評価方法（総合）** 授業での発表、レポート、試験等の評価を総合して判断。
- 教科書・参考書** 教科書：未定
- 連絡先・オフィスアワー** 教育学部 2 階研究室 Tel 933-5425 火曜日 16:00-17:30

開設科目	比較文化学特論	区分	講義	学年	修士1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	北西功一				

●**授業の概要** 現在、地球において最も重要な問題の一つに民族問題がある。この講義では「民族」とは何かという理論的な話から、世界各地で起きている民族紛争を取り上げる。その中で「民族」のあり方は社会、文化、歴史などさまざまな要因によって多様であることを理解し、それらを比較する。また、アフリカ熱帯雨林地帯における少数民族の学校教育の問題も取り上げる。／**検索キーワード** 民族

●**授業の一般目標** 世界各地の「民族」は多様なものであり、日本人が普段考える民族とはその特殊な一例だということを理解し、異文化理解に役立てる。また、世界各地の紛争に関心を持ち、それについて自分で考える力を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：「民族」という概念を理解し、その多様性についての知識を得る。  
**思考・判断の観点**：民族問題について主体的に論ずることができる。**関心・意欲の観点**：民族問題に関心を持つ。

●**授業の計画（全体）** まず、「民族」という概念の理論的な知識を理解する。その後、世界各地の民族紛争について概観する。最後にアフリカ熱帯雨林のバカ・ピグミーを例に、多民族国家における少数民族の教育問題を説明する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 「民族」とは？ 民族概念の歴史1
- 第2回 項目 「民族」とは？ 民族概念の歴史2
- 第3回 項目 東アジア各国における民族
- 第4回 項目 インドネシアにおける民族
- 第5回 項目 民族としての日本人
- 第6回 項目 ルワンダにおける民族紛争1
- 第7回 項目 ルワンダにおける民族紛争2
- 第8回 項目 ルワンダにおける民族紛争3
- 第9回 項目 旧ユーゴスラビアにおける民族紛争1
- 第10回 項目 旧ユーゴスラビアにおける民族紛争2
- 第11回 項目 オーストラリアにおける多文化主義1
- 第12回 項目 オーストラリアにおける多文化主義2
- 第13回 項目 バカ・ピグミーにおける学校教育の導入1
- 第14回 項目 バカ・ピグミーにおける学校教育の導入2
- 第15回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 期末レポートと授業時における参加度に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 参考書：抵抗する都市 現代人類学の射程, 松田素二, 岩波書店, 1999年；現代アフリカの紛争 - 歴史と主体 -, 武内進一, アジア経済研究所, 2000年；多文化国家の先住民, 小山修三・窪田幸子, 世界思想社, 2002年

●**連絡先・オフィスアワー** kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 教育学部2階266号室 オフィスアワー 随時

開設科目	比較文化学特論演習	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

●**授業の概要** テリー・イーグルトンの『文化の概念』を読み、討議する。テーマを決めて、調査・分析を行い論述する。

●**授業の一般目標** 文化について、人文・社会学系の学問で、現在どのようなことが問題とされているかを知る。文化に対する普遍主義的な立場とアイデンティティー・ポリティクスなどの個別主義的な立場の間の争点について洞察を深め、自身の文化研究に対する立脚点を模索する。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：イーグルトンの著書で論じられている「文化」概念の歴史的展開と、現在の様々な文化に対する見解を理解する。 **思考・判断の観点**：イーグルトンの著書の内容を、今日の日本における「文化」を巡る言説と結びつけて論述することができる。 **関心・意欲の観点**：文化についての様々な言説を文献、インターネットで積極的に調査することができる。 **態度の観点**：英語のテキストを、常に授業前にきちんと下調べし、丹念に読んで考察して行くことができる。与えられた課題に積極的に取り組むことができる。 **技能・表現の観点**：難解な英文テキストをきちんと解釈して、読みこなすことができる。修士課程のレベルにふさわしい分析的・客観的な論述を行うことができる。

●**授業の計画（全体）** テリー・イーグルトンの『文化の概念』を読み進めていく。毎回、訳を提出してもらい、その内容について討議する。その都度、指示を与え調査する課題を出す。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第2回 項目 テキストの読解 と討議
- 第3回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第4回 項目 テキストの読解 と討議
- 第5回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第6回 項目 テキストの読解 と討議
- 第7回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第8回 項目 テキストの読解 と討議
- 第9回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第10回 項目 テキストの読解 と討議
- 第11回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第12回 項目 テキストの読解 と討議
- 第13回 項目 テキストの読解 と討議 授業外指示 調査課題
- 第14回 項目 テキストの読解 と討議
- 第15回 項目 レポート提出

●**教科書・参考書** 教科書：The Idea of Culture, Terry Eagleton, Blackwell Publishers, 2000年；教科書は当初、初めの部分をコピーして配布する。なお、日本語の翻訳は出ていない。 / 参考書：レイモンド・ウィリアムズ『キーワード辞典』（晶文社）

●**メッセージ** テキストは英文なので、指定された箇所を事前にしっかり読んでおくこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 小粥研究室（国際理解教育資料室向かい）木曜日 16:00 - 17:00

開設科目	英語科教育実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

- 授業の概要** 外国語としての英語教育における授業内容、方法、学習者、教具、評価などの観点から 英語科授業研究を行う

開設科目	英語科教育支援実践研究	区分	講義と演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	岡紘一郎他				

- 授業の概要** 学校あるいは地域社会、団体等において外国語および当該外国語圏の文化について指導教官の指導のもとで教育体験をする。あるいは実地に研修を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

●**授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋俊章				

●**授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

●**授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋俊章				

●**授業の概要** 修士論文作成に直結する課題について、それぞれの専門分野の高度な研究を行う。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

- 授業の概要** 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／**検索キーワード** 英語教育、英語教授・学習、英語教育研究
- 授業の一般目標** 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 **思考・判断の観点**：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 **関心・意欲の観点**：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 **態度の観点**：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 **技能・表現の観点**：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。
- 授業の計画（全体）** 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20から30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。
- 成績評価方法（総合）** 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	猫田和明				

- 授業の概要** 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／**検索キーワード** 英語教育、英語教授・学習、英語教育研究
- 授業の一般目標** 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 **思考・判断の観点**：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 **関心・意欲の観点**：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 **態度の観点**：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 **技能・表現の観点**：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。
- 授業の計画（全体）** 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20から30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。
- 成績評価方法（総合）** 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

- 授業の概要** 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を書くために必要な指導を行う。（受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。）／**検索キーワード** 英語教育、外国語教授・学習、英語教育研究
- 授業の一般目標** 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を書くための活動を行う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。 **思考・判断の観点**：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。 **関心・意欲の観点**：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。 2. 自分の研究として責任をもち、意欲的に研究に取り組むことができる。 **態度の観点**：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。 **技能・表現の観点**：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。
- 授業の計画（全体）** 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20から30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。
- 成績評価方法（総合）** 論文作成への布石となる授業内での発表内容と論文作成に向けて取り組む姿勢を評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	猫田和明				

- 授業の概要** 本授業は、各学生の興味・関心に応じて学位論文を仕上げるために必要な指導を行う。(受け入れ可能なテーマについては事前に相談してください。)
- 授業の一般目標** 論文の書き方についての一般的な事項を理解した上で、学位論文を仕上げるための活動を行う。
- 授業の到達目標**
  - ／ **知識・理解の観点**：1. 論文の書き方についての一般的な事項を理解している。
  - 思考・判断の観点**：1. 自分の研究内容・方法について主体的に判断し、意思決定ができる。
  - 関心・意欲の観点**：1. 問題意識をもって研究に取り組むことができる。2. 自分の研究として最後まで責任をもち、意欲的に論文を仕上げるができる。
  - 態度の観点**：1. 他人の意見に対して開かれた態度で議論を行うことができる。
  - 技能・表現の観点**：1. 発表や論文の質を高めるために、必要な方法を選択・適用できる。
- 授業の計画(全体)** 授業では、毎回、担当者を決めて自分の研究についての発表を20から30分程度でしてもらい、ゼミのメンバー全員で討議する。
- 成績評価方法(総合)** 論文作成への布石となる授業内での発表内容、論文作成に向けて取り組む姿勢、仕上がった論文を評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室(教育 A354)

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	増田勉				

●授業の概要 課題に即して指導。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	増田勉				

●授業の概要 課題に即して指導。論文指導。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松谷緑				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	前田満				

●授業の概要 英語学についての課題研究を指導する。

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				



開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				

開設科目	課題研究	区分	演習	学年	修士2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	小粥良				